

平成 2 6 年度
神戸大学附属図書館年次報告

平成 2 7 年 7 月

編集：神戸大学附属図書館評価委員会

＊附属図書館ホームページ掲載＊

<http://lib.kobe-u.ac.jp/www/>

刊行のご挨拶

附属図書館長 野海正俊

大学図書館はネットワーク等の情報基盤と並んで、高等教育機関における学術情報基盤として、大学に不可欠の本質的な機能とサービスを提供している。教育研究に必須のインフラであるがゆえに、大学図書館は環境の変化に左右されない安定したサービスを提供することが必要である。

しかし、電子ジャーナルの包括契約に象徴されるように、大学図書館が収集・整理・提供する学術情報の様態はここ十数年でドラスティックな変化を遂げつつあり、これに対応して学術情報は自然科学や医学系を中心に電子媒体へと変換し、大学図書館の役割もキャンパス全体で学術情報への‘アクセス’を確保する電子図書館的機能へと大きくシフトしている。

一方、大学図書館が積極的に教育に関与することが求められる時代となっている。平成 24 年の中央教育審議会答申や平成 22 年の科学技術・学術審議会（学術情報基盤作業部会）の審議のまとめでは、学修支援のための大学図書館の整備に言及し、情報リテラシースキル等の養成の観点から、図書館が教育課程により一層関与することを求めている。折しも、国立大学における機能強化は、教育改革の課題として、国際的な視野と自ら課題を発見・解決するアクティブな学修姿勢を有する学生の養成を求めている。

本学附属図書館は、ラーニングコモンズの設置や学修支援活動の充実など、従来の図書館資料の提供を超えるサービスの提供につとめて、このような要請に応えるべく図書館機能の刷新を行っている。電子ジャーナルについても、全学的な合意を図りながら、共通経費などの予算措置を行い、学術情報への安定したアクセスを確保してきた。

本報告書では、附属図書館がこうした事業を通してサービスの充実を行っている「動」の面と、社会科学系を中心とするコレクション構築の側面から、文理融合の総合大学として戦前の神戸高商以来の伝統を踏まえた着実な運営を行っている「静」の両面を、統計的なデータを踏まえて詳細に記述している。

図書館に限らず、大学における事業の評価のためには客観的な数値やエビデンスが不可欠である。本報告書は利用者サービス、コレクション構築、電子図書館事業、情報リテラシーなどの主要な図書館事業について、必要な統計データを揃えるとともに、それぞれの数値について自己評価を記載し、大学内外に対する説明責任を果たすことを意図している。

この報告書を通して、より多くの方に、学術情報基盤としての附属図書館の事業についてご理解頂けることを願うとともに、今後の図書館運営について忌憚のないご意見を頂ければ幸いである。

平成26年度神戸大学附属図書館年次報告

刊行のご挨拶

<u>1. 平成26年度の取り組みの概要</u>	p. 1
--------------------------	------

2. 学習・教育支援

(1) 開館サービス	p. 5
(2) 学生用資料整備	p. 7
(3) 資料提供サービス	p. 8
(4) 学生参加型及び学生との協働の取組	p. 11
(5) 情報リテラシー教育の推進支援	p. 14

3. 学術研究支援

(1) 研究用資料の整備	p. 18
(2) 電子的情報基盤の整備	p. 20
(3) 蔵書目録データベースの整備	p. 24
(4) 資料の保存	p. 25
(5) その他の研究支援サービス	p. 26

4. 社会連携・情報発信

(1) 一般市民への資料提供サービス	p. 27
(2) 震災文庫	p. 28
(3) 電子図書館システムによる情報発信	p. 30
(4) 機関リポジトリによる情報発信	p. 31
(5) 国際連携	p. 33
(6) 大学文書史料室	p. 34

5. 管理運営等

(1) 図書館組織と運営	p. 40
(2) 事務組織と人事管理	p. 41
(3) 予算及び財務会計業務	p. 45
(4) 施設整備・システム整備	p. 47
(5) 図書館界での諸活動	p. 49

<付録>

達成度評価	p. 51
達成度評価特記事項	
達成度評価表	
基本統計表	p. 55
蔵書・受入等の現況（各館室別）	
サービス業務の現況（各館室別）	
電子的情報サービスの現況	
図書館組織図・事務組織図	p. 59
附属図書館諸会議（議題一覧、委員名簿）	p. 60
附属図書館予算・決算表（運営経費、資料費）	p. 67
附属図書館活動日誌	p. 69

1. 平成26年度の取り組みの概要

◆学習・教育支援

(1) 開館サービス

本年度の開館日数は、工事などによる臨時休館がほとんどなかったため各館で前年度より増え、全館合計では44日増加した。入館者数は通常開館、夜間開館、日曜開館ともにほぼ前年度並みであった。年間総入館者数は約95万人で、前年度と比べ1%の微増だったが、1日あたりの平均入館者数は前年度より若干減少しており、次年度以降の動きを注意深く見ていく必要がある。開館時間拡大の要望に対しては、まず開館時間帯、休館日などの情報を一層広くわかりやすく伝える工夫をし、その上で、ニーズ・利用状況・経費面から現行サービスも含めた検討を加え、改善をしていく必要がある。

(2) 学生用資料整備

各館室の学生用資料整備は図書館予算から各館室に配分した経費と各館室のサービス対象部局から拠出された経費を合わせて実施されている。平成26年度の図書館予算は、全学運営費交付金の減額に伴い前年度より1.3%減の59,220千円とした。また、平成25年度に整備した学生用図書の選定評価を実施し、構成と利用の面で選定が適切に行われたことが確認された。今後も教育・学習活動の支援のため現行の予算規模の維持を目指すと共に、選定評価についても現状の利用面の評価に他の評価視点を加え、PDCAサイクルの強化を検討する必要がある。

(3) 資料提供サービス

学生への年間貸出総冊数は約25万冊に達し、引き続き最多冊数を更新中である。要因としては、前年度に開始した図書利用促進の取組をさらにバージョンアップし、全館規模に広げたことがあげられる。年間約30回のテーマ図書展示を各館室で実施し、展示に合わせた図書紹介のツイッター発信も前年度以上に活発に行った。全学デリバリ（図書館間配送）サービスが定着したこと、迅速かつ地道な選書活動を継続していることと合わせ、三つの要素が相互にうまく作用しあって貸出冊数の伸びにつながっている。厳しい財政状況の下ではあるが、これまで培ってきた選書やデリバリの体制を維持しつつ、授業と連動する方向で、利用促進の取組をより積極的に進めていかなければならない。

(4) 学生参加型及び学生との協働の取組

平成26年度より「サービス企画WG」を組織し、「情報基礎」の講義およびガイダンスを基軸とした既存の事業に加え、新たな学習・教育支援体制の構築を模索している。各館に設置されたラーニングコモンズ（LC）において、「協同学修シリーズ」と題したイベントを3回開催し、各回10～20名の参加があった。全学組織であるLC運用準備委員会では、今後のLC活用を学生とともに考える「神大なんでも計画」を計4回実施し、各回約15名の参加があったが、その運用にも参画した。その他「手作りPOPワークショップ」「クイズラリー」といった学生参加型のイベントを実施し、好評を得ている。

(5) 情報リテラシー教育の推進支援

全学共通教育必修科目「情報基礎」では、1コマ（90分）を図書館職員が担当し、計23回の講義を行い、約2,700名が受講した。ガイダンス・オリエンテーションは、情報リテラシー係を中心に、情報リテラシー教育支援WGメンバーが担当し、計159回、2794名が受講。他に英語論文執筆ワークショップを開催し、101名が参加した。また、学習支援の一環として、パスファインダー「授業資料ガイドKULiP」の運用を新たに開始した。広報は、メールマガジンの発行に加え、公式ツイッターを活用し、情報共有の輪を広げつつある。ホームページについては、スライドパネルの活用を始め、親しみやすく、

宣伝効果も高いデザインの構築を目指している。

◆学術研究支援

（１）研究用資料の整備

「教育研究基盤資料整備費」3.24 億円が措置され、電子ジャーナル及びデータベースの提供維持及び 20%の外国雑誌購読経費補填を実施した。しかし、平成 28 年度以降の同整備事業の維持については、値上げ及び為替変動による価格高騰のため補填率の見直し等の検討が必要となっている。

当館の外国雑誌センターは、その所在する社会科学系図書館の ILL の年間受付件数が全国大学のトップレベルにあり、わが国の学術情報流通基盤において一定の役割を果たしているといえるが、今後もその役割を維持するために、限られた予算をより有効に利用することが必要である。

（２）電子的情報基盤の整備

平成 26 年度末における電子ジャーナル購読数は 24,128 タイトル、総ダウンロード数は教育研究基盤資料整備事業によるもので約 105 万件と、総体として非常によく利用されており、必須の教育研究基盤資料となっている。附属図書館審議会答申をうけ、平成 19 年度以降、全学経費を投入して学術情報基盤の維持を図ってきたが、平成 25 年以降の急激な円安により購読経費は答申に示された上限額を一気に突破する勢いである。平成 26 年度については従来水準を維持してはいるが、円安が更に進行していることに加え平成 27 年 10 月からは海外電子配信への消費税課税が始まるなど状況は厳しくなる一方である。

（３）蔵書目録データベースの整備

目録遡及入力の実績は、外部委託による入力（電子図書館事業経費：4,500 千円）と館員による研究室からの返納図書等を合わせ約 3 万冊で、遡及入力総数は約 156 万冊となった。全蔵書の 84%が OPAC（オンライン目録）で検索できるようになっており、残る未入力冊数は 59 万冊で全蔵書の約 16%にあたる。このうち研究室配置を除く各図書館室配置図書については、和・洋古書、漢籍などの特殊資料と製本雑誌を除いて、第 2 次中期計画期間中（平成 22～27 年度）に入力を完了することを目標に遡及入力計画を進めている。

（４）資料の保存

貴重資料の保存対策として「新聞記事文庫」の原本の脱酸処理と修復製本 1 冊とマイクロフィルムの修復・複製 3 リールを行った。収容スペース狭隘化解消のため、「資料収容力確保策の見直し」（平成 24 年度制定）にもとづいて資料の廃棄をすすめている。平成 26 年度は全館室で重複資料等、計 44,467 冊の廃棄を行ない、廃棄冊数は平成 25 年度の約 1.8 倍となった。

（５）その他の研究支援サービス

図書館相互利用（ILL）について、全体として減少傾向にあるが、国立国会図書館デジタル化資料送信サービス開始の影響で、複写依頼が増加している。社会科学系図書館は、複写は全体の約 39%、貸借は約 55%を受付ており、全学の中で ILL 受付の大きな部分を担っており、同館が人文社会科学系の外国雑誌センター館としての責務を果たしていることがわかる。外部機関との提携においては、アジア経済研究所図書館との相互利用、国立国会図書館の図書館向けデジタル化資料送信サービス実施など、国内外の図書館との協力連携・研究支援に貢献している。

◆社会連携・情報発信

（１）一般市民への資料提供サービス

総合・国際文化学図書館と海事科学分館において一般市民への貸出サービスを実施しているが、平成 26 年度の利用登録者数は前年度より 12 名増加した。貸出冊数は前者において前年度の 12%増であり、後者においては 43%増であった。附属図書館とその所蔵資料を広く知らせる機会として例年行っている資料展について、本年度は震災文庫を取り上げて第 1 期・第 2 期に分けて実施し、人と防災未来センターとの協力や学生の授業の成果物との合同展示など、新たな協力体制を含んだ展示内容となった。

（２）震災文庫

震災 20 年の節目を迎えるにあたって、震災資料アーカイブの先がけとして注目され、メディアをはじめ様々な方面から取材・見学があった。所蔵資料総数は 5 万 2 千件を超え、震災文庫データベースへの本年度のデータ入力 は 3,819 件、レコード総数は 27 万 8 千件を超えた。また、HP へは約 2 万件のアクセスがあった。視聴覚資料のメディア媒体変換も進めており、本年度は VHS テープ 34 点が完了した。媒体変換は優先順位を決め継続して行っているが、作業完了までには数年間かかる見込みである。

（３）電子図書館システムによる情報発信

平成 11 年より「神戸大学電子図書館システム」によるデジタルアーカイブ構築を行っており、「震災関係資料」、「経済関係資料」、「学内研究成果」を 3 本柱に事業を推進している。「経済関係資料」では「新聞記事文庫」の電子化公開を進めている。本年度は科学研究費補助金が不採択だったため、電子化は約 1,500 記事にとどまったが、累計約 29 万記事にのぼり、その規模の大きさと希少性から高い評価を得ている。アクセス数（約 6 万 4 千件）は、継続してデジタルアーカイブ中トップである。引き続き計画的に電子化を進め、戦前期の完成を目指したい。「学内研究成果」の博士論文では平成 25 年 4 月以降の学位授与分についてリポジトリからのインターネット公開が原則となった。前年度学位授与分の博士論文について、非公表・公表延期が決定している論文以外はリポジトリにて全文公開した。

（４）機関リポジトリによる情報発信

平成 18 年度に稼働を始めた「神戸大学学術成果リポジトリ(Kernel)」も 9 年が経過し、比較的順調に成長を続けている。特に学内紀要のバックナンバーのリポジトリ公開について照会し収集に努めた成果により、平成 26 年度は 3,588 件登録し総コンテンツ数は 22,088 件、年間ダウンロード数は約 102 万件となった。『Kernel』通信の発行、ダウンロード数お知らせメールは継続して行っているが、今後もより一層学内での認知度を高めるための広報活動が重要である。また神戸大学研究者紹介システム「KUID」との連携は手作業による論文へのリンク付与にとどまっており、今後の連携方法が課題となっている。

（５）国際連携

平成 26 年度も韓国海洋大学校図書館との協力協定にもとづく職員交流を行った。今回は本学より職員 3 名が渡韓し、4 日間にわたって、特に本学での設置が迫っているラーニングコモンズその他、サブジェクト・ライブラリアン制度や学生アシスタント雇用といった本学において関心の深いテーマについて、韓国での動向を調査した。同館とは平成 21 年度以来連続して相互に職員を派遣しあっているが、今後もテーマを設定して交流を行うことが重要と考えられる。

（６）大学文書史料室

政令指定機関としての法的義務を全うするため、法人文書等の移管受入れ、目録入力、利用請求処理、展示活動、レファレンス、研修、電子化事業、内閣総理大臣への状況報告、見学受入れ等を実施すると共に、本学記念事業に協力して小冊子作成、展示開催、胸像案内板作成などを行い、本学広報及び同窓会活動に協力して広報誌・同窓会誌への寄稿を行った。なお、展示活動では、例年 4 回実施の展示を 8

回実施して昨年度の来場者数を 600 名以上も上回った。また、レファレンスに注力し 702 件（昨年比 2.1 倍）の照会に対応した。今後の緊要な課題としては、附属学校閉校及び学舎改修工事に伴う大量の臨時移管への対応、書庫収蔵スペースの深刻な狭隘化への対応が挙げられる。

◆管理運営等

（１）図書館組織と運営

平成 25 年 4 月より部局長経験者である釜谷武志館長（人文学研究科教授）がその任に当たっている。3 名の副館長の役割分担も平成 25 年度より継続している。附属図書館運営委員会は 4 回開催し、懸案事項である平成 27 年度以後の教育研究基盤資料整備事業の方針について、各部局等の意見、学内外の諸事情を考慮しながら策定を進め、平成 26 年 7 月 10 日の部局長会議に於いて、平成 27 年度の予算確保、平成 28 年以降の方針について承認された。附属図書館研究開発室は教育研究支援部会が設置から 2 年目を迎え、懇談会や個別の助言を通じた附属図書館の学修支援活動への寄与が、より顕著に認められた。

（２）事務組織と人事管理

平成 26 年 5 月現在、附属図書館事務部は 2 課 18 係、定員 48 名、非常勤職員 36 名の 84 名となっており、平成 26 年 4 月に定員職員 2 名を新規採用した。経済経営研究所図書係は定員 3 名を配置、大学文書史料室は定員 1 名、非常勤職員 3 名を配置している。国立情報学研究所等の主催する各種研修、主題専門知識の研修等に職員を派遣し、スキルアップに努めた。また、係横断的なワーキンググループを組織し業務の合理化を図るとともに、雑誌製本、図書装備付納品、目録遡及入力、時間外開館、約 41 万冊の資産点検等をアウトソーシングし、業務の軽減を行った。

（３）予算及び財務会計業務

教育研究基盤資料整備費として 3.24 億円の財源を確保し、24,128 誌の電子ジャーナルと 34 種のデータベースの提供を維持した。経常運営費及び経常事業費の予算総額は前年度より 6,340 千円 1.9%減額となったが、平成 27 年度も経常経費の減額があり、引き続き効率的な予算執行の必要がある。図書資産の管理としては、資料収容スペースの確保のため集中的に資料整理作業を実施し、図書資産点検及び点検時不明となっている資料の追跡調査、不明後 3 年以上経過している資料や重複資料等の除却を実施した。

（４）施設整備・システム整備

人文科学図書館と社会科学系図書館に LC を設置済だが、平成 27 年度には総合・国際文化学図書館を含む鶴甲 1 地区に LC を設置する。更なる学習支援機能の強化のため、自然科学系図書館での LC 設置計画を推進する必要がある。学習環境の整備や安全衛生環境の改善については緊急性と必要度の高いものを実施した。図書館システムについては、平成 28 年度の図書館システムのリプレースに向けて、サービスの継続的な展開を念頭に、導入仕様を決定し、調達手続きを進める。

（５）図書館界での諸活動

国立大学図書館協会西ブロック（近畿地区）の監事館を務め、総会準備等に携わり円滑な運営に努めている。兵庫県図書館協議会では平成 25 年度に引き続き、会長館、事務局として協議会の運営にあたった。国立情報学研究所等が開催する 9 つの研修や講習会に、講師を計 13 名派遣した。図書館諸団体の活動・運営に貢献するのみならず、参加する職員の資質向上につながるものであり、今後も推進が期待される。

2. 学習・教育支援

(1) 開館サービス

《開館状況》

		総合・国際	社会科学系	自然科学系	人文科学	人間科学	研究所	医学分館	保健科学	海事分館
通常期	平日	8:45-21:30	8:45-21:30	8:45-21:30	8:45-20:00	8:45-21:00	8:45-17:00	8:45-21:00	8:45-21:00	8:45-20:00
	土曜	10:00-18:00	10:00-19:00	10:00-18:00	10:00-18:00	10:00-18:00	休館	9:00-17:00	10:00-18:00	10:00-18:00
	日曜	休館	10:00-19:00(注1)	休館	休館	休館	休館	休館	休館	休館
休業期	平日 17:00まで 土日休館	通常期と同じ	平日 17:00まで 土日休館	平日 17:00まで 土日休館	平日 17:00まで 土日休館	通常期と同じ	通常期と同じ	平日 17:00まで 土日休館	平日 17:00まで 土日休館	平日 17:00まで 土日休館
試験期 特別開館	日祝 10:00-18:00	祝 10:00-19:00	日祝 10:00-18:00	平日 21:00 まで延長 日祝 10:00-18:00	日祝 10:00-18:00	通常期と同じ	通常期と同じ	通常期と同じ	通常期と同じ	平日 21:00 まで延長 日祝 10:00-18:00

(注1) 毎月第1日曜日は除く

- ・平成26年度の開館時間帯は上表のとおりである。
- ・開館日数は、工事などによる臨時休館がほとんどなかったために各館で前年度より増え、全館合計では44日増加した。
- ・館内整理のための定例休館は、人文科学図書館で、原則月1回・半日の休館を前年度に引き続き試行した。海事科学分館では、休館日（半日）の開館時間を13時から12時に1時間早める試行を8月から開始した。
- ・試験期特別開館については、人文科学図書館と海事科学分館で、開始日を3日前から6日前に延長する試行を、前年度に引き続き実施した。

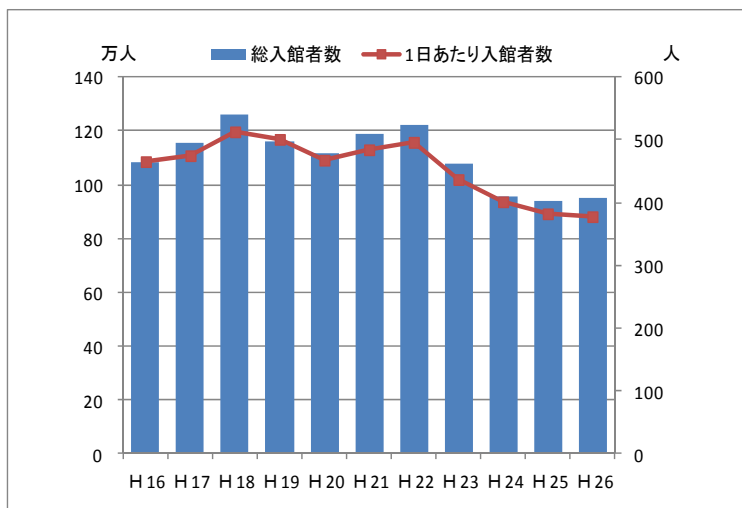
《入館状況》

＜入館者数経年推移＞

平成16～26年度の総入館者数および1日あたりの入館者数の経年推移を右に掲げた。

平成20年度の減少は総合・国際文化学図書館改修工事の影響による。23・24年度は、入退館管理システム導入、平成25年度は社会科学系図書館改修工事の影響により減少している。

＜入館者数の推移＞



<全館入館者数>

	総入館者数	1日あたり入館者数
H26/H25	1.01	0.99
H25 年度	940,137	381.4
H26 年度	948,026	377.9

- ・表は、全館の入館者数について平成 25 年度と比較したものである。
- ・総入館者数は若干（1%）増加したが、1 日あたり入館者数は 4.3 人減少した。

<通常開館>

平日 8:45～17:00 時間帯の 1 日あたりの入館者数

	総・国	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
H26/H25	0.94	1.16	0.95	1.00	0.95	1.36	1.01	0.91	0.99	0.99
H25 年度	1055.3	549.6	419.9	259.1	295.1	16.9	284.1	195.4	103.5	353.4
H26 年度	994.4	635.4	396.9	259.6	281.5	22.9	287.9	177.2	102.5	351.2

- ・表は、平日 8:45～17:00 の時間帯の 1 日あたりの入館者数を平成 25 年度と比較したものである。
- ・社会科学系図書館は改修工事による減少から回復し、前年度に比べ 16%増加したが、改修前（平成 24 年度）の数値（695.3 人）までは戻らなかった。一方、総合・国際文化学図書館が減少しているのは、社会科学系図書館改修工事の影響により前年度一時的に増加していた利用がなくなったためと考えられる。
- ・保健科学図書室での減少は、部局の省エネルギー対策の一環として空調運転が制限されていることが影響している。

<夜間開館>

平日夜間（17:00～）時間帯の 1 日あたりの入館者数

	総・国	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
H26/H25	0.89	1.10	0.91	1.01	0.90	—	1.05	0.92	1.07	0.98
H25 年度	200.9	112.1	121.0	55.1	53.9	—	84.0	37.4	13.1	85.2
H26 年度	178.9	123.4	109.7	55.7	48.4	—	87.9	34.5	14.0	83.7

- ・通常開館と同様に、社会科学系図書館は増加、総合・国際文化学図書館は減少した。
- ・全体として減少しているが、試験期開館の期間延長を試行中の人文科学図書館と海事科学分館では増えている。

<土曜・日祝開館>

土曜・日祝日の 1 日あたりの入館者数

	総・国	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
H26/H25	0.88	1.22	0.91	1.17	0.94	—	1.02	1.18	0.83	1.08
H25 年度	182.5	236.0	167.6	95.8	54.0	—	96.6	53.5	35.7	130.7
H26 年度	160.8	287.1	153.0	112.0	50.5	—	98.7	63.2	29.8	141.5

- ・ 通常開館と同様に、社会科学系図書館は増加、総合・国際文化学図書館は減少した。
- ・ 館によって増減はあるが、全体として前年度より 8%増加した。試験期によく利用された結果と考えられる。

＜24 時間開館＞

- ・ 自然科学系図書館と医学分館で実施している。
利用者数は右表のとおりである。
- ・ 両者の利用者数に大きな開きがあるのは、医学分館では自習のために学部 2 年次以上の学生が利用しているのに対し、自然科学系図書館では、主に院生が雑誌論文の複写のために入館するといった利用が中心となっているからである。
- ・ 自然科学系図書館の利用数は、電子ジャーナルの整備が進むに従い年々減少している。セキュリティ面での不安もあり、制度の見直しを考える時期にきている。

	自然系	医学
H26/H25	0.96	0.98
H25 年度	161	18,221
H26 年度	155	17,884

◆評価と課題

平成 26 年度の総入館者数は 94.8 万人で、平成 25 年度と比べて、1% (約 8,000 人) の微増だった。入退館管理システム設置の影響による入館者数の減少は落ち着いたものの、1 日あたりの平均入館者数は、前年度より若干減少しており、次年度以降の動きを注意深く見ていく必要がある。

本年度は、社会科学系図書館のリニューアルに伴い、附属図書館として二つ目のラーニングコモンズが設置された。静寂な雰囲気の漂う歴史的建造物の中にありながら、テーブルを囲んで議論やグループ学習をする学生の姿が多くみられ、新しいアクティブラーニングの場として受け入れられていると評価できる。また、この様に自由に会話をしながら学習できるスペースに一定のニーズがあることも確認できた。今後はスペースの提供にとどまらず、ラーニングコモンズを核として学生の自主的・主体的な学びを支援する活動を展開し、学内利用者を惹きつけるよう努めることが必要である。

開館時間については、「学生生活実態調査」や「利用者アンケート」で拡大の要望が寄せられている。まずは開館時間帯、休館日などの情報が利用者に一層届きやすくなるよう、広報の方法について工夫を行うことが課題である。その上で、ニーズ・利用状況・経費面から、現行サービスも含めて拡大、縮小の検討を慎重に行い、可能な部分から改善していく必要がある。

平成 28 年度には、神戸大学教育改革に伴うカリキュラムの見直しやクォータ制の導入が予定されている。開館サービスに大きく係わる部分であるだけに、早い時期から準備をしていかなければならない。

(2) 学生用資料整備

館室別の蔵書数、受入図書冊数、資料費総額等は別添基本統計 (p 55) の通りである。

＜資料費予算と重点整備＞

- ・ 各館室の学生用資料の整備は、図書館予算 (図書館セグメント) から各館室に配分した経費と、各館室のサービス対象部局から拠出された経費 (部局セグメント) を合わせて実施することとなっている。
- ・ 平成 26 年度の図書館予算は 59,220 千円であった。これまで附属図書館では、学生用資料整備を教育支援の最重要事項として位置づけ、減額せずに確保していたが、本年度は全学運営費交付金の減

額に伴い 1.3%の減額とした。

- ・ 平成 18 年度より震災文庫資料費（500 千円）は独立した予算項目となっている。
- ・ 平成 16 年度より実施している装備付納品を、引き続き総合・国際文化学図書館（1,189 冊）、社会科学系図書館（1,940 冊）、自然科学系図書館（1,653 冊）、人間科学図書館（458 冊）、保健科学図書室（206 冊）において実施し省力化・合理化を進め、その人的資源を目録遡及入力作業等に投入した。

＜各館室の整備状況＞

H26 受入	総合	国際	社会	自然	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
図書冊数	3,418	352	3,156	2,118	654	1,247	213	848	1,064	1,298	14,368
雑誌種数	105	11	31	133	23	438	0	65	101	126	1,033

- ・ 各館室では配分された資料費をもとに関係部局のシラバス掲載図書の購入をはじめ参考図書、授業関連図書等の資料整備を行った。

＜選書体制と収集方針＞

- ・ 平成 16 年度に「学生用資料整備計画大綱」（附属図書館運営委員会決定）に基づき各館室図書委員会にて学生用図書資料の範囲、選定体制・方法等の整備計画の策定を行った。
- ・ 総合図書館では「総合図書館学生用資料整備計画」を策定するとともに学生用資料整備を推進するため「総合図書館資料選定委員会」（構成委員は職員）を立ち上げて具体的な選書スケジュール、選書手順などについて検討し、資料整備を進めた。
- ・ また、総合図書館では、学生の声を資料選定に反映させるための試みとして、「学生選書ツアー」（学生が図書館に置いてほしい図書を、書店の店頭で直接手にとって内容を確認しながら選定するというもの）を平成 22 年度より実施している。平成 26 年度は 10 月 24 日、ジュンク堂書店三宮店において、午前の部（10：00～）と午後の部（14：00～）の 2 回に分けて実施し、あわせて 15 名の学生（学部生 13 名、院生 2 名）が参加して選書を行い、181 冊を購入した。学生が必要とする資料の一層の充実を図るため、今後も、こうした取り組みを継続する方針である。

＜選書評価＞

- ・ 平成 25 年度に整備した学生用図書の選定評価を実施し、構成と利用の面で選定が適切に行われたことが確認された。（平成 26 年度第 4 回附属図書館運営委員会で報告）

◆評価と課題

平成 17 年度以降、学生用資料費の図書館予算が大幅に増額され、概ね要求は満たされたものとなっているが、本年度は前年度比 1.3%の減額となった。翌年度以降も引き続き教育・学習活動のため、より適切な資料選定を行うよう留意する必要がある。

平成 18 年度から、前年度に整備した学生用図書について、利用状況の分析等による収集資料の評価を開始し、平成 21 年度からは、各館室とも共通したフォーマットによる選定評価を行っている。

（３）資料提供サービス

貸出およびデリバリ図書配送冊数等の詳細は、付録「基本統計表」（p 56）のとおりである。相互利用サービスについては、3（５）に後述する。

《貸出サービス》

運用面について、以下の変更を行った。

延滞時の貸出停止ルールの変更（平成 26 年 10 月から）

- ・延滞資料がある場合、学内のすべての館で新たな貸出、延長はできない。
- ・延滞資料返却後、貸出停止は直ちに解除する。

返却日事前通知メールの送付設定変更

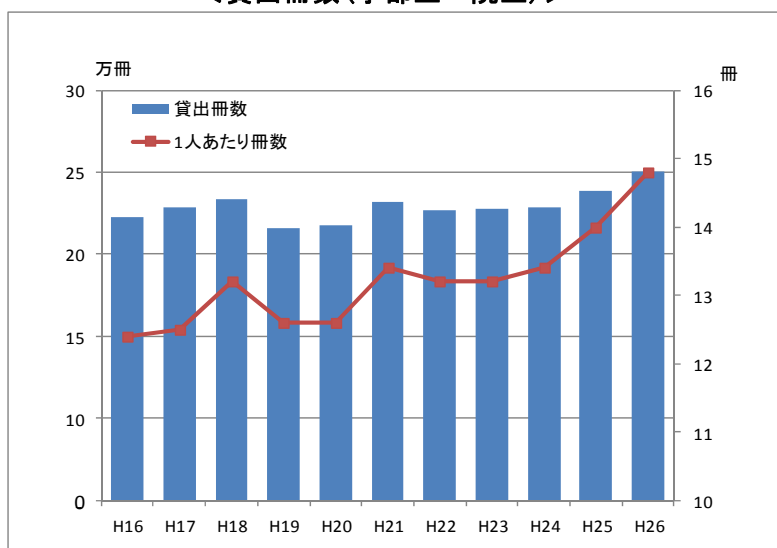
- ・学部生・院生は、「希望者のみへ送付」から「初期設定は全員へ送付」に変更した。（平成 26 年 10 月から）
- ・卒業生についても、希望者に送付する扱いを開始した。（平成 27 年 3 月から）

<貸出冊数（学部生・院生）経年推移>

平成 16 ～26 年度の経年推移を右に掲げた。

- ・本年度の貸出冊数は、約 25 万冊で、前年度より約 1.2 万冊（5%）増加した。
- ・学生 1 人当たりの貸出冊数も 14.8 冊になった。

<貸出冊数(学部生・院生)>



<館室別学部生・院生貸出冊数>

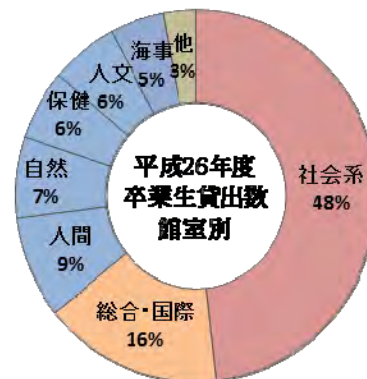
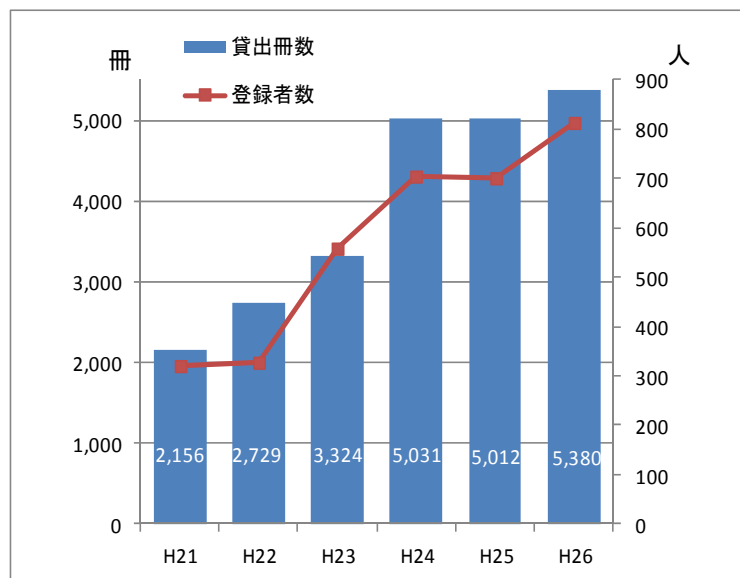
	総・国	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
H26/H25	0.99	1.04	1.04	1.12	1.09	0.93	1.12	1.10	1.17	1.05
H25 年度	72,925	57,018	38,077	15,249	21,467	609	6,272	12,341	14,712	238,670
H26 年度	72,425	59,223	39,630	17,105	23,472	565	7,038	13,545	17,241	250,244

- ・海事科学分館では、英語多読図書コーナーの図書が授業と連動してよく利用され、増加に結びついた。
- ・人文科学図書館では、書庫内改修工事に伴う利用制限を実施した。しかし貸出冊数や期間を一時的に拡大して対応したため、前年度よりもむしろ増加した。

<卒業生及び修了者に対する貸出>

本学卒業生及び修了者への貸出サービスは、平成 21 年 3 月から始まった。前年度は、利用が多い社会科学系図書館の改修工事が影響し、貸出冊数・登録者数とも横ばいだった。本年度は再び増加に転じ、貸出冊数は 10%、登録者数は 20%増加した。社会科学系図書館以外では、各館室へ利用が分散する傾向にある。

<卒業生貸出の推移>



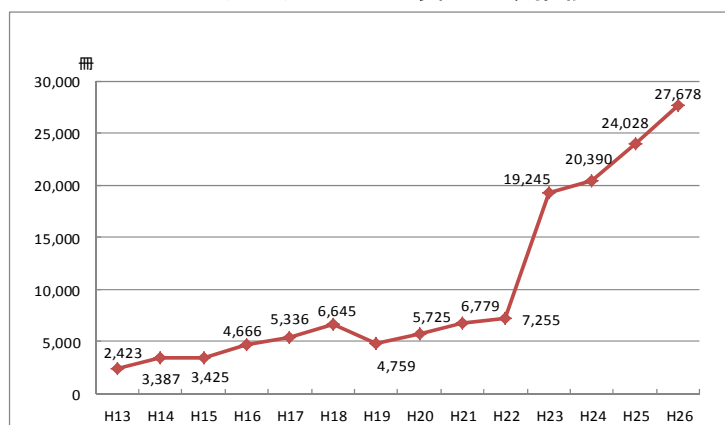
《デリバリ（図書配送）サービス》

<デリバリサービス貸出冊数推移>

デリバリサービスは、平成 12 年度後期に院生、教職員（異キャンパス間には学部学生も）を対象に始まった。

平成 23 年度に激増したのは、六甲台キャンパス内の学部学生にサービスを拡大したことによる。本年度貸出数は、前年度から更に 3,650 冊（15%）増加し、順調に伸びている。貸出サービスのひとつとして定着した感がある。

<デリバリサービス貸出冊数推移>



<館別デリバリ発送・受取冊数>

	総・国	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事
H26/H25	1.11	1.17	1.05	1.32	1.06	—	1.18	1.41	1.10
H25 年度	12,008	10,327	5,081	7,325	7,044	—	965	1,489	3,817
H26 年度	13,319	12,122	5,344	9,643	7,483	—	1,141	2,101	4,203

- ・ 上の表は、平成 26 年度に他館室へ発送した冊数と他館室から受け取った冊数を館別に合算し、平成 25 年度と比較したものである。全館で前年度より増加している。

<附属中等教育学校への図書貸出サービス>

平成 24 年度から総合・国際文化学図書館、人間科学図書館の 2 館が所蔵する図書を附属中等教育学校へ貸出するサービスを行っている。これは「中等教育学校図書室」に後期課程生徒（高校生）向け図書の整備ができる平成 28 年度まで、5 年間限りの特別措置として実施しているものである。

本年度は人間科学図書館からの貸出だけとなったが、中等教育学校の図書整備が進んだためなのかは判断できない。残り2年間の動きを見守りたい。

貸出冊数		単位：冊		
	H24 年度	H25 年度	H26 年度	合計
総合・国際	134	11	0	145
人間	7	25	7	39

◆評価と課題

平成26年度の学部生・院生への貸出総冊数は250,244冊で、平成13年度以来最多であった前年度の冊数をさらに上回った。非常によく利用されていると評価できる。

大学全体の財政状況が厳しさを増す中、本年度は学生用図書資料費も減額を余儀なくされたが、そのような状況下でも貸出冊数が伸びた主な理由として、前年度から開始した図書利用促進に繋がる各種の取り組みを、さらにバージョンアップし、全館的に展開したことがあげられる。

・全館共通テーマ展示（17回）

全館規模で共通テーマを設定し、各館で蔵書の展示を行った。

1回目（6月～）：レポート・論文の書き方

2回目（12月～）：先生のおすすめ本

・各館テーマ図書展示（14回）

自館の特色を生かした独自テーマを各館が設定し、蔵書を展示した。

人文科学図書館（10～11月）「留学」

総合・国際文化学図書館（10～12月）「いきものの本」

人間科学図書館（1～3月）「目指せ！プレゼンの達人」

社会科学系図書館（2～3月）「いつのことだか 2014年度をふりかえる」等々

・学生選書ツアーと連動したテーマ展示（2回）

総合図書館選書WGメンバーが学生選書ツアーと連動した展示を行った。

過去の選書ツアー選定図書からセレクトした展示（コメント付）

選書ツアーで選定した図書を、選んだ学生自身の手作りPOPと共に展示

（館員による「手作りPOPワークショップ」企画と連動）

さらに、各展示の開催に合わせ、ツイッターによる図書紹介を前年度以上に活発に発信した。

それに加え、全学デリバリ（図書館間配送）サービスが定着したこと、ニーズに迅速かつ的確に対応した選書活動を継続していること、これらの三要素が相互にうまく作用しあい貸出数の伸びに繋がっている。今後の展開としては、カリキュラムに対応した選書や、授業と連動した利用促進活動へ踏み込んでいけるかが鍵になる。大学のグローバル化の流れの中、海事科学分館の多読書コーナーや人文科学図書館ラーニングコモンズの英語学習用図書が多く利用されていることなどがヒントになるだろう。これまで培ってきた選書やデリバリの体制を堅持しつつ、図書利用促進の取り組みを一層強化していかなければならない。

（４）学生参加型および学生との協働の取組

《学修支援における取組》

附属図書館では平成26年度より「サービス企画WG」を組織した。同WGは、既設の情報リテラ

シー係および情報リテラシーWGによる「情報基礎」の講義およびガイダンスを基軸としたこれまでの活動の枠を超え、新たな学修および研究支援の方法を模索しようとするものである。平成 26 年度はその活動の重点を学修支援に置き、学生が自主的にアクティブラーニングを行うための仕掛けづくりを主な目標とすることとした。

また全学的組織としては、教育担当理事の元に「ラーニングコモンズ運用準備委員会」（以下「全学 LC 委員会」）が発足しており、附属図書館の職員もその委員となっている。こちらは学内各所にある既設のラーニングコモンズ（以下「LC」）および、平成 27 年秋に開設予定の鶴甲第一キャンパス LC を基軸に、全学の関連施設を含めて「神戸大学スタイル LC」と捉え、全学的な協働のもとに学修支援を行う体制を構築しようとするものである。

＜協同学修シリーズ＞

附属図書館においては既に情報基礎の講義（2（5）参照）において 1 コマを担当し、教育活動に携わっているところであるが、講義の外で行う広い意味での学修支援活動を「協同学修シリーズ」と名づけ、企画していくこととした。平成 26 年度は 3 回の同シリーズを開催した。

1. 「拡大版オフィスアワー テーマ『留学』」

（日程：10 月 8 日、会場：人文科学図書館 LC、参加：留学生担当教員 3 名、学生 12 名）

人文科学図書館 LC においては、毎週昼休みに外国人教員によるオフィスアワーが設定されている。これはその拡大版として、講義を受講していない学生等も参加可能なイベントとして開催された。「留学」をテーマに、これから留学したい学生の疑問不安に答え、また留学経験者の体験談などを情報交換できる場となった。

2. 「ライティングセミナー 答案・レポートを見せる×報告する×書く」

（日程：10 月 16 日、10 月 29 日 会場：社会科学系図書館 LC、講師：経済学研究科教授、参加：合計 27 名）

アカデミックライティングの初歩について、ほぼ同内容の講義が 2 度開催された。施設および時間の関係から、実際にライティングを行うところまでは実施せず、座学による講義となった。募集象は主に 1 年生としたが、幅広い学部・年次の参加者があった。終了後のアンケート回答からわかったことは、ライティングの指導を少なくとも大学初年次において行う必要があり、講義に取り入れられていない現状では、図書館が関与して講義外で行う余地があるということである。従って、ライティング支援に関する取組は今後も重要視されるべき事項であると考えられる。

3. 「その街のこども 劇場版」映画上映会

（日程：11 月 16 日、会場：社会科学系図書館グループ学習室、講師：国際文化学研究科教授、参加：25 名）

震災資料展の連動企画として開催された。映画上映後、講師をモデレータとしたディスカッション形式のフリートーク、および資料展・震災文庫の見学が行われた。スペース（会場）とコンテンツ（映画や展示）を複合的に提供することにより、震災に対する様々な思いを持つ人々が出会い、言葉を交わし、震災の記憶を若い世代へつなぐ場となった。

＜神大なんでも計画＞

（会場：国際文化学部生協学生ホールほか、参加：各回約 15 名）

全学 LC 委員会において、鶴甲第一キャンパス LC の設計段階から学生の意見を吸い上げ、また今後 LC を中心として行われる学生の自主的活動を促進する目的で、「神大なんでも計画」と題したワー

クショップを連続開催することになった。平成 26 年度は今後のシリーズ内容を決めるための準備回を含めて 4 回の同イベントを開催し、サービス企画 WG メンバーを中心とした図書館職員も企画運営に参加した。学生から出た意見は同委員会より、教育担当理事に報告された。

第 0 回 10 月 28 日「神戸大学をおもしろくするには」

第 1 回 12 月 1 日「LC 建設予定地」

第 2 回 12 月 22 日「夜のラーニングコモンズ」

第 3 回 2 月 6 日「神大アプリ」

<その他の企画>

1. 「手作り POP ワークショップ」

(日程：12 月 19 日、会場：総合・国際文化学図書館、参加：10 名)

「学生選書ツアー」(2 (2) 参照) の参加者を対象にしたもの。これまでも、選書された資料を展示する際に、手書きの POP を付したものが好評で、利用も増える傾向にあったため、手書き POP 作成のコツを職員が解説し、学生と職員の有志が、学生選書で集められた資料をわかりやすく推薦するカラフルな POP を作成した。ワークショップは好評のうちに終了し、また、学生選書資料の貸出増加に貢献した。

2. 「クイズラリー」

(日程：4 月 21 日～5 月 31 日、会場：総合・国際文化学図書館はじめ学内全館、参加：64 名)

総合・国際文化学図書館では平成 25 (2013) 年度より、主に新入生を対象に、図書館利用案内を手がかりにして館内をめぐり、OPAC 検索を交えたクイズに答えると景品がもらえるイベントを行っている。当初は同館のみを会場としたが、本年は同館でゴール後、学内の他の図書館を回るとさらに景品がもらえるルールにしたところ、附属図書館全館への訪問があった。

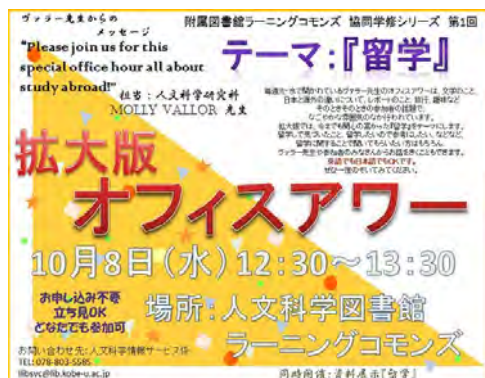
専門分野ごとの図書館が分散して設置されているという、本学の地理的な条件を活かしたイベントであり、新入生に多数の図書館を訪問するきっかけを作るものとなった。

◆評価と課題

協同学修シリーズは、既存事業の枠を超えて本学図書館が学生への支援をはじめるきっかけとなった。手作り POP ワークショップは、従来単発イベント的に行われた選書ツアーへの学生参加に、継続性を持たせる試みのひとつであった。

課題としては、より学生のニーズにそった取り組みを行うこと、また単発で行うのではなく継続性を持たせることがあげられる。また学生の自主的な活動へつなげていくことが必要である。そのためのひとつの方策として、学修支援のロードマップを作成し、ひとつひとつの学修支援をこれに位置づけて行っていくことが検討されている。

<協同学修シリーズの案内チラシ>



(5) 情報リテラシー教育の推進支援

＜情報リテラシー教育支援＞

- 平成 16 年度より設けられた全学共通教育必修科目「情報基礎」では、平成 20 年度より 1 コマ (90 分) が「情報の活用：レポート・論文作成のための情報リソース活用法」にあてられ、図書館職員が担当することになった。本年度は、5 月中旬～6 月下旬を中心に計 23 回 (補講・再履修を含む) 講義 (実習を含む) を行った。
- 平成 20 年度より情報リテラシー係と各館室のサービス係員から構成される「情報リテラシー教育支援 WG」を組織して、課題や理解度テスト (ちからだめし) など改訂し、WG メンバーで分担し講義を行っている。学部新入生全員に補講受講者等を加え、約 2,700 人が受講した。
- 基本となる図書館ホームページ上のサービス紹介をはじめ、レポート・論文作成の際に役立つ各種データベースの紹介、所蔵検索 OPAC (実習を含む)、CiNii Books (実習を含む)、各種 Web サービス等を中心とする内容で実施した。
- 次年度に向けて、授業内容やテキスト・課題・理解度テストの再検討を行った。

＜オリエンテーション、ガイダンス＞

- 情報リテラシー係を中心に、情報リテラシー教育支援 WG メンバーで以下のガイダンスを開催した。

名称	内容	時期	時間	会場	回数	参加者
留学生オリエンテーション	施設紹介、利用全般	4、10 月	10 分	六甲ホール	2	700
就職ガイダンス	情報収集、操作説明	7、10 月	10 分	六甲台講堂、六甲ホール	4	228
図書館ツアー	各館室の案内 資料の探し方、他	4、5 月	15～20 分	各館室	48	219
雑誌論文の探し方(自然科学編) 「国内編」と「海外編」	CiNii、JDreamⅢ、WoS 電子ジャーナル等	5 月下旬	70 分	自然科学系図書館	4	36
新 Web of Science : ESI+JCR 説明会	Web of Science ESI+JCR	5 月下旬	70 分	自然科学系図書館	2	12
雑誌論文の探し方(社会科学編) 「国内編」と「海外編」	CiNii、magazineplus、 WoS、電子ジャーナル 等	5 月下旬	70 分	社会科学系図書館	4	46
Lexis.com 説明会	Lexis.com	5 月下旬	70 分	社会科学系図書館	2	16
雑誌論文の探し方(人文科学編)	CiNii、WoS、電子ジャー ナル等	6 月上旬	70 分	人文科学図書館	2	12
ジャパンナレッジ Lib 説明会	ジャパンナレッジ Lib	6 月上旬	70 分	人文科学図書館	2	12
SciFinder 説明会	SciFinder	6 月中旬	90 分	自然科学系図書館	2	20
Westlaw International 説明会	Westlaw International	6 月下旬	70 分	社会科学系図書館	2	15
EBSCO 海外データベース説 明会	EBSCOhost	6 月下旬	70 分	社会科学系図書館	2	19

雑誌論文の探し方(人文科学編)	CiNii、WoS、電子ジャーナル等	7月上旬	70分	人間科学図書館	2	8
新 Web of Science : ESI+JCR 説明会	Web of Science ESI+JCR	7月上旬	70分	人間科学図書館	2	8
雑誌論文の探し方(保健科学編) 「国内編」と「海外編」	CiNii、医中誌 Web、PubMed, WoS 等	7月上旬	70分	保健科学図書室	2	46
雑誌論文の探し方(自然科学編) 「国内編」と「海外編」	CiNii、JDreamⅢ、WoS 電子ジャーナル等	10月下旬	70分	自然科学系図書館	4	41
新 Web of Science : ESI+JCR 説明会	Web of Science ESI+JCR	10月下旬	70分	社会科学系図書館	2	12
雑誌論文の探し方(社会科学編) 「国内編」と「海外編」	CiNii、magazineplus、WoS、電子ジャーナル等	10月下旬	70分	社会科学系図書館	4	21
SPEEDA 説明会 (主催:企業資料総合センター)	SPEEDA	10月下旬	90分	経済経営研究所	2	14
eol 説明会	eol	11月中旬	70分	社会科学系図書館	2	11
就活情報の探し方	OPAC、日経テレコン等	11月中旬	70分	社会科学系図書館	2	2
日経テレコン説明会	日経テレコン	11月中旬	70分	社会科学系図書館	2	9
雑誌論文の探し方(海事科学編)	CiNii、電子ジャーナル等	11月中旬	70分	海事科学分館	2	6
Web of Science 説明会	Web of Science	11月中旬	70分	海事科学分館	2	3
文献検索入門(職員対象)	CiNii、電子ジャーナル等	12月上旬	60分	医学分館	2	10
医中誌 Web・PubMed 説明会: (学部生・院生対象)	医中誌 Web、PubMed	12月上旬	70分	医学分館	1	7
オーダーメイド・ガイダンス	雑誌論文検索方法等 依頼内容を説明	4-1月	60~120分	国文・人間・ 社会・海事・保健等	52	1261
				計	159	2794

- Web of Science、Lexis.com、ジャパンナレッジ Lib、SciFinder、Westlaw International、EBSCOhost、SPEEDA、eol、日経テレコンの各データベース説明会は、ベンダーから外部講師を招いて実施した。その他は、情報リテラシー係職員、情報リテラシー教育支援WGメンバーが講師を務めた。
- 前期の新入生を含む利用者へは、各館室で図書館ツアーを集中的に実施した。
- 「情報の探し方ガイダンス」は、7館室で実施した。また、教員からの依頼によるオーダーメイド・ガイダンスも多数実施した。
- 実施会場は iMac 端末の設置場所とし、参加者が端末操作して実習できるようにしている。広い会場には、スクリーン、プロジェクター、スピーカーやマイク等を持ち込んで使用し、参加者が理解

しやすくなるように努めた。

- ・ ちらし・ポスターや、ホームページ上のお知らせなどに、情報リテラシー系のメールアドレスや図書館 HP の URL を組み込んだ QR コードを採用するなど、利用者が参加しやすくなるように工夫した。

<ワークショップ>

- ・ 前年度に引き続き、2月4日、附属図書館と丸善株式会社との共催により、大学院生や若手研究者を対象としたワークショップ「若手研究者のための英語論文セミナー」を開催した。参加者は101名、身分別では学部生・大学院生・研究生が約79%、教員が約21%であった。アンケート回答にも、「非常にわかりやすく、主旨が明確で、今後の執筆の参考となった」「これから大学院に進学するので、最初のステップとして基本を知れて良かった」等といった声が寄せられ、大変充実したものとなった。



<授業資料ガイド KULiP>

- ・ 図書館による学習支援の一環として、授業シラバスに沿った指定書や、授業内容に関連した資料を紹介する「シラバス型パスファインダー」として、「授業資料ガイド KULiP (Kobe University Library Pathfinder)」を新たに作成。前年度後期より試行、本年度より正式運用を開始した。本年度終了時点で、作成ガイド数は19となった。

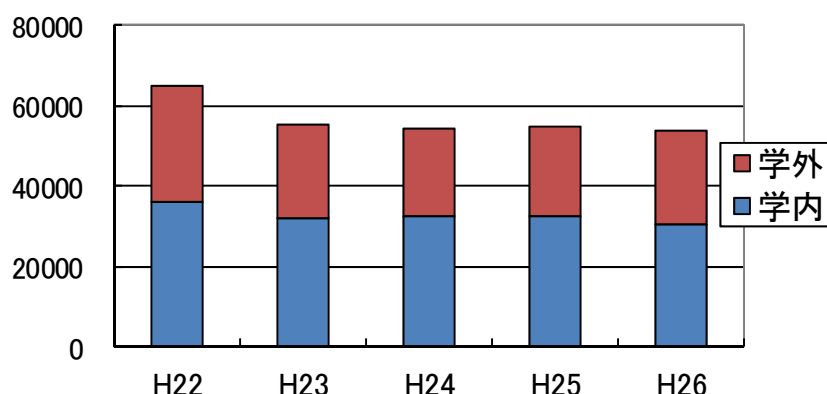
<広報>

- ・ 平成21年6月から開始した「神大図書館 NEWS」の普及を更に促進すると共に、ガイダンスやトライアル、図書館行事等、様々なニュースを発信して広報に活用した。1年間でNo.143～172の計30回発信した。
- ・ 前年度より運用を開始した公式ツイッターでは、速報性を重視した発信を心がけた。本年度終了時点でツイート数が2,700回弱、フォロワー数は1,700名強となり、着実に情報共有の輪が広がっている。
- ・ 上記に加えて、生協の携帯配信サービスをガイダンス等の広報に活用した。

<図書館ホームページの維持・更新>

- ・ 月平均アクセスは約54,000件となっている（月別アクセス数は別添統計（p58）のとおり）。
- ・ 図書館ホームページについては、求める情報に訪問者を効率的に導けるよう、恒常的に調整を図った。イベントや新サービスを告知するスライドパネルやバナーを活用し、親しみやすく、宣伝効果も高いホームページのデザインを目指した。
- ・ ガイダンスに際して作成した資料をホームページに順次アップした。また、各種情報のメンテナンス及び新着事項の掲載等を引き続き行った。

<図書館トップページ月平均アクセス数>



◆評価と課題

必修科目「情報基礎」は11年目に入ったが、滞りなく運営できた。「情報の探し方」等の図書館ガイダンスに参加できる利用者は、会場の狭小やテーマの専門性もあり、ある程度限られてくる。そのため、新入生全員を対象とした必修授業を担当することは、図書館にとって大学教育に直接的な貢献ができるだけでなく、図書館利用者の教育という面でも大きな効果を得ることに繋がっている。

授業の課題については、「テーマに従って検索した図書を実際に図書館で探す」という、より実践的な内容として、授業内容の定着を図っている。新入生にとっては、図書館に初めて足を運ぶ機会にもなり、その経験が新鮮なためか、良好な反応が授業後のアンケートにも多数うかがわれる。また、授業内容についても、冗長な説明箇所を整理し、中間クイズを設けるなどして、学生の理解度を増すと共に、授業中の注意力が散漫にならないよう工夫し、絶えず改善を施す努力を続けている。

「情報の探し方」等のガイダンスと、外部講師を招いてのデータベース説明会については、ほぼ前年並みの実施回数・参加人数となった。ただし、学生数から見ればガイダンスへの参加者数はまだ少なく、広報の工夫や、学生の授業日程を踏まえた開催時期・曜日・時間等の検討が常に必要である。参加者が端末操作して実習できるように、図書館の情報端末室を会場とし、場合によっては情報基盤センターや各部局の演習室などで実施する等の工夫をしている。複数会場での実施により、ガイダンス参加の機会や可能性を広げている一方、常設の会場を持たないため、実施毎に設営に手間がかかり、恒常的な講習会の日程を組みにくい、といった側面も抱えている。

熱心な受講者や教員から、オーダーメイド・ガイダンスの依頼は引き続き増加している。特に教員の依頼によるものは、1度開催すると翌年以降も申込のあることが多い。学生の2年次や3年次に学科・専修単位で毎年実施している例も複数あり、卒業までの履修・学習全体を通した情報リテラシー教育支援を考える上での一例として、今後も継続していく意義があるだろう。

学習支援の一環として新たに運用開始した「授業資料ガイド KULiP」は、今後の授業数増加と、学生・教員の両者に対する周知宣伝が必要である。単なるシステム構築に終わることなく、教員と密接に連携しながら「KULiP」を有効活用した授業モデルを模索・提示することにより、学生・教員双方にとって更に魅力ある機能を作り上げて行くことが重要である。また、こうした教員との連携業務が、やがては学習支援担当者一リエゾン・ライブラリアンとしての職員養成に資するであろうことが期待される。

図書館ホームページについては、最新の情報を掲載できるよう留意し、維持更新に努めた。しかし、現行ホームページは導入から既に一定の年数を経ているため、どうしてもデザイン面や機能面での陳腐化が避けられず、できるだけ早いリニューアルが必要である。新しいソーシャル・ネットワーク・サービスや様々なリソースを一括して検索できるディスカバリー・サービスの導入を踏まえたシステム更新等は、今後実現すべき課題である。

広報については、掲示物、ホームページやメールマガジン「神大図書館 NEWS」、生協の携帯配信サービス、更には公式ツイッターによる速報性を重視した広報も合わせて展開した。こうした様々な形態を組合せた効果的な活用と共に、新システムの導入等により、更なる展開が待たれる所である。

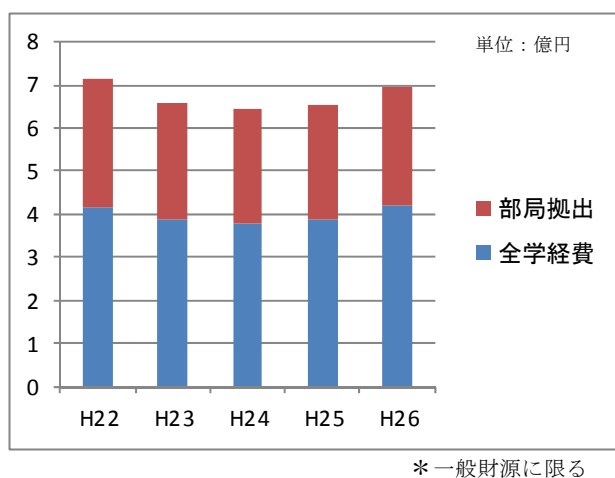
3. 学術研究支援

(1) 研究用資料の整備

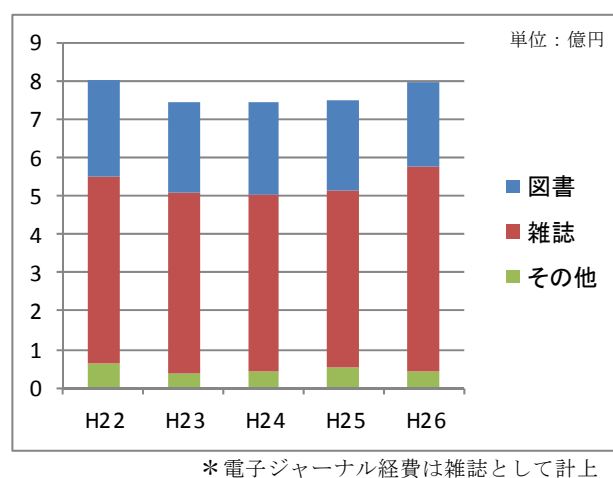
各館室の蔵書数、受入図書冊数、資料費等は別添統計（p 55）のとおりである。

<資料受入状況>

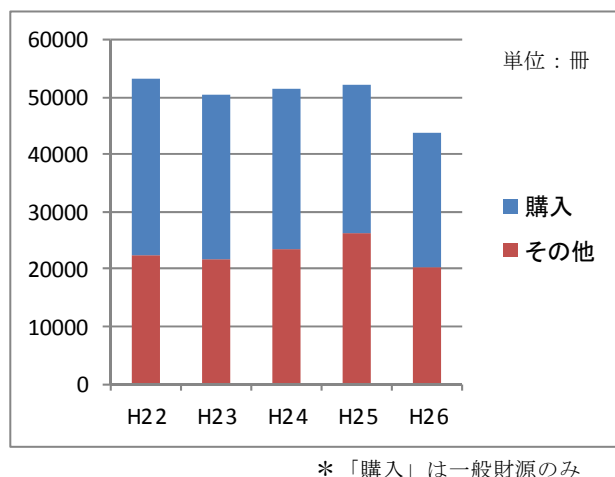
(図1) <資料費経年推移>



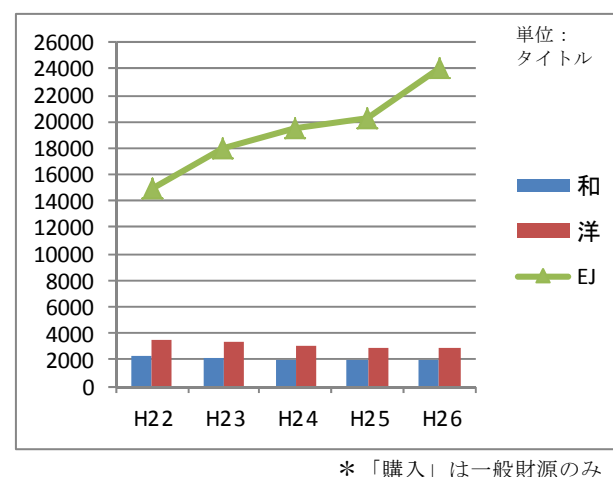
(図2) <資料費の用途別内訳推移>



(図3) <受入図書冊数経年推移>



(図4) <購入雑誌数経年推移>



- 資料費（一般財源）において、電子ジャーナル・データベース等の提供維持のための経費である「教育研究基盤資料整備費」を含む全学経費分が増加し、約 4.2 億円となっている。部局拠出分は平成 25 年度と同程度を維持している。（図 1）
- 資料費（補助金等を含む）においては、図書は平成 25 年度と同程度を維持しているが、雑誌は購読料値上げと為替変動の影響で約 15%増加している。（図 2）
- 受入図書冊数については、購入（一般財源）の減少傾向が続いており、その他（補助金等）も減少

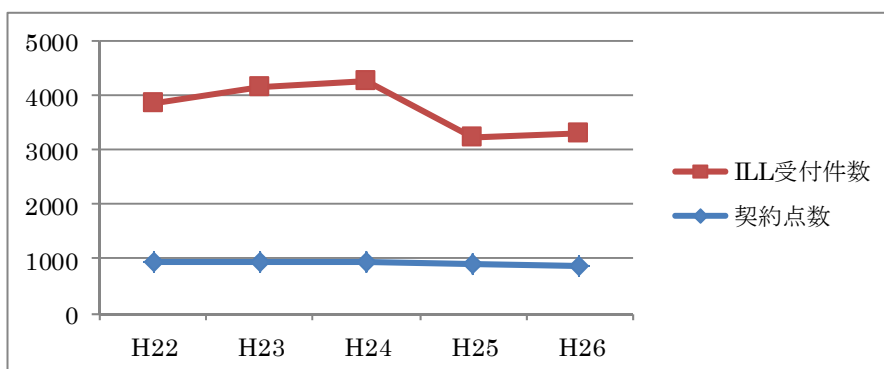
している。(図 3)

- 雑誌の購入タイトル数は平成 21 年度をピークとして減少を続けている。一方、電子ジャーナル数は平成 26 年度末で 24,128 タイトルとなり、増加を続けている。(図 4)

＜外国雑誌センター館＞

- 昭和 61 年度より「人文・社会科学系外国雑誌センター館」の指定を受け、国内での所蔵館が 3 館以内の外国雑誌を体系的に収集し、全国共同利用に供している（配架は社会科学系図書館）。分野別の外国雑誌センター館は全国で計 9 大学に設置され、人文・社会科学系は一橋大学と神戸大学の 2 大学に設置され、分担収集を行っている。
- 外国雑誌センター館本来の趣旨に鑑み、国内所蔵希少雑誌として選定後、所蔵館が 4 館以上となった雑誌の中止と、新規雑誌の追加購入により、平成 26 年度予約点数は 869 誌となった。
- ILL 複写サービスについては、他機関からの複写依頼を常時受け付け、迅速な対応により外国雑誌センター館としてのサービス体制を継続している。
- 外国雑誌センター館の資料収集方針改正（H24.7）により、電子的資料を収集対象とできるようになった。これを受け、平成 24 年度は Springer バックファイルおよび EMeJ200（Emerald の電子ジャーナルパッケージ）を購読した。
- 平成 23 年 9 月、Springer 社より JUSTICE（大学図書館コンソーシアム連合）に対して、同社のカレントパッケージ購読価格抑制のために、バックファイルの購読を条件とする提案が出された。その費用のうち相当額を外国雑誌センター館が負担することを、JUSTICE より要請された。前述 Springer バックファイルの購読は、これを受けての措置である。経費は平成 23 年度外国雑誌センター予算を使用した。Springer 社の論文ダウンロード総数に占めるバックファイルの割合は 20% 前後と常に一定の割合を占めており、総ダウンロード数が大幅に増加していることと合わせ、外国雑誌センター館の中では Springer バックファイル購読の意義を高く評価する声がある。

＜契約点数と ILL 受付件数（社会科学系）の推移＞



◆評価と課題

平成 26 年度は、「教育研究基盤資料整備費」3.24 億円が措置され、電子ジャーナル及びデータベースの提供維持及び 20%の外国雑誌購読経費補填を実施した。平成 27 年度は、同整備費 3.52 億円が措置され平成 26 年度と同様に電子ジャーナル及びデータベースの提供維持及び 20%の外国雑誌購読経費補填が維持される。平成 28 年度以後の同整備事業の維持については、値上げ及び為替変動による価格高騰のため補填率の見直し等の検討が必要となっている。

外国雑誌センター館においては、従来のいわゆるレア・ジャーナル（国内での所蔵が稀少な雑誌）を主な対象とした収集方針を維持しつつも、電子ジャーナルの包括契約方式（ビッグディール）の普

及とその価格高騰に対応するため、現在、電子的資料も収集の対象としている。この方針変更はわが国の学術情報流通基盤としての外国雑誌センターのあり方を模索するものであったが、外国雑誌購読に関する状況はこれ以降なお一層厳しさを増しており、今後の外国雑誌センター館のあり方について再度、検討すべき時期にきているものと思われる。

当館の外国雑誌センターは、その所在する社会科学系図書館の ILL の年間受付件数が全国大学のトップレベルにあることから、わが国の学術情報流通基盤において一定の役割を果たしていると考えられるが、今後もその役割を維持するために限られた予算をより有効に利用することが必要である。

(2) 電子的情報基盤の整備

<外国雑誌と電子ジャーナル>

有料で導入している主な電子ジャーナルは次のとおりである。

	分野	導入年	誌数	範囲	備考
Elsevier 社 ScienceDirect	全分野	H14	2,400	1995～	コンソーシアム契約によるフリーダムコレクション 講読規模維持が条件
Elsevier 社 ScienceDirectBackFile	全分野	H21	2,000	(分野による)	
Springer 社 SpringerLINK	多分野	H14	1,600	2000～	発行のほぼ全タイトル(主要部分は創刊号から) 講読規模維持が条件
Wiley-Blackwell 社 WileyInterScience	多分野	H14	1,400	1997 前後～	発行のほぼ全タイトル 講読規模維持が条件
JSTOR	自然科学 及び社会科学	H14	1,500	創刊号～ (最近 3～5 年は対象 外)	Arts & Sciences I (H14～) Arts & Sciences II (H17～) Arts & Sciences III (H19.3～) Arts & Sciences IV (H18.3～) Arts & Sciences V (H23.1～) Arts & Sciences VI (H23.1～) Arts & Sciences VII (H21.4～) Arts & Sciences VIII (H23.1～) Arts & Sciences IX (H23.1～) Life Sciences (H15～) Business III (H23.1～)
Nature 社	自然科学	H15	40	創刊号～	
AAAS Science Online	自然科学	H15	1	過去 5 年	
IEEE CSDL	情報通信	H15	30	1968～	会議録年間 300(1995 以降)も利用可能
ACM Portal	情報通信	H15	500	ほぼ創刊号～	会議録等も利用可能
APS	物理系	H16	10	2001～	米国物理学会。 *H16 よりライセンス料要 (以前から利用可能)
Cell Press	生命科学	H16	9	1996～	ScienceDirect で利用
LWW via Ovid	医学臨床	H16	50	1996～	

ACS	化学系	H16	40	1996～	米国化学会
Oxford University Press	多分野	H17	260	1996～	2014 年刊行タイトル(うち 171 誌は創刊号から) 購読規模維持が条件
Cambridge University Press	多分野	H18	300	1997～	発行のほぼ全タイトル(うち 89 誌は創刊号から) 購読規模維持が条件

- ・ その他、単体で購読しているもの等も加えて、平成 26 年度末における電子ジャーナル購読数は 24,128 タイトルとなった。
- ・ 総体として非常によく利用されており、必須の教育研究基盤資料となっている。
- ・ 電子ジャーナル等については平成 17 年度および平成 20 年度に出された附属図書館審議会答申に基づき本学の教育研究における基盤資料として維持・整備が行なわれ、これまで一定の水準を維持してきた。しかし急激な円安等、外部環境の激変により今後の展望が見通せない状況にある。

平成 26 年度における電子ジャーナル等の提供内容は次のとおりである。

(1) 電子オンリー中心の包括利用契約

大手 5 社 (Elsevier 社、Wiley-Blackwell 社、Springer 社、Oxford 社、Cambridge 社) 発行のものについては、基本的に各社発行電子ジャーナル全タイトルが利用できる電子オンリー中心の包括利用契約をおこない、その対象となる冊子体の購読はオプションとする。

なお、冊子体の購読を希望する場合は、購読額の 25% 程度の特別価格で購読できるが (Oxford を除く)、これに関しては、20% の雑誌購読補填は行わない。

(2) 上記以外の外国雑誌購読に係る経費補填

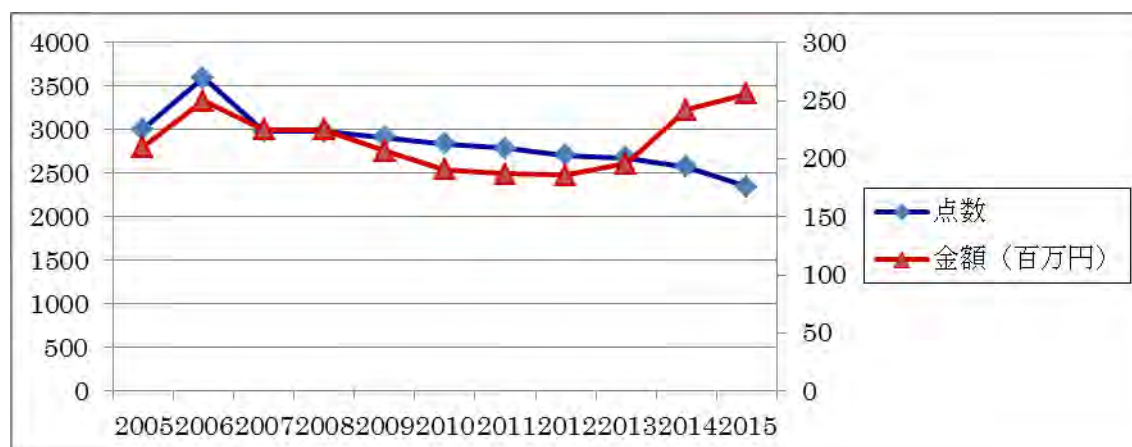
冊子体を各図書館室に配置し、全学共同利用が可能なものについては、全学経費から、当該雑誌購読所要額の 20% を補填する。予算の上限を超えたため平成 26 年度は新規タイトルへの補填は行わなかった。

- ・ 急激な円安のため平成 26 年外国雑誌の契約は、点数が減少した一方、契約金額が大幅に上昇した。平成 27 年は契約点数が 1 割近く減少したにも拘らず、契約金額は更に上昇している。雑誌の価格上昇に加え、平成 26 年度中に円安がなお一層進行した影響が大きい。

平成 26 年契約点数 2,578 点 → 平成 27 年 2,343 点 (9.1%減)

平成 26 年契約金額 約 242 百万円 → 平成 27 年 約 256 百万円 (5.8%増)

<外国雑誌購読推移>



＜データベースの整備＞

主な導入データベースは次のとおりである。(全てウェブアクセス)

	分野等	導入	範囲	備考
Web of Science SCIE	自然科学 (引用索引)	H15	1900～	H22 バックファイル追加
Web of Science SSCI	社会科学 (引用索引)	H21	1900～	H22 バックファイル追加
Web of Science AHCI	人文学 (引用索引)	H21	1975～	H22 バックファイル追加
JCR Web	全分野	H17		
MathSciNet	数学	H13	1940～	
SciFinder Academic	化学	H16	1840～	利用申請が必要
Readers' Guide to Periodical Literature	一般雑誌	H6	1983～	H18.4 より Web 版に変更 同時アクセス 1
EconLit	経済学	H3	1969～	同上 同時アクセス 4
Index to Legal Periodicals & Books	法学	H3	1981～	同上 同時アクセス 1
EBSCOhost (Business Source Premier, PsycInfo, PsycArticles, CINAHL)	経営学 心理学 看護学	H22		
HeinOnline	法学	H22		アクセス制限なし
Lexis.com	法学	H22		利用申請が必要
Westlaw International	法学	H22		
OECD iLibrary	多分野	H22		H22 に「Source OECD」より名称変更
ProQuest Dissertations & Thesis	多分野	H22		抄録と索引のみ
CiNii	多分野	H15	多種	機関別定額制
医学中央雑誌	医学	H5	1983～	Web 版は H14 から 医学・保健にサービス
メディカルオンライン	医学	H22		
官報	官報記事	H18	1947.5～	同時アクセス 2
日経テレコン21	新聞記事等	H18	1975～	H19.7 より全学利用可 同時アクセス 20
*JapanKnowledge	全分野 (辞典等)	H17		同時アクセス 4
*KOD(研究社オンライン・ディクショナリー)	辞典	H21		同時アクセス 5 H26 よりオプション辞書 2 点追加
*MAGAZINEPLUS	国内雑誌記事	H18	1945～	同時アクセス 3
*JDreamIII	科学技術・医学・薬学	H19		同時アクセス 10 H25 JDreamII から変更
*聞蔵Ⅱ ビジュアル(朝日新聞)	新聞記事	H12	1879～	同時アクセス 3
*ヨミダス歴史館	新聞記事	H21	1874～	同時アクセス 1
*毎索	新聞記事等	H21	1872～	H23「毎日 News パック」より名称変更 同時アクセス 2
*Marquis bibliographies online	人名録	H21	1985～	H24「Who's Who」より名称変更 同時アクセス 1

- 平成 15 年度途中に導入した引用索引データベース Web of Science SCIE（自然科学系）は、平成 18 年度までは間接経費、平成 19～26 年度は教育研究基盤資料整備費で契約を維持した。
- タイトル先頭に*を付したものは、H18 年度より学生資料費として措置されている「e-study」資料費により契約している。
- 各データベースの利用は別添統計のとおりである。学術分野やデータベースの特性から、個々の利用度は大きく異なっている。なお Marquis bibliographies online は平成 26 年度までの提供となる。

＜電子ブックの整備＞

学内で利用できる主な電子ブックは次のとおりである。（全てウェブアクセス）

	分野	購入年度	タイトル数
*Elsevier Handbooks in Economics	経済学	H20-(継続)	30
*Emerald Business, Management and Economics eBook Series Collection	経営学、経済学	H21-	450
LWW Doody's Core Collection	医学	H21	129
**NetLibrary: ネットライブラリー	多種	H22-(随時)	750
Oxford Handbooks Online	経営学、哲学、政治学、宗教学	H22	126
ScienceDirect レファレンスワークス	多分野	H23	21
*Springer eBooks	数学、経営学、社会科学	H17-	3100

注) *部局予算による購入

**部局予算による購入分を含む

◆評価と課題

電子ジャーナルおよびデータベースは研究者（大学院生を含む）にとって、今や必要不可欠な学術情報基盤である。神戸大学では以下に示す 2 つの附属図書館審議会答申に基づき電子資料に関わる基盤整備を行ってきた。第一の答申は平成 17 年度に出された「教育研究支援強化のための諸施策の具体化について I. 教育研究基盤資料の維持・整備方策（平成 18 年 3 月 9 日）」であり、本答申において部局拠出経費を加味した全学経費を投入する方針が示され、世界レベルの研究水準を目指す本学の学術情報基盤として電子ジャーナルを含む外国雑誌及び各種データベースの維持・整備を図る方向性が定まった。これは平成 19 年度から実行に移されている。続いて平成 20 年度に出された附属図書館審議会答申「次期中期計画における教育研究基盤資料の維持・整備方策について」(H21.2.12) においてはこれら教育研究基盤資料の安定的な維持・整備を目指し全学的な財源確保を行うことが提案された。この結果、平成 22 年度からは部局負担分を間接経費（全学共通分）に切り替え、電子ジャーナルを含む教育研究基盤資料は全学共通経費と間接経費を財源として提供されることとなった。

答申では同時に所要額の上限も設定されたが平成 24 年まではピーク時に 1 ドル 70 円台に達する円高という外部環境に恵まれ、この上限額を超えることなく教育研究基盤資料の維持・整備を行うことが可能であった。しかし平成 25 年から始まった急激な円安の結果、同年度の米ドル契約レートは 98.67 円と前年度の 1.24 倍に跳ね上がり、平成 26 年度については間接経費を増額してようやく従来水準を維持している。以後も円安は進行、平成 26 年度の米ドル契約レートは 109.49 円まで上昇、以後も日本銀行による追加緩和もあり、平成 27 年 4 月時点では 1 ドル 120 円台で推移している。為替変動だけで毎年 10%以上の負担増を強いられている状況である。それに加えて平成 27 年 10 月からは海外電子配信への消費課税が予定されており、平成 29 年 4 月には消費増税が行われる。今後も極めて厳し

い状況が続くと言わざるをえない。

このような状況を受け、昨今大規模研究大学でも電子ジャーナルのいわゆる包括契約を中止する大学が散見される。学術情報基盤環境の維持は図書館の使命ではあるが、購読ベースの学術誌が学術情報流通のメインストリームでありかつ業績評価の主材料となる現状では購読予算の確保がまさにその前提である。寡占化の進む学術情報出版業界でよしんば購読モデルの再構築が行われたとしても、コストパフォーマンスの面で包括契約に勝るモデルの提示は期待できまい。結果的に厳しい判断が迫られる状況が続くものと思われる。

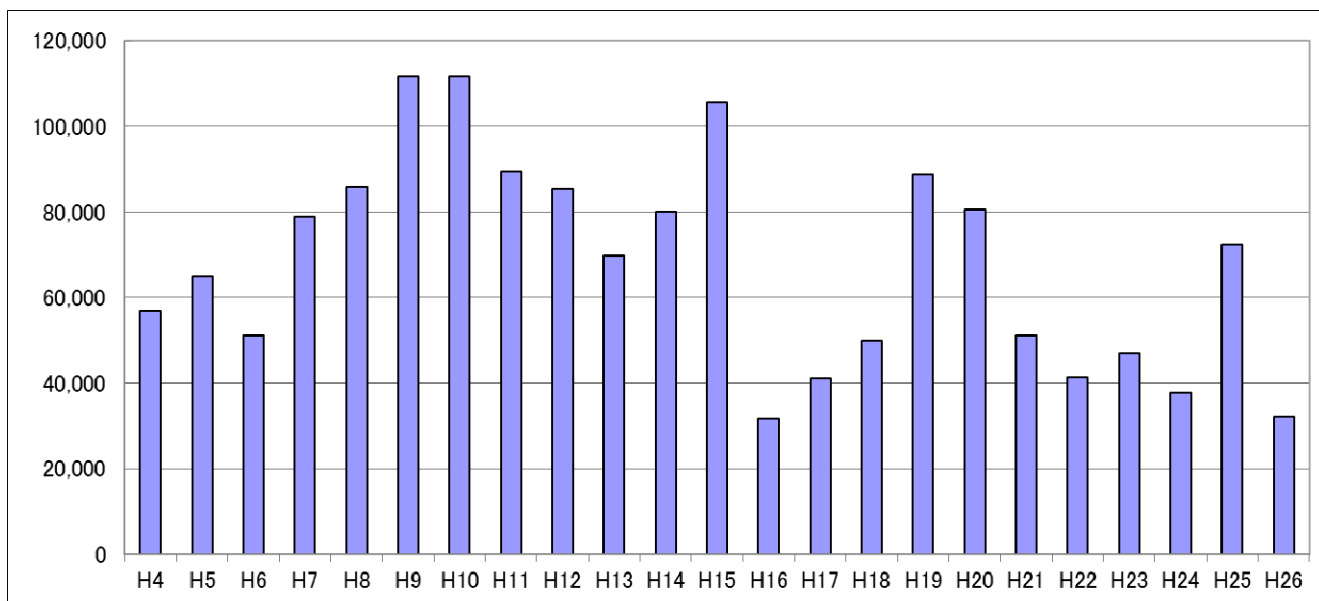
電子ブックについては、海外図書館と比べると、国内図書館において普及が全般的に遅れているのが現状であり、本学においては部局予算による購入がこれまで中心であった。しかし国内出版物の電子版は徐々に増えつつあり、学術書においても一部の出版社において前向きな動きがみられる。今後の電子ブック出版の動向には注意する必要がある。

（３）蔵書目録データベースの整備

<目録遡及入力事業>

- 目録遡及入力は学内予算措置を得て平成４年度から事業を開始し本年度で２３年目となった。この間、科学研究費補助金（社会科学文献・画像データベース作成事業）の獲得や国立情報学研究所との共同事業への参加など外部資金による入力にも努め、遡及入力総数は平成２６年度実績を加えると約１５６万冊となった。

<年度別入力冊数>



- 平成２６年度計画と経費
外部委託による入力と、館員による研究室からの返納図書等の入力を合わせ、４０,０００冊を目標とした。

電子図書館事業経費(6,000 千円)	30,000 冊
館員入力	10,000 冊

- 平成 26 年度入力実績 32,210 冊

電子図書館事業 (外部委託) (4,500 千円)	経済経営研究所図書館	和書 洋書	8,002 冊 15,028 冊
館員入力	各館室	研究室戻り等	9,180 冊

◆評価と課題

学内経費による外部委託と館員入力は、外部委託経費の減額により当初の目標には届かなかった。外部委託したのは経済経営研究所図書館における、アメリカ文庫および旧分類資料である。次年度も引き続き経済経営研究所図書館の入力を進めていき、本年度の残り分と合わせて登録が完了する予定である。

現在、全蔵書の約 84%が OPAC で検索できるようになっており、残る未入力冊数は約 59 万冊で全蔵書の約 16%にあたる。このうち館室配置図書については、和・洋古書、漢籍などの特殊資料と製本雑誌を除いて、第 2 次中期計画期間中（平成 22～27 年度）に入力を完了することを目標に遡及計画を進めている。

今期の遡及計画の対象外である特殊資料については、入力に専門知識が必要であるが、研究上重要な資料が多数あり、利用者へのサービス向上のために今後も入力を進めていく。

<各館室の主な遡及対象未入力資料群（平成 26 年度末現在 特殊資料等を除く）>

経済経営研究所図書館	アメリカ文庫、附属企業資料総合センター図書
------------	-----------------------

（４）資料の保存

<貴重資料の保存>

- 経済経営研究所が所蔵している「新聞記事文庫」の原本の脱酸処理と修復製本 1 冊とマイクロフィルムの修復・複製 3 リールを行った。

<一般資料の廃棄>

- 学内各館室で重複所蔵および蔵書点検後 3 年以上所在不明の図書・製本雑誌、計 44,464 冊の廃棄と資産計上誤りの修正 3 冊を行なった。

館室名	冊数
総合・国際	27,275
社会系	1,174
自然系	5,283
人文	267
人間	1,904
研究所	0
医学	504
保健	2,952
海事	5,108
合計	44,467

◆評価と課題

平成 24 年度第 7 回附属図書館運営委員会において「資料収容力確保策の見直し」が協議され、「平成 27 年度末時点において、約 5 年間の受入量にあたる収容力を確保するため、収容スペース狭隘化の逼迫度が高い館室について重点的に人員・費用を充てて集中的に整理作業を実施する」ことが了承された。

平成 25 年度からは、上記に基づいて具体的計画を策定し整理作業を進めており、廃棄冊数は平成 25 年度の約 1.8 倍となった。

(5) その他の研究支援サービス

<相互利用サービス>

区分			総・国	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
複写	受付	H26/H25	0.93	1.02	0.77	0.93	0.88	0.85	0.88	0.92	1.02	0.94
		H25 年度	209	3,225	888	772	489	221	1,840	999	303	8,946
		H26 年度	194	3,303	688	716	431	188	1,617	919	318	8,374
	依頼	H26/H25	1.34	1.88	0.97	1.01	0.70	2.19	0.60	1.12	0.80	1.02
		H25 年度	697	928	684	874	1,406	16	1,344	613	168	6,730
		H26 年度	932	1,746	661	881	987	35	800	684	134	6,860
貸借	受付	H26/H25	1.32	0.95	1.02	0.98	1.07	0.43	0.48	0.44	0.54	0.98
		H25 年度	261	1,621	162	423	246	23	21	18	112	2,887
		H26 年度	344	1,544	166	413	262	10	10	8	61	2,818
	依頼	H26/H25	0.95	1.08	1.27	0.78	0.88	0.68	0.40	1.08	0.75	0.91
		H25 年度	274	313	88	592	139	28	15	12	4	1,465
		H26 年度	260	338	112	460	122	19	6	13	3	1,333

・館室によって増減はあるが、全体として前年度と比べて文献複写の受付は 6%減、依頼は 2%増、現物貸借の受付は 2%減、依頼は 9%減となっている。

◆評価と課題

平成 26 年度の利用は全体として減少傾向にあり、複写依頼が微増なのは国立国会図書館デジタル化資料送信サービス開始の影響で、特に社会科学系図書館では前年度より 1.9 倍、総合・国際文化学図書館では 1.3 倍増となり、配信件数 659 件は複写依頼全体の約 1 割を占め、今後の推移に注目していきたい。

社会科学系図書館は、複写は全体の約 39%、貸借は約 55%を受け付けており社会科学系の外国雑誌センター館として、また地域の中核となる図書館として、その責務を果たしていくことが求められていると言える。

平成 23 年 4 月 1 日より、中華民国（台湾）の國立成功大學図書館と相互利用を開始した。また平成 24 年 9 月 1 日より海事科学分館と公益財団法人日本海事センター海事図書館（東京）との間で相互協力を開始した。平成 26 年度は、5 月 12 日にアジア経済研究所図書館と「相互利用に関する覚書」を締結した。また、6 月 4 日より国立国会図書館の図書館向けデジタル化資料送信サービスを「社会科学系図書館」「総合・国際文化学図書館」「人文科学図書館」「人間科学図書館」の 4 館室にて実施した。このような国内外の図書館との協力を通じ、研究支援において附属図書館の果たすべき役割を担っていくことが、今後とも必要である。

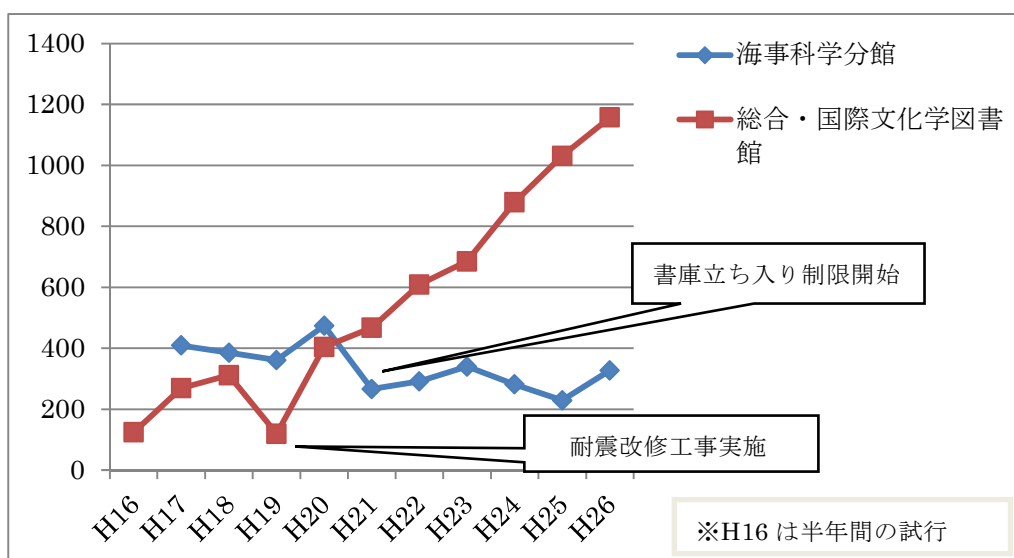
4. 社会連携・情報発信

(1) 一般市民への資料提供サービス

<一般市民の図書館利用>

- 総合・国際文化学図書館と海事科学分館において一般市民への貸出サービスを実施している。平成26年度の利用登録者数は165名で、平成25年度より12名増加した。
貸出冊数は総合・国際文化学図書館で前年度の12%増の1,157冊になった。海事科学分館では平成23年度以降減少傾向にあったが、前年度の43%増の327冊になった。

<貸出冊数の推移>



<展示会の開催>

- 資料展「つたえる・つながる～阪神・淡路大震災20年～」

会期 【第1期】平成26年10月17日(金)～11月16日(日)

【第2期】12月24日(水)～平成27年1月29日(木)

会場 神戸大学附属図書館

社会科学系図書館【2階 展示コーナー】【3階 震災文庫】

時間 【展示コーナー】

月～金曜日 8:45～21:30

土～日曜日 10:00～19:00

【震災文庫】平日 11:00～17:00

内容 発生から20年を迎え、震災を経験していない世代が多くなった今、改めて当時の被害や様子を広く「つたえる」と共に、未来へと、人々へと「つながる」ために、今も懸命に行われている様々な取り組みを紹介・展示。

- 10月25日開催の「ホームカミングデイ」と、1月9日開催の



「阪神・淡路大震災 20 年シンポジウム」の両者と共催するため、第 1 期・第 2 期に分割して開催した。

- ・ 「阪神淡路大震災記念 人と防災未来センター」と協力関係を結び、複数の資料を借り受けて展示。また兵庫県主催「阪神淡路 20 年—1.17 は忘れない—」参加事業として登録申請をした。
- ・ 第 2 期には、教養原論「日本史（グローバル共通科目）」の学生が、授業の成果として展示パネル「記憶から歴史へ—阪神・淡路大震災を知らない世代の取組—」を作成し、合同展示を行った。
- ・ 学内各部局、及び近隣の地方自治体・公共図書館・公立学校等へチラシ、ポスターを送付して広報した。
- ・ 図書館ホームページで展示品目録等を公開している。
- ・ 会場は、通路部分であるため、正確な来場者数をカウントすることはできないが、開催期間中に社会科学系図書館に来館した利用者の多くが資料展を観覧したと思われる。
- ・ アンケート回収数は、第 1 期 114 件、第 2 期 15 件と、多数の回答が寄せられた。ほとんどの回答が展示に対して好意的で、直接震災を経験した世代の方々から、震災の記憶がない学生に至るまで、様々な反響があった。

＜公共図書館との協力＞

- ・ 前年度に引き続き、兵庫県大学図書館協議会で加盟館の図書館相互協力便覧や一般市民への公開状況を取りまとめ、同協議会ホームページ上で情報公開を行った。
- ・ 平成 20 年度から、兵庫県立図書館で公開されている兵庫県内図書館横断検索に参加し、県内公共図書館等との横断的な所蔵検索が可能となっている。

◆評価と課題

一般市民への資料の貸出サービスの開始以来、総合・国際文化学図書館では平成 19 年度に改修工事の影響で一時的に貸出数は落ち込んだものの、平成 17 年度の開始以来増加を続け、開始当初の約 4.3 倍になった。一方、海事科学分館でも平成 21 年度に書庫立ち入り制限の実施により大きく減少しその後はほぼ横這い状態であったが、本年は回復傾向にあることが認められる。地域社会への貢献活動のひとつとして定着していると評価できるだろう。

資料展は、ホームカミングデイとシンポジウムに合わせ第 1 期・第 2 期に分けて実施した。テーマが阪神・淡路大震災 20 年であったこともあり、人と防災未来センターから複数の資料を借り受けての展示や学生の授業の成果物との合同展示など、新たな協力体制を含んだ展示の内容となった。附属図書館とその所蔵資料を広く知ってもらうための貴重な機会として、今後も継続していくように努めなければならない事業である。

（２）震災文庫

＜資料収集と一般公開＞

- ・ 震災 20 年の節目を迎え多くの資料が出版されることが予想される中、様々なチャンネルからの情報収集を行い寄贈依頼等、積極的な収集に努めた。1,276 件（平成 25 年度は 877 件）を収集し、資料所蔵総数は 5 万 2 千件を超えた。

	全件数 (タイトル数)	H26 新着		全件数 (タイトル数)	H26 新着
図書資料	7,704 (6,741)	212 (186)	地図資料	137 (131)	0 (0)
雑誌資料	13,536 (3,321)	110 (11)	動画資料	304 (255)	4 (4)
新聞・広報誌資料	18,095 (6,556)	742 (685)	音声資料	100 (80)	0 (0)
パンフレット資料	6,081 (5,917)	36 (27)	コンピュータ資料	93 (90)	0 (0)
一枚ものの資料	6,694 (6,687)	172 (172)	www	10 (4)	0 (0)
写真資料	111 (93)	0 (0)	総合計	52,865 (29,875)	1,276 (552)

注) 雑誌等の各号を1冊ずつ数えた数が「件」、同一タイトルを1と数えたのが「タイトル」。

写真資料はコレクション単位（概ね撮影者単位）を1としているため件数が少ないが、写真2万枚強のコレクションも含まれている。

＜震災デジタルアーカイブ＞

- ・ 資料全体のタイトル等だけでなく掲載されている記事情報等からも検索できるよう、詳細なデータを継続的に作成している。本年度は3,819件を入力し、その結果、データベースのレコード総数は27万8千を超えた。
- ・ 著作権の許諾が得られた資料10点をデジタル化公開した。
- ・ ビデオ(VHS)テープ34点についてメディア媒体変換作業を行った。
- ・ 各機関から、防災資料作成等のための転載許可願いが写真を中心に30件（前年度30件）あり、著作権者へ許諾確認を行い回答した。
- ・ 平成21年1月より開始した人と防災未来センターと震災文庫の「震災資料横断検索」は兵庫県立図書館を加えて3機関での横断検索を継続中であり、年4回データ更新を行った。

＜震災文庫の活動＞

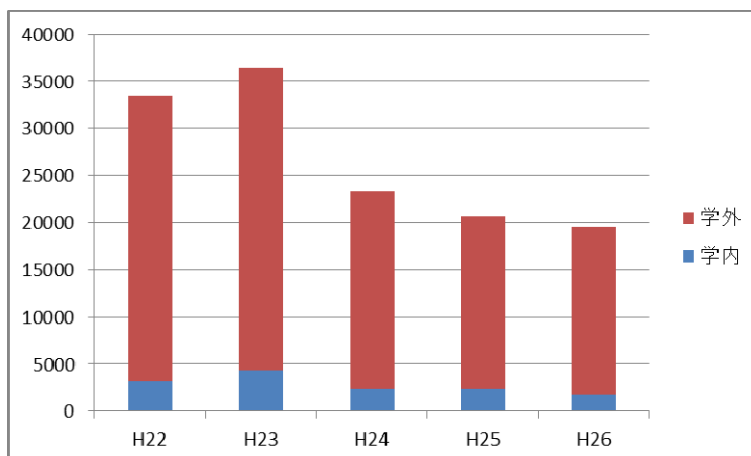
- ・ 見学16回（112名）、取材9回（11名）の依頼があり、見学はサービス係・電子図書館係が中心に、取材は展示会WGが中心に対応した。
- ・ 1月23日に、「第4回被災地の図書館と震災資料の収集・公開に係る情報交換会」を人文学研究科と協力して開催し、29名が参加した。
- ・ 兵庫県主催「復興フォローアップフォーラム」（3月30日開催）にて復興・防災活動等に関わった機関として「震災文庫」に感謝状が贈呈された。

◆評価と課題

本年は、震災20年の節目を迎えるにあたって、震災資料アーカイブの先がけとして、また現在も資料収集を続けている文庫として注目され、メディア等に取り上げられる機会が増えた。一方、震災文庫トップページへのアクセス数は減少しているが、これは横断検索サイトや震災資料サイトの増加に伴うアクセスの分散化によるものと考えられる。

課題として、引き続き収集資料の媒体の問題が挙げられる。デジタルデータの中にはハードウェアの生産終了やファイルフォーマットのサポート終了などの要因により再生環境が失われ、利用不可能となる恐れのあるデータが生じつつある。貴重な資料を今後も利用可能な状態で保存することが大切であり、早急に収録メディアおよびデータの変換作業（マイグレーション）を行う必要がある。優先順位を決め作業しているが、変換作業完了までには数年間かかる見込みである。

＜震災文庫トップページアクセス数経年推移＞



（３）電子図書館システムによる情報発信

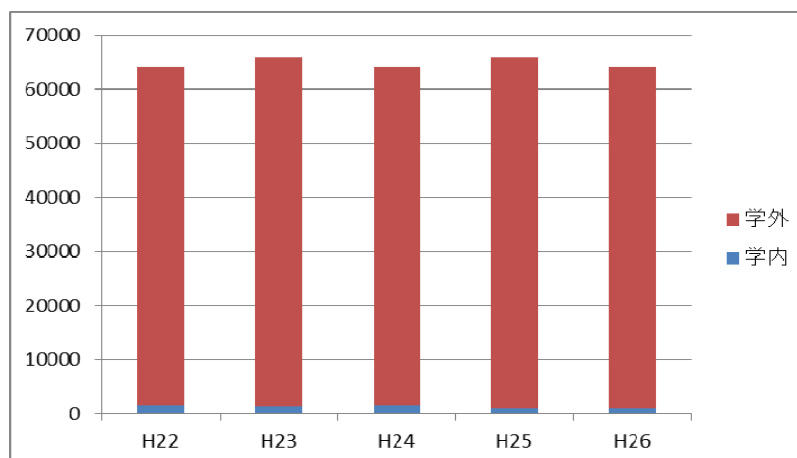
＜「神戸大学電子図書館システム」によるデジタルアーカイブ構築＞

- 同システムは当初全国 5 大学に「先導的電子図書館プロジェクト」として予算措置されたもので、本学には平成 10 年度補正予算で措置され、平成 11 年から稼働している。法人化後は電子図書館事業費として学内経費化され、運営を続けている。
- 「震災関係資料」、「経済関係資料」、「学内研究成果」を 3 本柱に事業を推進し、デジタル化した資料を Web 上で公開してきた。経費には上記の電子図書館事業費と、科学研究費補助金研究成果公開促進費（平成 11-15 年度 震災デジタルアーカイブに措置、平成 16-23,25 年度 戦前期新聞経済記事文庫に措置）を充ててきた。
- コンテンツのうち震災関係資料については、前節で述べたとおりである。

＜経済関係資料デジタル化＞

- 新聞記事文庫（戦前期記事切抜）デジタル化については、科学研究費補助金研究成果公開促進費（「戦前期新聞経済記事文庫データベース」）を申請したが不採択となり、電子図書館事業費より捻出してデジタル化を行った（予算額：約 85 万円）。このため電子化できた資料は「軍事」分野の原本 8 冊分約 1,500 記事にとどまった。（累計約 29 万記事）。
- 平成 26 年度図書館振興財団助成事業の支援で、データベースを改修したことにより、これまで GIF で提供していた画像を PDF での提供に変更した。
- 平成 24 年 5 月より当文庫データベースの「活用事例集」ページを HP 上で公開し、より一層の普及を有効活用の支援を図っている。

＜新聞記事文庫トップページアクセス数経年推移＞



＜学内研究成果資料デジタル化＞

- ・ 機関リポジトリは開設 9 年目となり、平成 27 年 3 月末現在 22,088 件（前年度末 18,500 件）の学術成果を一般公開している。詳細は次項に述べる。
- ・ キク科の染色体数データベース（渡邊邦秋名誉教授作成）のデータ更新を続けている。更新頻度は月 1 回、本年度のレコード増加数は 7,470 件で、累計レコード数は 132,110 件である。
- ・ 引き続き学内研究成果メタデータ（書誌情報）として、紀要類目次情報（857 件入力、累積 40,245 件）、博士学位論文情報（302 件入力、累積 9,642 件）の入力を進めた。
- ・ 学位規則改定後の平成 25 年 4 月以降に学位授与された博士学位論文は要旨・全文ともに原則としてリポジトリからインターネット公表することとなったため、非公表・公表延期を除く 183 件の全文を公開した。また、学位規則改定前の学位授与論文についても全文公開のため著作権調査を行い、可能なものについて電子化公開を行った。

◆評価と課題

新聞記事文庫はその規模の大きさと希少性（戦前の記事切抜きはほとんど残っていない）から高い評価を得ており、HP へのアクセス数は継続してデジタルアーカイブ中トップであり、主に外部からの利用が多数を占める（平成 26 年度トップページアクセス数約 6 万 4 千件のうち 98%以上が学外からのアクセスである）。引き続き計画的に電子化をすすめ、戦前期の完成を目指したい。

「学内研究成果」については、学術論文は機関リポジトリ（次項）へ、その他成果はデジタルアーカイブへ登録している。今後も継続してコンテンツ収集に努めたい。

（４）機関リポジトリによる情報発信

＜コンテンツ収集活動＞

- ・ 平成 18 年度に稼働を始めた神戸大学学術成果リポジトリ（Kernel）は、比較的順調に成長を続けている。平成 26 年度末現在のコンテンツ数は 22,088 件となり、1 年間で 3,588 件増加した。

<機関リポジトリコンテンツ種別件数>

一般雑誌記事	69	図書	52	会議発表論文	57
データベース	2	紀要論文	16,665	学術雑誌論文	2,238
教材	11	会議発表用資料	324	研究報告書	109
テクニカルレポート	585	博士学位論文	1,750	その他	226
				合 計	22,088

- ・ 神戸大学研究者紹介システム「KUID」や「Web of Science」より抽出したデータを元に、学内研究者に論文登録照会作業を行い学術雑誌掲載論文の収集に努めた。
- ・ 部局ごとに学内紀要の再調査を行い、バックナンバーのリポジトリ公開について行った照会作業の成果により紀要論文の登録数が大幅に伸びた。

<広報活動>

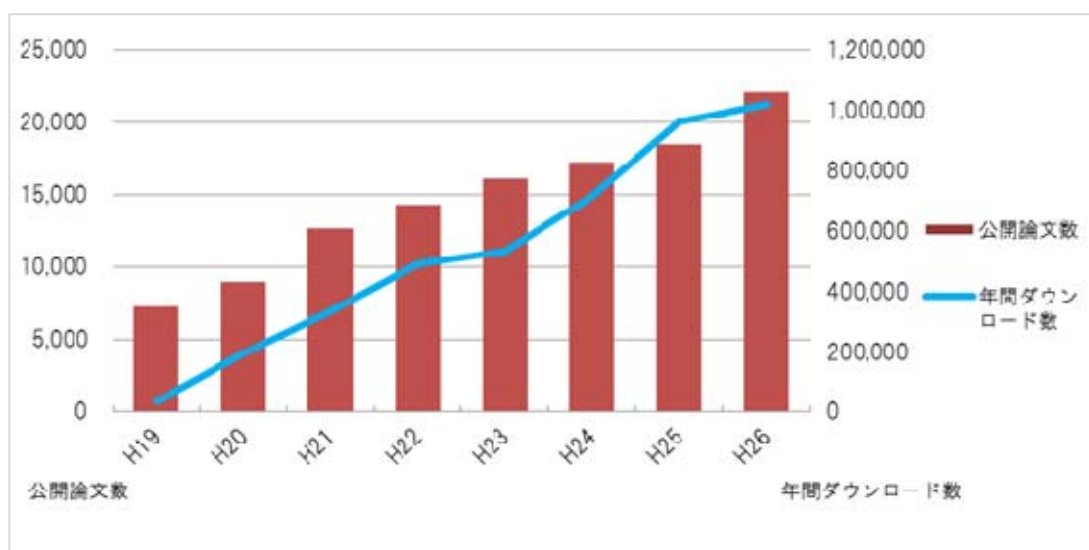
- ・ 学内教員への浸透を図るため、『Kernel 通信』の第 13 号を発行した。
- ・ 登録者へのサービスとして、毎月 1 回ダウンロード数お知らせメールの自動配信を継続して実施している。
- ・ 学内外の大学図書館職員を対象に「オープンアクセスウィーク・ワークショップ」を開催した。（詳細は p 49）

◆評価と課題

リポジトリ開設から 8 年が経過し、公開論文数の増加とともにダウンロード数も順調に増加しているが、より一層学内での認知度を高めるための広報活動が重要である。学位論文を円滑にリポジトリ公表するため、関係諸機関と連携して作業を進める必要がある。紀要等の学内刊行物については引き続き重点的に収集を進める。

神戸大学研究者紹介システム「KUID」との連携は今なお手作業による論文へのリンク付与にとどまっており今後の連携方法が課題となっている。

<Kernel 公開論文数およびダウンロード数推移>



(5) 国際連携

<韓国海洋大学校図書館との協力推進>

前年度に続き韓国海洋大学校図書館との協定にもとづく職員交流を行った。本年度は職員 3 名を韓国海洋大学校へ派遣した。先ず 12 月 2 日、韓国海洋大学校において、図書館業務全般について説明を受け、情報交換を行った。その後 3 日間にわたり、梨花女子大学校図書館、成均館大学校サムスン学術情報館、釜山大学校図書館を訪問した。

研修日程

月 日	内 容
12 月 2 日	韓国海洋大学校図書館（釜山）にて館員との情報交換および見学
12 月 3 日	梨花女子大学校図書館（ソウル）見学
12 月 4 日	成均館大学校サムスン学術情報館（水原）見学
12 月 5 日	釜山大学校図書館（釜山）見学

【研修風景】



（於：韓国海洋大学校図書館）

◆評価と課題

韓国海洋大学校とは平成 21 年度以来連続で相互に職員を派遣し合い、研修を行っている。本年度は特に本学での設置が迫っているラーニングコモンズその他、サブジェクト・ライブラリアン制度や学生アシスタント雇用といった本学において関心の深いテーマについて、韓国での動向を調査し、また両国の図書館事情に関する情報交換を行った。韓国の図書館運営には学ぶべき点が多く、今後もテーマを設定して交流を行うことが重要と考えられる。

（６）大学文書史料室

大学文書史料室では、公文書管理法に基づき、内閣総理大臣指定「国立公文書館等」の機関としての責務を全うし積極的な社会貢献を図るため、平成 26 年度においては次の事業を実施した。

＜法人文書移管協議＞

- 平成 26 年度法人文書移管協議は、神戸大学法人文書 5,113 件を対象に 1 月 6 日から 3 月 17 日までの約 2 ヶ月間実施され、移管 610 件、廃棄 4,503 件が決定された（移管率 11.9%）。この協議結果に基づき、移管の受入れを平成 27 年度に実施予定である。

平成 26 年度法人文書移管協議の結果

移管協議の対象	総件数	協議結果		移管率	移管年度
		移管決定	廃棄決定		
(1) 平成 26 年度末(2015 年 3 月 31 日)保存期間満了分	2,265 件	374 件	1,891 件	16.5%	H27
(2) 平成 16 年度末(2005 年 3 月 31 日)～ 平成 18 年度末(2007 年 3 月 31 日)保存期間満了分	2,848 件	236 件	2,612 件	8.3%	H27
合計	5,113 件	610 件	4,503 件	11.9%	H27

＜法人文書等の受入れ状況＞

- 平成 26 年度における法人文書等の受入れ状況は、学内移管文書等 3,378 件、個人・団体からの寄贈寄託文書等 542 件（以上、公文書管理法 2 条 7 項が規定する「特定歴史公文書等」に該当。）、他大学史等の参考図書 100 件、計 4,020 件である。

平成 26 年度における法人文書等の受入れ状況

受け入れた法人文書等			受入れ件数（注1）	
特定歴史公文書等	学内移管文書等	法人文書（移管協議に基づく移管）	709 件	3,920 件
		法人文書（上記以外の移管）（注2）	（注3）2,133 件	
		学内印刷刊行物	536 件	
	（小計）	3,378 件		
	個人・団体からの寄贈寄託文書等		542 件	
参考図書	寄贈図書のうち上記に該当しないもの（他大学史等）		100 件	
合計			4,020 件	

（注1）「受入れ件数」の数値は、分冊や関連文書等をまとめて1件とする場合があるため、実際の冊数や目録入力件数とは異なる。

（注2）「上記以外の移管」とは、神戸大学法人文書ファイル管理簿（神戸大学法人文書管理規則第 10 条）に未掲載の古い法人文書を対象とした、移管協議を経由しない移管を指す。

（注3）平成 25 年度の六甲台第一キャンパス学舎改修工事及び附属住吉小学校閉校に伴い、移管協議を経由しない移管が大量に発生したが、未整理かつ件数不詳のため、平成 26 年度に受入れた。

＜目録入力＞

- 平成 26 年度における目録入力の件数は 8,803 件であり、目録総件数は 42,167 件となった。
- インターネット上の目録「神戸大学特定歴史公文書等データベース」を毎月定期的に更新した。

平成 26 年度における目録入力実績の内訳

対象			目録入力件数（注）	
特定歴史公文書等	学内移管文書等	法人文書	5,259 件	8,560 件
		学内印刷刊行物	1,443 件	
	（小計）		6,702 件	
	個人・団体からの寄贈寄託文書等		1,858 件	
参考図書	寄贈図書のうち上記に該当しないもの（他大学史等）		243 件	
[上記合計] 平成 26 年度目録入力件数（①）			8,803 件	
[参 考] 平成 22-25 年度目録入力件数（②）			33,364 件	
目録総件数（①＋②）			42,167 件	

（注）「目録」とは、「神戸大学特定歴史公文書等データベース」のことを指す。なお、「目録入力件数」の数値は、移管寄贈寄託受入れ時点の件数とは異なる場合がある。その理由は、移管寄贈寄託受入れ時点では、分冊や関連文書等をまとめて 1 件とする場合があるためである。

＜利用状況＞

- ・ 平成 26 年度における資料利用件数は 369 件（68 名）であり、その内訳は下表のとおり。
- ・ 一般利用者の利用に供するため、展示会及びレファレンス等に積極的に対応した（次項以降参照）。

平成 26 年度における利用状況

	利用件数	利用者数	閲覧	写しの交付
利用請求による利用	338 件	55 名	254 件	154 件（443 枚）
移管元部局利用請求による利用	10 件	4 名	10 件	5 件（96 枚）
簡易閲覧申込による利用	21 件	9 名	19 件	5 件（12 枚）
合計	369 件	68 名	283 件	164 件（551 枚）

（注）「利用請求」とは、公文書管理法 16 条に基づく「利用の請求」を指し、「移管元部局利用請求」とは、同法 24 条に基づく「移管元行政機関等による利用の特例」を指し、「簡易閲覧申込」とは、国ガイドライン C-13 に基づく「簡便な方法による利用」を指す。「利用件数」とは、利用のあった文書等の件数を指す。なお、利用者の中には、「閲覧」「写しの交付」の両方を利用する場合や、「閲覧」のみ、「写しの交付」のみを利用する場合があるため、「利用件数」と「閲覧」「写しの交付」の件数が異なる場合がある。

＜展示会の開催＞

- ・ 収蔵物を広く学内外に紹介するため、常設展「神戸大学史展—110 年の歩みと展望—」を常時開催（特別展の開催期間は除く）し、百有余年にわたる神戸大学の歴史に関する文書や実物資料、写真など 206 点を展示公開した。
- ・ 平成 26 年度特別展及び巡回展（東京・神戸）は、「官立神戸高商物語—水島鍬也初代校長生誕 150 年記念—」をテーマに、神戸大学の前身である旧制官立神戸高等商業学校の諸相について、貴重な文書・写真・実物史料（一部は初公開）などで取り上げた。東京での巡回展では会場の都合上実物展示ができないためパネル展とした。なお、来場者数を把握するため、会場入口の人体検知センサー式人数カウンターで自動測定した。
- ・ 神戸大学主催「神戸大学 in 中津一中津の偉人・水島鍬也先生生誕 150 年記念講演会」に協力して、「水島鍬也先生生誕 150 年記念」小展示を講演会会場（大分県中津市）で開催した。
- ・ 神戸大学第 9 回ホームカミングデイ六甲台五部局企画講演会に協力して、「水島鍬也先生生誕 150 年記念」小展示を講演会会場で開催した。
- ・ 神戸大学第 9 回ホームカミングデイ工学部企画のスライドショー「西代学舎の思い出」（KTC）及び懇親会に協力して、「西代学舎の歴史と変遷」パネル展を各会場で開催した。

平成 26 年度における展示活動の状況

種類	展示テーマ	開催期間	会場	来場者数
常設展	神戸大学史展 —110年の歩みと展望—	常時(特別展開催 時を除く)	神戸大学百年記念館 1階 展示ホール	2,273 名
特別展	官立神戸高商物語—水島鍊也初代 校長生誕 150 年記念—	H26.10.23(水)– H26.10.31(金)	神戸大学百年記念館 1階 展示ホール	599 名
特別展 ミニ展示	官立神戸高商物語—水島鍊也初代 校長生誕 150 年記念— ミニ展示	H26.11.12(水)– H26.12.02(火)	神戸大学百年記念館 1階 観覧スペース	231 名
巡回展 (東京)	官立神戸高商物語—水島鍊也初代 校長生誕 150 年記念— パネル展	H27.01.13(火)– H27.01.22(木)	神戸大学東京六甲クラブ	1,685 名
巡回展 (神戸)	官立神戸高商物語—水島鍊也初代 校長生誕 150 年記念—	H27.02.09(月)– H27.03.15(木)	神戸大学社会科学系図書 館 2階 展示コーナー	7,734 名
企画展	水島鍊也生誕 150 年記念 小展示	H26.05.17(土)	グランプラザ中津ホテル (大分県中津市) ロビー	200 名
企画展	水島鍊也生誕 150 年記念 小展示	H26.10.25(土)	神戸大学出光佐三記念六 甲台講堂 ロビー	284 名
企画展	西代学舎の歴史と変遷 パネル展	H26.10.25(土)	神戸大学工学部 本館多目的室及び中庭	45 名
合計				13,051 名



(常設展の案内チラシ)



(特別展の案内チラシ)



(特別展における来場者の様子)



(特別展)



(巡回展(神戸))

<レファレンス>

- ・ 学内外から 702 件（181 名）の照会があり情報提供を行った。

平成 26 年度におけるレファレンス活動

対 象		件数(人数)	対 象		件数(人数)
神戸大	教員	70 件(22 名)	神戸大	関係諸団体(同窓会等)	58 件(22 名)
	教員以外の職員	131 件(35 名)	他大学	教員	44 件(8 名)
	学生	80 件(2 名)		教員以外の職員	23 件(5 名)
	旧教員	10 件(2 名)	一 般	マスコミ関係	5 件(3 名)
	旧職員	3 件(2 名)		その他(周辺住民等)	146 件(54 名)
	卒業生	132 件(26 名)	合 計		702 件(181 名)

<研修の実施>

- ・ 公文書管理法第 32 条に基づき、本学職員及び大学文書史料室員に対して、次の研修を実施した。

平成 26 年度における研修実施の内容

研修名	対象者	テーマ	開催日	受講者数	備考
新任教職員研修 (講師派遣)	神戸大学の新任教職員	神戸大学法人文書管理について	H26. 04. 10	114 名	総務部人事企画課主催 総務課との 共同で講師派遣
文書管理者研修	神戸大学各部局の文書管理者又は文書管理担当者	神戸大学法人文書の適切な管理に向けて	H27. 02. 09	53 名	総務部総務課との共催
大学文書史料室研修	大学文書史料室員	①国立公文書館の活動に学ぶ ②所蔵文書の活用事例について ③京都大学大学文書館の見学	①H26. 07. 24 ②H26. 07. 24 ③H26. 08. 21	① 4 名 ② 4 名 ③ 4 名	大学文書史料室利用等 要項 30 条 1 項の規定に 基づく室員 研修

<デジタル・アーカイブの充実>

- ・ デジタル・アーカイブの充実を図るため、『神戸高等商業学校 学友会報』第 1 号～第 43 号のデジタル画像 2,104 点を作成した（平成 27 年度に大学文書史料室ホームページ上でインターネット公開予定）。http://lib.kobe-u.ac.jp/www/modules/bunsho_c/index.php?content_id=18

平成 26 年度における電子化事業の状況

対象	デジタル画像作成	記事の見出し入力
『神戸高等商業学校 学友会報』第 1 号～第 43 号 原本 43 冊	2,104 点	0 件(入力済)
合 計	2,104 点	0 件

<その他>

- ・ 内閣総理大臣への状況報告

平成 26 年 7 月 16 日付けで、公文書管理法第 26 条第 1 項の規定に基づき、「平成 25 年度特定歴史

公文書等の保存及び利用の状況」を内閣総理大臣に報告した。なお、本報告の概要は、平成 27 年 1 月に内閣府大臣官房公文書管理課から「平成 25 年度における公文書等の管理等の状況について」として公表された。

・ 他機関からの見学を受入れ

他機関からの見学（視察）が 11 機関 66 名あり、その内訳は下表のとおり。

平成 26 年度における見学の受入れ状況

年月日	大学文書史料室を見学した機関	見学者数
H26. 05. 28	恵泉女学園大学（研究機構事務室職員 1 名、総務部管財課職員 1 名）	2 名
H26. 06. 17	神戸大学附属中等教育学校(明石)(副校長 1 名、主任 1 名、PTA 役員 5 名)	7 名
H26. 07. 03	東京外国語大学文書館（文書館研究員 1 名）	1 名
H26. 07. 18	某民間企業（専属アーキビスト 1 名）	1 名
H26. 10. 02	神戸大学経済学研究科、経済経営研究所（教員 4 名、大学院生 3 名）	7 名
H26. 10. 28	神戸大学文学部講義「博物館資料論」（教員 1 名、受講生 40 名）	41 名
H26. 11. 04	一橋大学（言語社会研究科教員 1 名、附属図書館教員 1 名）	2 名
H26. 11. 18	内閣府（職員 1 名）、国立公文書館（職員 2 名）	3 名
H27. 02. 10	行政管理研究センター（研究員 2 名）	2 名
合計		11 機関 66 名

・ 神戸大学広報誌・同窓会誌への寄稿

広報の充実を図るため、同窓会誌・広報誌などへの寄稿を次のとおり実施した。

- ・ 「中山正實画伯壁画「青春」—大学文書史料室から(10)—」（『凌霜』第 401 号、神戸大学凌霜会発行、平成 26 年 5 月号、32-33 頁）
- ・ 「出光佐三と神大柔道部」（柔道部誌『陣鼓』第 26 号、神戸大学柔道部・柔道部後援会、平成 26 年 6 月、43-46 頁）
- ・ 「水島精神の具現化—中山正實画伯壁画「青春」その 2—大学文書史料室から(11)—」（『凌霜』第 402 号、神戸大学凌霜会、平成 26 年 8 月号、40-41 頁）
- ・ 「中山正實画伯壁画「富士」「光明」「雄図」—大学文書史料室から(12)—」（『凌霜』第 403 号、神戸大学凌霜会、平成 26 年 10 月号、26-27 頁）
- ・ 「神戸大学シンボルカラー「ブリックカラー」について」（神戸大学広報誌『風』Vol.4、神戸大学広報室、平成 26 年 12 月、21 頁）
- ・ 「春入学の先達・神戸高商—神戸大学創立記念日 5 月 15 日の誇り—大学文書史料室から(13)—」（『凌霜』第 404 号、神戸大学凌霜会、平成 27 年 1 月号、28-29 頁）

・ 学内記念事業（水島鍬也先生生誕 150 年記念事業）への協力

- ・ 小冊子『中津の偉人・神戸大学の祖 水島鍬也』（水島鍬也先生生誕 150 年記念事業実行委員会編、神戸大学発行、平成 26 年 5 月刊）の全文を執筆した。
- ・ 神戸大学六甲台第 1 キャンパス内の胸像 4 点及び顕彰碑 1 点の案内説明板（平成 26 年 10 月設置）の全文を執筆した。

・ 神戸大学沿革図の作成

- ・ 本学学務部発行『学生生活案内 平成 26 年度』掲載の本学沿革図（西暦版）を作成した。
- ・ 本学広報室発行『神戸大学概覧 2014』掲載の本学沿革図（元号版）を作成した。

- ・ 本学ホームページ掲載の本学「沿革略図」の更新を担当した。
- ・ **書庫環境の改善**
 - ・ 中性紙ボードを書架に設置
書庫内の書架の棚板（計 100 段）に中性紙ボードを設置し、書庫環境を整備した。
 - ・ 書架の増設
書庫の狭隘化を緩和するため、書架 3 台を書庫内に増設した。

◆評価と課題

平成 26 年度は、内閣総理大臣指定「国立公文書館等」としての責務を果たすため、とくに特定歴史公文書等の一般公開を兼ねて本学記念事業（官立神戸高商初代校長水島鋈也生誕 150 年記念事業）に積極的に協力し、①小冊子『中津の偉人・神戸大学の祖 水島鋈也』を作成、②官立神戸高商及び水島校長の展示を学内外で計 6 回開催、③六甲台第一キャンパス内の胸像及び顕彰碑 5 点の案内説明板を作成するなど、公文書管理法第 23 条が求める特定歴史公文書等の「利用の促進」に努めるとともに、本学の社会貢献に寄与することが可能となった。また、年間 700 件を超える学内外からの各種問合せに対して、積極的なレファレンス対応により利用者の利便性の向上に努めた。

なお、平成 25 年度における附属住吉小学校の閉校及び六甲台第一キャンパス学舎改修工事に伴い、未整理の歴史公文書等が学内で大量に発見されたため、散逸を防ぐための臨時的措置として平成 26 年度に未整理のまま移管を受入れて整理を開始し、通常業務と並行して翌 27 年度末までの目録化を目指す。また、書庫収蔵スペースの狭隘化が極めて深刻な状況にあり、早急に方策を講じる必要がある。

5. 管理運営等

(1) 図書館組織と運営

<管理運営全般>

平成 25 年 4 月より部局長経験者である釜谷武志館長（人文学研究科教授）がその任に当たっている。3 名の副館長の役割分担も以下のとおり平成 25 年度より継続している。

丸山雅祥副館長（経営学研究科教授）	社会科学系図書館担当	広報担当
小野雅之副館長（農学研究科教授）	自然科学系図書館担当	国際交流担当
木下資一副館長（国際文化学研究科教授）	評価担当	大学文書史料室長

<館内諸会議>

＊開催日時、議事内容等は、巻末添付資料に掲載

① 附属図書館運営委員会

- ・ 平成 26 年度は 4 回開催した。

② 附属図書館長・副館長・分館長懇談会

- ・ 平成 26 年度は 4 回開催した。

③ 附属図書館評価委員会

- ・ 平成 26 年度はメール回議にて 5 回開催した。

④ 附属図書館研究開発室会議

- ・ 前年度に体制変更に係る設置要綱の改正を行った。これに従い平成 26 年度当初に電子化部会の 3 部会を廃止し、改めて電子化部会を組織した。
- ・ 前年度新設した教育研究支援部会についても、平成 26 年度は教員 1 名と図書館職員 2 名を室員に増員し、体制強化を行った。
- ・ 平成 26 年度はメール回議にて 2 回開催した。
- ・ 教育研究支援部会は独自に懇談会を 2 回開催した。

⑤ 大学文書史料室運営会議

- ・ 平成 26 年度は 2 回開催した。

⑥ 附属図書館係長会議

- ・ 平成 26 年度は 2 回開催した。

<教育研究基盤資料の充実>

平成 26 年度は全学経費 1.5 億円及び間接経費 1.74 億円を確保し、約 24,000 誌の電子ジャーナルと 20 種のデータベースを全学に提供した。

<「大学文書史料室」の運営>

- ・ 大学文書史料室は平成 22 年 4 月 1 日に附属図書館に設置され、平成 23 年 3 月 30 日付けで、「国立公文書館等」（＝国立公文書館に類する機能を有する施設）として内閣総理大臣の指定を受けている（平成 23 年内閣府告示第 13 号）。活動と評価・課題の詳細は本年次報告 4（1）「大学文書史料室」に記載している。

＜利用者アンケートの実施＞

- ・ 利用者ニーズの把握による図書館サービスの改善のため、1月15日～2月22日を回答期間として利用者アンケートを実施した。平成17年度、21年度に続いて3度目の実施となる。来館利用の動向、Web利用の動向、設備・環境、来館サービス、Webサービスや利用案内、広報等への満足度と要望などを主な調査項目として設定した。回答方法は図書館HPからリンクした回答フォームによるWeb回答を主とし、各館室での冊子配布と回答用紙回収を併用した。また回答へのインセンティブとして、学生回答者の希望者に抽選で景品を提供した。結果、目標とした回答率(全学部生の10%)を上回る、15%からの回答を得ることができた。回答の集計・分析については平成27年度中に実施し、附属図書館運営委員会で報告の上公開する。要望のいくつかは既に平成27年度の事業で改善着手している。

◆評価と課題

本年度の附属図書館運営委員会においては、平成27年度以後の教育研究基盤資料整備事業の方針策定が最大の懸案事項であったが、各部局等の意見、学内外の諸事情を考慮しながら策定を進め、7月10日の部局長会議に於いて、平成27年度の予算確保、平成28年以降の方針について承認された。次年度以降、この方針に沿って各部局等の理解を得、研究大学にふさわしい学術情報基盤に維持に努めることが課題である。

附属図書館研究開発室については、教育研究支援部会が設置から2年目を迎え、懇談会や個別の助言を通じた附属図書館の学修支援活動への寄与が、より顕著に認められた。

(2) 事務組織と人事管理

＜図書館事務組織＞

- ・ 平成26年5月現在、附属図書館事務部は2課18係、定員48名、非常勤職員36名の84名となっている。また経済経営研究所図書係は、定員3名を配置しており、平成22年4月に設置した大学文書史料室は定員1名、非常勤職員3名を配置している。
- ・ 平成26年5月現在、職員の配置状況は、以下のとおりである。

地区	館室	配置係数等	定員職員	非常勤職員	計
六甲地区	総合・国際文化学図書館	サービス課長 2係	5	4	9
	社会科学系図書館	部長 管理課長・補佐 7係	21	17	35
	自然科学系図書館	管理課補佐 3係	7	3	9
	人文科学図書館	1係	3	2	5
	人間科学図書館	1係	3	2	5
楠地区	医学分館	サービス課補佐 2係	3	5	7
名谷地区	保健科学図書室	1係	2	1	3
深江地区	海事科学分館	サービス課補佐 1係	4	1	4
		計	48	36	84

六甲地区	経済経営研究所図書館	1係	3	0	3
	大学文書史料室		1	3	4

- ・ 現在のところ、社会科学系図書館が事実上の中央館として機能しており、企画係・管理係が全館の総務機能を、図書受入係・雑誌情報係・目録情報係は、当該業務に係る全館調整機能と社会科学系図書館及び総合・国際文化学図書館の整理業務を担当している。
- ・ 情報管理課の電子図書館係（社会科学系図書館配置）、同情報システム係（自然科学系図書館配置）及び情報サービス課の情報リテラシー係（総合・国際文化学図書館配置）は、当該業務の全館調整機能を果たしている。
- ・ 情報管理係は、自然科学系図書館及び医学分館に配置し、各館の総務機能と整理部門を担当し、各館室に配置する情報サービス係は、主に各館室のサービス業務を担当している。

＜職員の採用と育成＞

- ・ 近畿地区国立大学法人等職員採用試験図書系専門試験受験者の中から平成 26 年 4 月に職員 2 名を新規採用した。
- ・ 新規採用者は「神戸大学新任職員研修」及び「兵庫県下教育機関事務系職員（新規採用者）研修」を受講した。
- ・ 図書館では、事務系職員の「職員調書」とは別に図書系職員の「意向調書」を実施している。平成 26 年度も職員のキャリア形成に係わる目標や希望に加えて、業務内容やスキルの分析、業務目標の達成度評価等を盛り込み、よりの確な聴取に努め、その結果研修計画等に反映した。
- ・ 国立情報学研究所の主催する各種研修、大学図書館職員長期研修、主題専門知識の研修等に職員を派遣し、スキルアップに努めた。本年度参加の主な研修は次のとおりである。

区分	研修名	主催	日程	参加者
若手職員向けの基礎研修	大学図書館近畿イニシアティブ基礎研修「初任者研修」	大学図書館近畿イニシアティブ	6/26-27	係員 3
	図書館等職員著作権実務講習会	文化庁	9/10-12	係員 3
	大学図書館職員短期研修	国立情報学研究所	10/7-10	係員 1
中堅職員向けの研修	大学図書館職員長期研修	筑波大学	6/30-7/11	係長 1
	国立大学協会近畿地区支部「中堅職員研修」	国立大学協会近畿地区支部	11/25-26	係員 1
	神戸大学係長相当職研修	神戸大学	12/18-19	係長 2
管理職向けの研修	コーチング(課長級)研修	神戸大学	9/19	課長 1 補佐 1
	目録システム講習会(図書)講師ガイダンス	国立情報学研究所	5/27-28	係員 1
	神戸大学事務職員国際業務研修対応力向上研修	神戸大学	5月-7月、毎週計 8 回	係員 1
個別業務の専門的知識のための研修	第 15 回西洋古典資料保存講習会	一橋大学社会科学古典資料センター	7/2-4	係員 1
	アプリケーションソフトウェア研修(Access 実践)	神戸大学	8/20,22,25,27	係員 1
	神戸大学事務職員国際業務研修実務力養成研修	神戸大学	8/22-9/12、計 6 回	係員 1
	目録システム講習会(雑誌コース)	国立情報学研究所	9/3-5	係員 1

目録システム講習会(図書コース)	国立情報学研究所	9/10-12	係員 4
整理力向上研修	国立大学協会近畿地区支部	9/17,18	係長 1
漢籍担当職員講習会(初級、中級)	京都大学	9/29-10/3、 11/10-14	係員 1
NAIST 電子図書館学講座	奈良先端科学技術大学院大学	10/30-31	係長 1
近畿地区国立大学法人等会計事務研修	国大協近畿地区支部、 大阪大学(当番校)	11/10-12	係員 2
西洋社会科学古典資料講習会	一橋大学社会科学古典 資料センター	11/12-14	係員 1
平成 26 年度学内会計事務研修	神戸大学	11/18-19	係員 1
医学図書館研究会継続教育コース	医学図書館研究会	11/19-21	補佐 1
神戸大学広報研修会	神戸大学	11/27,12/4,12/11	係長 1 係員 1
学術情報ウェブサービス担当者研修	国立情報学研究所	12/10-12	係員 1

1 日以内の講演 会・研修会等	・第 4 回神戸大学 ICT フォーラム ・USACO アカデミックセミナー「ヘル スサイエンス図書館の新しい役割と 機会:米国の状況」 ・NII 学術情報基盤オープンフォーラ ム 2014 ・平成 25 年度公文書管理研修I ・サンメディア学術情報ソリューション セミナー ・富士通大学図書館ソリューションセ ミナー ・セキュリティ(ネットワーク)研修 ・Ex Libris ソリューションデイ 2014 ・「図書館機能強化プログラム」講演 会 ・第 2 回 SPARC Japan セミナー2014 ・研修会「図書館における学習サポ ートを探る」 ・私大図協阪神地区協議会学習支 援プロジェクト研修 ・第 3 回 SPARC Japan セミナー2014	兵庫県大学図書館協議会、 国立大学図書館協会、兵庫 県図書館協会、京都大学、 大阪大学、神戸大学ほか (主に近畿地区で開催され るもの)	各半日～1 日	管理職 を含め 延べ 58
--------------------	---	---	---------	---------------------

	(オープンアクセス・サミット 2014 第 1 部) ・兵庫県大学図書館協議会研修会 ・図書館のためのブックフェア 2014 「POP は楽しい～手作り POP の魅力と作り方教室」 ・研修会「図書館での学びをデザインするために」 ・大学教育推進機構 FD・SD セミナー「学生による授業支援の可能性」 ・メンタルヘルス・マネジメント検定試験Ⅱ種受験を含むメンタルヘルス研修 ・平成 26 年度京都大学図書館機構講演会 ・神戸大学スキルアップ研修「プレゼンテーション研修」 ・国大図協シンポジウム「学生の学習活動を促すもの」 ・講演会「コンテンツとツーリズムと図書館と…奈良県立大学「地域創造データベース」は地域を創造できるか！？」 ・第 11 回レファ協データベース事業フォーラム			
--	---	--	--	--

- ・ 上記に加え、附属図書館職員の知識習得を目的として内部研修を次のとおり開催した。
 - ・ 社会科学系図書館本館施設改修説明会
(5/15 開催、解説：足立裕司名誉教授 参加者数：図書館内：50 名以上、館外：十数名)
 - ・ トムソン・ロイター データベース (ESI) 講習会
(8/6 開催、参加者数：図書館内：18 名、館外：30 名)
 - ・ ラーニングコモンズ見学報告会
(11/25 開催、発表：サービス企画 WG 係員 5 名、参加者数：図書館内：22 名、館外：9 名)
- ・ 大学文書史料室では、室員が講師となって、学内職員に対する文書管理の研修を次のとおり実施した。
 - ・ 「神戸大学新任教職員研修」の「法人文書管理について」のコマを担当 (受講者数：114 名)
 - ・ 「神戸大学文書管理者研修」(受講者数：53 名)
 - ・ 大学文書史料室職員に対する研修：3 回

＜業務の改善と効率化・合理化＞

① 業務の標準化・合理化

- ・係横断的なワーキンググループ(以下 WG)を組織し、業務の合理化及び質的向上を図った。平成 26 年度は、情報リテラシー教育支援 WG・目録システム地域講習会実施 WG・総合図書館資料選定委員会・資産管理 WG・展示 WG・書庫環境調査チーム・次期図書館システム検討 WG・サービ企画 WG が活動した。
- ・前年度の附属図書館業務改善検討 WG は資産管理 WG に改編し、平成 24 年度に策定された資料収容力確保策の見直しに基づいて、引き続き総合・国際文化学図書館での集中廃棄作業を中心に、全館で重複資料・破損した資料・教育研究上の価値を失った資料等の除却を実施し、収容力確保に努めた。

② アウトソーシング

- ・定員削減等に対応した業務の軽減方策として、雑誌製本業務、図書装備付納品、目録遡及入力業務、社会科学系図書館・医学分館・保健科学図書室の時間外開館業務、電子化コンテンツの作成業務、廃棄図書搬出業務のアウトソーシングを実施した。また資産点検業務は、総合・国際文化学図書館、社会科学系図書館、人文科学図書館、経済経営研究所図書館、海事科学分館において計約 41 万冊のアウトソーシングを実施した。

③ 業務改善の検討

- ・平成 23 年度に立ち上がった神戸大学業務改善ワーキンググループは、平成 26 年 9 月をひと区切りとすることになった。ここまで附属図書館が挙げた業務における改善事項は、下記(1)、(2)であり、継続検討事項とした。
 - (1)資産管理計画の策定：遡及入力
第 2 期中期計画において遡及入力事業の終了を目指し推進を図る。
 - (2)資産管理計画の策定：資産点検
資産点検にかかる業務軽減を目的としたアウトソーシングの推進を図る。
- ・全学の業務改善は、平成 26 年 10 月を起点として新たな枠組みで検討することとなり、附属図書館も改めて業務改善ワーキンググループを組織し取り組むこととなった。各業務の現状の課題と対策及び新規業務について洗い出し、挙げた検討事項の現状把握と他大学の事例調査を行い、取りまとめた。

◆評価と課題

学外の各種図書館関連研修、情報関連研修、専門主題に関わる研修に職員を派遣した。また、学内の学修・教育支援に関する講演会や安全衛生・メンタル関連の研修を職員に受講させた。その研修成果は、報告書の提出により他の職員の能力開発に役立てている。

時間外開館業務のアウトソーシングについては、平成 26 年度から保健科学図書室も加わり、労務管理業務の縮減が進んだ。業務改善事項となっている遡及入力及び資産点検は、アウトソーシングにより集中的作業が可能になり効率化につながることで、第 2 期中期計画期間中での完了に向け各計画を進めることができた。平成 26 年 10 月からは新たな枠組みで全学の業務改善が検討されることになり、附属図書館も検討事項と検討状況を取りまとめた。今後はこれに従い改善の推進を図ることとなる。

(3) 予算及び財務会計業務

<平成 26 年度附属図書館予算・決算>

① 経常運営費

- ・平成 26 年度当初予算 170,085 千円 決算額 170,371 千円であった。
- ・平成 25 年度の当初予算 169,527 千円、決算 167,708 千円と比較して、当初予算と決算額は増額しているが、いずれも光熱水料の値上げに対応した増額が主たる要因である（当初予算額 H25 予算比 558 千円 0.3%増、H24 決算比 2,663 千円 1.6%増）。

② 経常事業費

- ・平成 26 年度当初予算 212,323 千円 決算額 218,355 千円であった。（大学文書史料室管理運営経費を除く）
- ・平成 25 年度の当初予算 219,221 千円、決算 224,603 千円と比較して、当初予算が減額となり、学生用資料費、附属図書館館長裁量経費等の配分額を減らし、決算額も減額となった（当初予算額 H25 予算比 6,898 千円 3.2%減、H24 決算比 6,248 千円 2.8%減）。
- ・平成 26 年度の学生用資料費と大学文書史料室管理運営経費は、運営費交付金の前年度比 1.3%減にあわせ、いずれも 25 年度から 1.3%減のそれぞれ、59,220 千円と 7,402 千円となった。

③ 臨時的経費

- ・教育研究基盤資料整備費(3.24 億円)により、外国雑誌を含む電子ジャーナル・データベースの維持及び整備を実施した。
- ・設備更新費(12,8000 千円)により、人文科学図書館の老朽化した電動式集密書架 4 ブロックのうち 1 ブロックをハンドル式集密書架に更新した。
- ・研究大学強化促進費補助金(150 千円)により、英語論文セミナーを開催した。

④ その他の経費

- ・電子図書館事業である新聞記事文庫デジタル化について、「科学研究費補助金(研究成果公開促進費)」が不採択となったため、電子図書館事業費により可能な範囲で事業を行ったが、約 1,500 記事の追加作成にとどまった。
- ・電子図書館事業については、平成 26 年度「公益振興財団法人図書館振興財団助成金」(950 千円)を獲得し、データベース改修と新聞記事文庫原本（切抜帳 1 冊及びマイクロリール 4 リール）の修復を行った。

○平成 26 年度附属図書館予算及び決算を巻末に添付する。

<図書資産の管理>

① 図書資産点検

- ・平成 26 年度の資産点検は、総合・国際文化学図書館、社会科学系図書館、人文科学図書館、経済経営研究所図書館、海事科学分館の 5 館で実施し、点検総冊数は 412,278 冊である。

② 不明資料の追跡調査

- ・平成 23～25 年度資産点検時から不明となっている資料について、追跡調査を実施した。
（資産点検時不明資料 16,131 点、追跡調査による発見資料 13,727 点、追跡調査後不明資料 2,404 点）

③ 不用決定

- ・不明後 3 年以上経過している資料（平成 22 年度資産点検時からの不明資料）を不用決定した。(905 点、資産価格 4,239,440 円)

- ・重複資料やオンラインで利用可能となった資料等を不用決定した。(43,559 点、資産価格 124,318,918 円)

◆評価と課題

教育研究基盤資料整備費として所要額 3.24 億円の財源を確保し、24,128 誌の電子ジャーナルと 34 種のデータベースを全学に提供維持すると共に、20%の外国雑誌購読補填を実施した。

平成 26 年度経常運営費及び経常事業費の当初予算総額は、25 年度より 6,340 千円 1.9%減額となり、経常運営費はやや増額したが経常事業費の予算は大幅な減額となった。

平成 27 年度は運営費交付金減額分による経常経費の 4,300 千円の減額により、26 年度とほぼ同額の当初予算総額にとどまった。引き続き学習環境の整備や安全衛生環境の改善を効率的に実施する必要がある。

図書資産点検は、資産の効率的運用を図るために中期計画期間と同じ 6 年周期で一巡する計画を立て、第 1 期中期計画期間（平成 16・21 年度）において目標を達成することが出来た。平成 26 年度は第 2 期中期計画期間（平成 22・27 年度）の 5 年目であり、総合・国際文化学図書館、社会科学系図書館、人文科学図書館、経済経営研究所図書館、海事科学分館の 5 館において、約 41 万冊の図書資産点検をアウトソーシングで実施した。平成 23～25 年度資産点検時から不明となっている資料についても追跡調査を実施すると共に、「不明後 3 年以上経過している資料（平成 22 年度資産点検時からの不明資料）」について追跡調査及び不用決定を実施し、図書資産の管理を継続した。平成 27 年度も資料収容スペースの確保のため、集中的に資料整理作業を実施する必要がある。

（４）施設整備・システム整備

＜各館室の施設整備・設備更新＞

- ・平成 26 年度における主な事項は、以下のとおりである。

総合・国際文化学図書館	自動貸出装置修理、防犯カメラ修理
社会科学系図書館	自動貸出装置修理、貴重書庫空調機修理、防犯カメラ機器一部更新
自然科学系図書館	空調機修理、除湿機増設（書庫）
人文科学図書館	電動式集密書架1ブロックをハンドル式集密書架に更新、自動貸出装置修理
人間科学図書館	閲覧室のサッシ更新
経済経営研究所図書館	展示用書架新設
医学分館	空調機修理、閲覧机修理
保健科学図書室	自動貸出装置更新、除湿機更新（書庫）
海事科学分館	1 階学生自習室にグループ学習コーナーを設置

- ・以上に加え、消費電力の縮減のため各館の旧型冷蔵庫を合計 6 台、学内コスト削減プロジェクト推進会議からの廃棄費用支援を活用して更新した。

＜安全点検＞

- ・前年度に設置した附属図書館安全衛生会議を、平成 26 年度からは構成単位である社会科学系図書館と自然科学系図書館と大学文書史料室の 3 館室のみならず、附属図書館全体の安全衛生事項の周知・報告の場として運用することとした。

- ・安全衛生活動計画を策定し、週 1 回の衛生管理者による巡視を実施した。
- ・火元責任者による防火防災の自主点検を実施した。

＜書庫環境改善＞

- ・書庫においてカビの発生が見られるようになったことから、前年度にワーキンググループとして書庫環境調査チームを組織し、各館・室の書庫に温湿度自動記録器(データロガー)を設置して環境の点検調査を行い、調査結果、評価、提言を中間報告として取りまとめた。環境調査及び対策の立案等には継続的な活動が必要なことから、平成 26 年度もワーキンググループの活動を延長し、調査結果データの分析、環境評価、各館・室での対策の立案・実施の補佐を手がけ、今後の書庫環境改善に資するべく、活動の成果として「書庫環境調査チーム平成 26 年度報告書」を作成した。

＜情報機器の更新＞

- ・Windows XP のサポート終了に伴い、端末の入替・OS のアップグレードにより、Windows 7 への更新を行った。また、国立国会図書館の「図書館向けデジタル化資料送信サービス」および「歴史的音源（れきおん）配信サービス」に対応する端末の整備を行った。
- ・利用者用 PC 等の設置台数は次のとおりである。

	総・国	社会	自然	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合 計
PC 台数	48	42	37	24	19	1	19	14	14	218
教育用端末(*1)	(37)	(28)	(32)	(16)	(13)	(0)	(14)	(10)	(11)	(161)
蔵書検索用端末等(*2)	(10)	(14)	(5)	(6)	(6)	(1)	(5)	(4)	(2)	(53)
スタンドアロン	(1)	(0)	(0)	(2)	(0)	(0)	(0)	(0)	(1)	(4)
情報コンセント	80	19	9	19	9	0	30	2	12	180
無線 LAN(*3)	3	6	3	2	2	0	3	2	2	23

注) (*1) 情報基盤センター教育研究用計算機システムの教育用端末

(*2) 「図書館向けデジタル化資料送信サービス」「歴史的音源（れきおん）配信サービス」に対応する端末を含む

(*3) 附属図書館内に情報基盤センターが設置

＜システム整備＞

- ・平成 28 年 9 月に予定されている図書館システムのリプレースに向け検討を開始し、仕様策定委員会の設置・資料提供招請を行った。
- ・学術認証フェデレーション（学認, GakuNin）の新規参加 SP についての利用申請を進めた。平成 26 年度は 3 件（ジャパンナレッジ Lib・医中誌 Web・Maruzen eBook Library）の申請を行い、計 18 の電子リソースが利用可能となった。（平成 27 年 3 月末現在）

＜自動貸出装置等＞

○24時間入退館管理システム	自然科学系図書館、医学分館
○入退館管理システム	全館室（研究所を除く）
○自動貸出装置	全館室（研究所を除く）
○BDS（無断持出防止装置）	全館室（研究所を除く）
○セルフ式コピー機（コイン式等）	全館室

◆評価と課題

既に人文科学図書館と社会科学系図書館にラーニングコモンズを設置済だが、平成 27 年度には総合・国際文化学図書館を含む鶴甲 1 地区にラーニングコモンズを設置する。引き続き更なる学習支援機能の強化のため、自然科学系図書館でのラーニングコモンズ設置計画を推進する必要がある。

平成 26 年度の学習環境の整備や安全衛生環境の改善については、経常経費の大幅な減額のもと、緊急性と必要度の高いものを実施した。主な課題としては以下のものがある。

1. 自然科学系図書館外壁タイルについて、浮きやクラックが多数あり落下の危険性があるため早期の改修が必要である。
2. 医学分館と海事科学分館の空調設備は、故障が発生しており、利用者サービスや業務に支障をきたしているため更新が必要である。
3. 各館室で発生する雨漏りについては、引き続き調査・補修及び防水工事等の対応が必要である。
4. 海事科学分館のエレベーターが車椅子対応でなく老朽化も進んでおり改修が必要である。

システムについては、消費税増税への対応など、継続して業務担当者の支援を行うとともに、サーバ等の脆弱性対応など、安定した稼働を維持してきた。平成 27 年度は、図書館システムのリブレースに向けて、サービスの継続的な展開を念頭に、導入仕様を決定し、調達手続きを進めることが最大の課題である。

(5) 図書館界での諸活動

<国立大学図書館協会>

- ・ 西ブロック（近畿地区）の監事館を務めた。
- ・ 「教育学習支援検討特別委員会」の委員を務めた（事務部長）。
- ・ 「実践事例普遍化小委員会」の委員を務めた（事務部長）。

<兵庫県大学図書館協議会>

- ・ 平成 25 年度に引き続き、会長館、事務局として協議会の運営にあたった。
研修事業においては、研修担当館による事業の企画・運営を事務局として補助した。
 - ・ 研修会「ラーニング・コモンズと学修支援」
 - ・ 研究会「機関リポジトリと著作権」
- ・ 総会において、平成 25 年度の活動成果として、資料保存スペースの狭隘化対策と廃棄等について、学習支援関連の状況について、図書館活動の広報について、事例報告と質疑応答を行った。活発に情報交換がなされ、今後の大学図書館の展開を模索する上でも貴重な情報共有ができた。
- ・ 県内の大学図書館にとどまらず、公共図書館や大学図書館近畿イニシアティブ加盟館とも連携強化を図っている。

<イベントの開催>

- ・ 大学図書館をめぐる最新の情報を提供するべく、「未来の図書館：図書館の新たなミッション」と題して、以下の 2 つのイベントを主催・企画した。開催にあたり、国立大学図書館協会や大学図書館近畿イニシアティブのメーリングリスト等を通じ、全国の大学図書館等に向けて広く参加を募った。
 - ☆ その 1：「オープンアクセスウィーク・ワークショップ」
（日程：10 月 22 日、参加人数：16 大学より 50 名）
オープンアクセスジャーナルや機関リポジトリの話題を中心に、学術情報流通の現状と今後をめぐり、3 名の講師による講演とパネルディスカッションを行った。

☆ その２：「大学図書館職員のための『研究戦略・研究評価』セミナー」

（日程：12月15日、参加人数：19大学・研究施設より54名）

本年度の国立大学図書館協会近畿地区協会地区助成事業に採択された。

図書館業務を研究支援業務につなげる可能性や URA の業務の実際等について、3名の講師による講演・報告とパネルディスカッションを行った。

＜研修等への講師・発表者の派遣＞

- ・ 国立情報学研究所等が開催する研修や講習会に、平成26年度は次のとおり職員を講師・発表者として派遣した。

研修名	主催	会場	日程	講師
大学図書館近畿イニシアティブ基礎研修「初任者研修」	大学図書館近畿イニシアティブ	大阪市立大学	6/26-27	情報リテラシー係長
目録システム講習会(図書コース)	国立情報学研究所	神戸大学	9/10-12	係員5
京阪奈3教育大学図書館連携プロジェクト研究会	京阪奈3教育大学図書館連携プロジェクト	大阪教育大学	9/30	情報リテラシー係長
図書館総合展フォーラム	図書館総合展運営委員会	パシフィコ横浜	11/6	電子図書館係員 (事例発表)
目録システム地域講習会(雑誌コース)	国立情報学研究所	福井大学	11/12-14	情報システム係員
2014年第2次OAKリポジトリ運営協議会ワークショップ	韓国科学技術情報研究院	韓国国立中央図書館(ソウル)	11/20	事務部長(講演)
目録システム地域講習会(図書コース)	国立情報学研究所	国立情報学研究所	12/3-5	目録情報係員
ビブリオバトルシンポジウム2014	ビブリオバトル普及委員会、活字文化推進会議	立命館大学朱雀キャンパス	12/13	総合・国際文化学情報サービス係員
Tell-Netフォーラム	Tell-netフォーラム実行委員会・人と防災未来センター	人と防災未来センター	2/22	電子図書館係員 (事例報告)

＜その他＞

- ・ 近畿地区国立大学等職員採用図書系専門試験実施委員会の委員を務めた。
- ・ 近畿イニシアティブ運営委員会の委員を務めた。
- ・ 近畿イニシアティブ能力開発専門委員会の委員を務めた（情報サービス課長補佐）。

◆評価と課題

国立大学図書館協会や兵庫県大学図書館協議会の活動において、会員間で緊密な連携と協力を図ることによって、それぞれの図書館機能の向上を支援するとともに、学術情報資源の共同整備と相互利用を促進している。

平成26年6月より国立大学図書館協会の監事館として、総会準備等に携わり円滑な運営に努めている。

研修事業について、講師を積極的に派遣することは、図書館諸団体の活動・運営に寄与するのみならず、講師として参加する職員の資質向上につながるものであり、大いに評価できる。今後も推進が期待される。

達成度評価

(1) 達成度評価特記事項

項 目	「業務運営の改善及び効率化」
特記事項	該当なし
項 目	「財務内容の改善」
特記事項	該当なし
項 目	「自己点検・評価及び情報提供」
特記事項	《利用者ニーズ・満足度調査及び年次報告書による自己点検評価》 【取組内容】 ・自己点検評価を含めた「平成25年度神戸大学附属図書館年次報告書」を発行し、ホームページで公開した。 【成果・効果】 ・「平成25年度神戸大学附属図書館年次報告書」発行により、附属図書館の組織や活動全般について網羅的に点検・評価を行うことができた。
項 目	「教育研究等の質の向上」
特記事項	《ラーニングコモンズ等の自習施設の整備》 【取組内容】 ・既設ラーニングコモンズを利用した新たな取組を展開した。(オフィスアワーによる学習支援(人文科学図書館、拡大版オフィスアワー「留学」(10月8日開催、12名参加))、レファレンス・カウンター(総合・国際文化学図書館)、初年次向けライティングセミナー(社会科学系図書館、10月16日11名参加、29日15名参加)等) ・第2期中期計画新規事業として、大学教育推進機構およびキャリアセンターと協同で鶴甲第1キャンパスA棟へのラーニングコモンズ(Aタイプ)設置について設計・運用を検討中である。 ・ラーニングコモンズ運用準備委員会の立ち上げに参加し、運用面の準備を開始した。 【成果・効果】 ・自習施設の整備により、学習支援活動が実施可能となり、さらなる施設整備の拡大につなげることができた。 《利用者アンケート等による施設・設備等の整備状況、教育支援活動の点検・評価》 【取組内容】 利用者アンケート等による施設・設備等の整備状況、教育支援活動の点検・評価 ・利用者アンケートを実施し、目標数を上回る回答を得た。(1月15日～2月22日 総回答数2,294件 回答率約15%)施設・設備等の整備状況、教育支援活動の点検・評価に用いるため分析中である。 【成果・効果】 ・目標数の10%を上回る15%の回答を得ることができ、今後の施設・設備整備状況の改善、及び教育支援活動の拡大のための重要な評価材料とすることができた。 《教育支援活動の拡大》 【取組内容】 ・全学共通科目「教養原論」担当教員と連携したパスファインダー(授業資料ガイドKULiP)を作成した。 ・全館室共同および各館室ごとの企画による図書のテーマ展示を実施した。(9館室、のべ15回 9月末現在) ・研究推進課との連携により、研究大学強化促進事業の一環として、若手研究者のための英語論文セミナーを開催した。(2月4日開催、101名参加) 【成果・効果】 ・教員や他部署と連携し、教育支援活動を拡大することができた。 《教育研究基盤資料の維持・提供》 【取組内容】 ・平成26年度は全学経費(1.5億)及び間接経費(1.74億)により、電子ジャーナル(20,244誌)及びデータベース(33種)の提供維持、20%の外国雑誌購読補填を実施した。 ・平成27年度以降の教育研究基盤資料整備事業について、値上げ及び為替変動による価格高騰への対応のほか、海外の電子資料配信に対する消費課税化も想定の上、各部局等へ対応策案の提示と意見聴取を実施した。更に、その結果を基に対応策を提案した。 【成果・効果】 ・価格高騰の課題に対応し、教育研究基盤資料の提供を維持することができた。

項 目	「教育研究等の質の向上」
特記事項	《「震災文庫」における阪神・淡路大震災関係資料の収集・保存・公開》
	【取組内容】 ・資料展「つたえる・つながる：阪神・淡路大震災20年」を人と防災未来センターとの協力により開催した。（会場：社会科学系図書館、第1期：10月17日～11月16日、第2期：12月24日～1月29日、映画上映会10月30日）
	【成果・効果】 ・震災発生から20年にあたり、改めて当時の被害や様子を伝えることができたとともに、「震災文庫」の取り組みも紹介することができた。
	《生涯学習支援と地域社会への貢献》
	【取組内容】 ・オープンアクセスウィークにオープンデータについてのワークショップを企画・開催した。（10月22日開催、50名参加） ・国立大学図書館協会近畿地区の助成事業に企画（大学図書館員のための「研究戦略・研究評価」セミナー）が採択され実施した。（12月15日開催、54名参加）
	【成果・効果】 ・企画が実施できたことにより近隣大学の図書館機能向上に寄与することができた。
	《大学文書史料室の活動》
	【取組内容】 ・神戸大学の創立起点となる神戸高等商業学校初代校長水島鏡也先生生誕150年を記念して、特別展「官立神戸高商物語」を中心とする展示会を計6回開催（神戸4回、東京1回、大分県中津市1回、来場者計10,496名）するとともに、小冊子『水島鏡也』全ページの執筆、六甲台第一キャンパスにある胸像などの案内説明板計5点の執筆及び『マンガ水島鏡也』（中津市教育委員会）の監修協力を実施した。
	【成果・効果】 ・神戸大学史の展示等の実施により、広く一般市民に本学への理解を深める機会を提供し、学生及び教職員に対するアイデンティティ確立の一助となるとともに、貴重史料の初公開を通して地域社会の発展に寄与することができた。

(2)達成度評価表

全学中期計画 (年度計画附属図書館担当部分のみ抜粋)	年度計画	自己評価	実績
I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標 1. 教育に関する目標 (2)教育の実施体制等に関する目標 ○国際的教育研究拠点としてふさわしい、充実した教育を実施するための教育実施体制を強化する。 ・明確な責任体制の下、大学として必要な教育基盤環境を充実させる。	・教育基盤環境の充実を図るため、ラーニングコモンズ等の自習施設の整備を進めるとともに、利用者アンケート等による施設・設備等の整備状況の評価を実施する。	Ⅲ	○ラーニングコモンズ等の自習施設の整備について ・既設ラーニングコモンズを利用した新たな取組を展開した。(オフィスアワーによる学習支援(人文科学図書館、拡大版オフィスアワー「留学」(10月8日開催、12名参加))、レファレンス・カウンター(総合・国際文化学図書館ミニコモンズ)、初年次向けライティングセミナー(社会科学系図書館、10月16日11名参加、29日15名参加)、震災展示の一環としての映画上映会(社会科学系図書館グループ学習室、10月30日開催、25名参加)等) ・学内諸会議において神戸大学ラーニングコモンズWG報告書(設置ガイドライン・運用デザイン等)について説明を行った。 ・第2期中期計画新規事業として、大学教育推進機構およびキャリアセンターと協同で鶴甲第1キャンパスA棟へのラーニングコモンズ(Aタイプ)設置について設計・運用を検討中である。 ・ラーニングコモンズ運用準備委員会(仮称)の立ち上げに参加し、運用面の準備を開始した。 ・ラーニングコモンズをはじめ、学習スペースの確保拡充のため、重複雑誌等の廃棄による収容スペース確保の作業、およびその前提となる図書目録遡及入力作業を、今中期計画中(平成27年度まで)の完了を目指して計画に基づいて実施中である。 ・図書館内に設置するラーニングコモンズの利点である学習用資料を活用した学習の充実を図るため、学生用資料費として当初配分で約60,000千円弱を確保し、各館室の学生用資料、シラバス掲載図書及びE-Study資料(9点)の整備を実施した。 ・全館の書庫環境を調査し、それを基に書庫環境の保全・改善策を計画的に実施した(自然科学系図書館、保健科学図書室)。さらに環境調査、改善策の検討を行い報告書を作成した。 ・六甲台Ⅰ地区総合研究棟(社会科学系)高度専門国際人材育成拠点概算要求のⅡ期計画として100万冊を収容できる自動化書庫の導入し、資料を集中保存することにより、学修・教育・研究用スペースの拡大を計画している。 ○利用者アンケート等による施設・設備等の整備状況の点検・評価 ・利用者アンケートを実施し、目標数の10%を上回る15%の回答を得た。(1月15日～2月22日 総回答数2,294件) ・同アンケートおよび「H25年度学生生活実態調査」における評価結果に基づき、H26年度中に「開館時間拡大」(海事科学分館)、H27年度より「開館日・開館時間拡大」(自然科学系図書館ほか7館)「自習環境の改善」(医学分館)の実施を決定し、学習環境の改善を行った。また要望の多かった「トイレ改修」「グループ学習スペースおよび自習スペース増設」「電源・無線LAN・プリンター増設」「空調改修」の事項について、H27年度事業計画・営繕要求等での実施決定または上位要求中である。
1. 教育に関する目標 (3)学生への支援に関する目標 ○学生に対する修学支援、生活支援、キャリア形成支援等を充実させる。 ・修学支援を充実させるため、学習相談をはじめとした支援体制を点検・評価し、改善する。	・情報リテラシー教育を充実させるため、全学共通授業科目「情報基礎」の中で附属図書館が担当する「情報の活用」の講義・実習において、図書館が有する情報を一層活用し、教育支援活動の更なる拡大を図る。また、利用者アンケート等による点検・評価を実施する。	Ⅲ	○教育支援活動について ・全学共通授業科目「情報基礎」(1年次必修)において、1コマ(90分)を、附属図書館各館室の職員で構成する「情報リテラシー教育支援ワーキンググループ」のメンバー10名が担当して授業を実施した。 ・新入生を対象とした図書館ツアー・ガイダンス、留学生オリエンテーション、雑誌論文の探し方ガイダンス、専門講師によるデータベース操作説明会、教員等からの要望にもとづくオーダーメイドガイダンス等を実施した。 ・全学共通科目「教養原論」担当教員と連携したパスファインダー(授業資料ガイドKULiP)を作成した。(22科目 平成26年度) ・国際コミュニケーションセンターや研究科と連携し、英語多読資料を提供した。(総合・国際文化学図書館、海事科学分館) ・TOEIC/TOEFL、留学、日本文化・異文化理解等に関する図書コーナーを設置し、グローバル人材育成および語学学習への支援を実施した。(グローバル図書コーナー(総合・国際文化学図書館、社会科学系図書館、人文科学図書館、人間科学図書館)配置タイトル数:1,791冊 平成26年度) ・全館室共同および各館室ごとの企画による図書のテーマ展示を実施した。(9館室、のべ36回 平成26年度) ・研究業績統計情報データベース講習会を開催した。(8月6日開催、48名参加) ・研究推進課との連携により、研究大学強化促進事業の一環として、若手研究者のための英語論文セミナーを開催した。(2月4日開催、101名参加) ○利用者アンケート等による教育支援活動の点検・評価について ・「情報基礎」の図書館担当コマ「情報の活用」では授業後全学生にアンケートを実施し回答を得ている。図書館に足を運び実際に本を探す実践的な課題内容に良好な反応が多い。 ・各種ガイダンスにおいても参加者にアンケートを実施している。とりわけ若手研究者のための英語論文セミナーは評価が良好で、要望に応えての毎年開催となっている。 ・「附属図書館利用者アンケート」を実施し、目標数を上回る学部生15%から回答を得た(総回答数2,294件)。同アンケートにおける評価結果から、学生への図書館についての基本的な情報提供不足に対応するため、広報ツールの改善及び企画(利用案内改良・SNS活用・うりぼーネットへの掲載・スマートフォンアプリ企画)を実施した。
2. 研究に関する目標 (2)研究実施体制等に関する目標 ○国際的教育研究拠点として、卓越した研究成果を創出するための研究実施体制等を充実させる。 ・研究者の自律性を尊重し、それぞれの学術領域における研究が発展し得るよう、大学として必要な研究基盤環境を整備する。	・外国雑誌を含む電子ジャーナル及びデータベース等の教育研究基盤資料の維持・提供に努めるとともに、平成27年度以降の教育研究基盤資料の維持方策の検討を進める。また、外国雑誌センター館として資料収集と提供に努めるとともに、「神戸大学学術成果リポジトリ」のコンテンツを充実させることにより、附属図書館の研究支援機能を向上させる。	Ⅲ	○教育研究基盤資料の維持・提供について ・平成26年度は全学経費(1.5億)及び間接経費(1.74億)により、電子ジャーナル(20,244誌)及びデータベース(33種)の提供維持、20%の外国雑誌購読補填を実施した。 ・各出版社と契約方法の代替案や新規提案について調査・交渉を実施した。 ・平成27年度以降の教育研究基盤資料整備事業について、値上げ及び為替変動による価格高騰への対応のほか、海外の電子資料配信に対する消費課税化も想定の上、各部署等へ対応策案の提示と意見聴取を実施した。更に、その結果を基に対応策を提案した。 ・部局長会議にて、平成27年度は全学経費1.5億、部局負担0.2億、残り約1.7億余りを間接経費で補填する計画が了承された。平成28年度以降については、予算の上限を4億として現状のタイトル数を維持する提案を行い、方向性として了承された。 ○外国雑誌センター館について ・外国雑誌センター館として国内の他機関で未収集の外国雑誌869誌を収集・整理し、全国に文献複写等の情報サービスを提供した。 ・学内外の利用者への迅速な雑誌所蔵情報提供のために、国立情報学研究所全国総合目録データベースへのデータ更新を実施した。 ○「神戸大学学術成果リポジトリ」のコンテンツ充実について ・「神戸大学学術成果リポジトリ」のコンテンツ収集のため、執筆者への登録依頼を頻繁に実施し、コンテンツを増やす活動を進め、登録数は22,000件を超えた。 ・機関リポジトリを利用した学位論文(博士)の公表について、関連部局と連携し、論文の収集を実施、公開を開始した。(全論文数390件のうち公開183件、公開予定117件 平成27年3月学位授与分を除く) ・出版社版のPDFが登録可能なPLOS ONEやBioMed Central等、OAジャーナル掲載論文28件を登録した。 ・ニューズレター「Kernel通信」を年2回発行し、広報を実施した。

全学中期計画 (年度計画附属図書館担当部分のみ抜粋)	年度計画	自己評価	実績
3. その他の目標 (2) 社会との連携や社会貢献に関する目標 ○国立大学の公的な役割を踏まえ、教育研究成果の社会還元を通じて、積極的な社会貢献を行う。 ・大学の施設・設備の開放、知的資産及び授業の公開等を推進し、地域社会の発展に寄与する。	・教育研究成果の社会還元を図るため、震災関係資料・新聞記事文庫及び古文書等の図書館所蔵資料や学内研究成果等の電子化を更に推進し、デジタルアーカイブにおいて公開する。また、図書館所蔵資料による資料展を開催し、一般市民への生涯学習支援と地域社会への貢献を図る。	Ⅲ	○図書館所蔵資料や学内研究成果等の電子化・公開 ・阪神・淡路大震災関連の資料収集を引き続き進めるとともに、震災文庫電子化を継続している。 ・「阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター」、「兵庫県立図書館」と「震災文庫」所蔵図書資料の横断検索システムのデータ更新を継続している。 ・国立国会図書館と連携し、東日本大震災アーカイブ(ひなぎく)において震災文庫の阪神・淡路大震災関連データを提供している。 ・経済関係資料では、新聞記事文庫の記事全文テキスト化を実施している。 ・新聞記事文庫を活用した研究成果を公開し利用を促進するため、ホームページを作成し「活用事例集」として公開している。 ・人文学研究科地域連携センターとの協力により、所蔵する古文書類についての整理・保存・電子化作業を継続している。 ○図書館所蔵資料による資料展 ・「つたえる・つながる：阪神・淡路大震災20年」を人と防災未来センターとの協力により開催した。(会場：社会科学系図書館、第1期：10月17日～11月16日、第2期：12月24日～1月29日、映画上映会10月30日) ○生涯学習支援と地域社会への貢献 ・国立情報学研究所と共催で目録システム地域講習会(図書コース)を開催し、職員が講師を務め、近隣の大学図書館等の目録業務担当者の育成を支援している。(9月10日～12日開催、21名受講) ・一般市民への図書館開放(全館室)、学外者への館外貸出サービス(2館)、本学卒業生・修了者及び放送大学学生等への館外貸出サービス(全館室)を継続実施している。 ・附属学校再編計画に伴い、附属中等教育学校生徒(高校生)への図書の貸出を実施中である。(平成24～28年度) ・オープンアクセスウィークにオープンデータについてのワークショップを企画・開催した。(10月22日開催、50名参加) ・国立大学図書館協会近畿地区の助成事業に企画(大学図書館員のための「研究戦略・研究評価」セミナー)が採択され実施した。(12月15日開催、54名参加)
	・公文書等の管理に関する法律の規定に基づき、国立公文書館等としての責務を果たすため、特定歴史公文書ほか本学の歴史に係る資料の受入れ、整理、保存及び一般公開並びにそれらに関する調査を実施する。また、附属図書館運営委員会における活動報告や学内職員に対する研修会等を通じて、歴史資料として重要な法人文書の収集に努めるとともに、本学の歴史に係る展示会の開催、目録データベースの整備及び学内外のレファレンス対応等によって利用の促進を図る。	Ⅳ	○歴史公文書等資料の受入れ、整理、保存、一般公開及び調査 ・学内の歴史公文書等の移管文書の受入れ及び整理を実施している。 ・全学各部局との法人文書移管協議を実施した。 ・所蔵史料の目録作成を実施している。 ・「神戸高等商業学校 校友会報(1号-43号)」デジタル画像を作成した。 ・他機関からの大学文書史料室見学等を受入れた。 ・室員(特命職員)が、大学史及びアーカイブズ学に関する調査研究を実施した。 ○活動報告及び研修会 ・附属図書館運営委員会及び大学文書史料室運営会議での活動報告を実施した。 ・内閣総理大臣に平成25年度状況報告を提出した。 ・学内職員に対する文書管理の研修を実施した(新任教職員研修講師派遣(4月10日)、室員研修(7月24日2回、8月21日)、文書管理者研修(2月9日))。 ○神戸大学の歴史に係る資料展(大学文書史料室) ・常設展「神戸大学史展—110年の歩みと展望—」(百年記念館)を開催した。 ・特別展「官立神戸高商物語—水島鏡也初代校長生誕150年記念—」(百年記念館、10月23日-31日)を開催した。 ・特別展ミニ展示(百年記念館、11月2日-12月2日)を開催した。 ・巡回展(東京)(神戸大学東京六甲クラブ、1月13日-22日)を開催した。 ・巡回展(神戸)(社会科学系図書館、2月9日-3月15日)を開催した。 ○目録データベースの整備及びレファレンス対応 ・所蔵資料の目録データベースを毎月更新しホームページ上で公開した。 ・学内外からのレファレンスに積極的に随時対応した。 ○”年度計画に基づく通常業務”を超えた特別事業の実施 ・水島鏡也先生生誕150年記念事業実行委員会(六甲台社会科学系五部局長・凌霄会理事長・六甲台後援会等)の依頼により、小冊子『中津の偉人・神戸大学の祖 水島鏡也』(神戸大学発行)を執筆した。 ・六甲台社会科学系五部局長の依頼により、六甲台第一キャンパスの胸像説明案内サイン5点を執筆した。 ・水島鏡也先生生誕150年記念事業実行委員会(前述)の依頼により、水島鏡也先生生誕150年記念小展示「水島鏡也先生展」(第1回：大分県中津市、5月17日、第2回：出光佐三記念六甲台講堂、10月25日)を開催した。 ・工学研究科長・KTC理事長の依頼により、展示「西代学舎の歴史と変遷」(工学研究科、10月25日)を開催した。 ・大分県中津市教育長の依頼により、『マンガ水島鏡也』(中津市教育委員会監修)の作成に全面協力した。 ・広報室の依頼により、『神戸大学』(梧桐書院刊)第6章歴史物語の作成に協力した(原稿案の提供等)。 ・(株)神戸学術事業会の依頼により、『ビジュアル版 神戸大学物語 第二版』(神戸大学物語刊行委員会編(委員長：神戸大学教育担当理事))の作成に協力した(原稿執筆等)。
	・「震災文庫」(社会科学系図書館内)における阪神・淡路大震災関係資料の収集・保存・公開の実施を継続するとともに、震災関係資料を収集する他機関との連携を図る。	Ⅳ	○「震災文庫」における阪神・淡路大震災関係資料の収集・保存・公開 ・阪神・淡路大震災関連の資料収集を進めるとともに、震災文庫電子化を継続している。 ・資料展「つたえる・つながる：阪神・淡路大震災20年」を人と防災未来センターとの協力により開催した。(会場：社会科学系図書館、第1期：10月17日～11月16日、第2期：12月24日～1月29日、映画上映会10月30日) ○震災関係資料を収集する他機関との連携 ・「阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター」、「兵庫県立図書館」と「震災文庫」所蔵図書資料の横断検索システムのデータ更新を継続している。 ・国立国会図書館と連携し、東日本大震災アーカイブ(ひなぎく)において震災文庫の阪神・淡路大震災関連データを提供している。 ・「被災地図書館との震災資料の収集・公開に係る情報交換会」を開催した。 ○震災文庫の取組に対するメディアからの取材及び表彰 ・震災20年の節目を迎え、展示会及び震災文庫に対して神戸新聞からの3度にわたる取材を始め、東海新報(岩手)による震災文庫連載記事(平成27年1月～3月、4月も継続中)等多数の取材を受け、例年以上に注目を浴びた。 ・震災文庫20年間の活動に対し、兵庫県知事から平成27年3月30日「阪神淡路20年復興フォローアップフォーラム」において感謝状とクリスタルを授与された。

附属図書館蔵書・受入等の現況（平成26年度）

			総合・国際		社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
蔵書	蔵書数（冊）		503,162		1,356,604	495,223	305,212	338,160	281,188	149,714	58,688	255,901	3,743,852
	和洋区分	和漢書	362,290		645,335	260,129	192,492	261,866	123,803	67,301	50,037	198,340	2,161,593
		洋書	140,872		711,269	235,094	112,720	76,294	157,385	82,413	8,651	57,561	1,582,259
	遡及状況	入力済	450,531		1,216,603	349,232	259,946	276,198	198,158	90,736	58,097	255,901	3,155,402
		未入力	52,631		140,001	145,991	45,266	61,962	83,030	58,978	591	0	588,450
	所蔵雑誌数（タイトル数）		1,957		16,469	5,531	4,173	3,764	6,373	3,088	1,017	3,493	45,865
和洋区分	国内雑誌	1,068		6,510	2,524	3,233	2,557	2,742	1,621	819	2,320	23,394	
	外国雑誌	889		9,959	3,007	940	1,207	3,631	1,467	198	1,173	22,471	
図書受入	受入図書数（冊）		3,646	3,969	16,013	5,161	3,655	3,932	1,377	2,043	1,618	2,393	43,807
	和洋区分	和漢書	3,522	2,786	10,398	3,816	2,574	3,361	1,050	1,831	1,524	2,110	32,972
		洋書	124	1,183	5,615	1,345	1,081	571	327	212	94	283	10,835
	取得手段	購入（一般財源）	3,598	2,409	6,762	2,819	1,843	2,110	473	938	972	1,405	23,329
		補助金による購入	11	1,352	4,830	1,109	1,214	1,298	561	590	142	203	11,310
		一般寄贈	0	153	1,670	575	209	98	169	169	257	573	3,873
		再受入	0	8	0	0	0	0	0	0	0	8	16
		製本編入	37	47	2,751	657	389	426	174	346	247	204	5,278
		所属換	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	取得目的	学生用図書	3,418	352	3,156	2,118	654	1,247	213	848	1,064	1,298	14,368
		図書館備付	140	822	7,121	895	867	663	719	515	247	592	12,581
		研究室備付	88	2,795	5,736	2,148	2,134	2,022	445	680	307	503	16,858
	除却・移譲等による減（冊）		27,275		3,056	5,397	295	1,904	79	506	3,007	5,150	46,669
	和洋区分	和漢書	26,734		2,563	4,511	272	1,484	61	473	2,718	4,780	43,596
		洋書	541		493	886	23	420	18	33	289	370	3,073
	所属換による減（冊）		1		0	0	0	0	0	0	0	0	1
	和洋区分	和漢書	0		0	0	0	0		0	0	0	0
		洋書	1		0	0	0	0	0	0	0	0	1
	年間増加数（冊）		-19,661		12,957	-236	3,360	2,028	1,298	1,537	-1,389	-2,757	-2,863
	和洋区分	和漢書	-20,426		7,835	-695	2,302	1,877	989	1,358	-1,194	-2,670	-10,624
		洋書	765		5,122	459	1,058	151	309	179	-195	-87	7,761
雑誌受入	受入雑誌数（タイトル数）		119	209	2,895	785	1,952	772	752	604	168	395	8,651
	和洋区分	国内雑誌	106	166	919	484	1,681	691	483	413	137	317	5,397
		外国雑誌	13	43	1,976	301	271	81	269	191	31	78	3,254
	取得手段	購入（一般財源）	119	83	2,627	527	333	339	308	190	108	153	4,787
		補助金による購入	0	0	17	4	0	0	0	52	0	1	74
		一般寄贈	0	126	251	254	1,619	433	444	362	60	241	3,790
		その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	取得目的	学生用雑誌	105	11	31	133	23	438	0	65	101	126	1,033
		図書館備付	3	160	2,685	206	1,929	192	740	460	60	245	6,680
研究室備付		11	33	179	446	0	142	12	79	7	24	933	
その他資料受入	受入新聞数（タイトル数）		7	0	28	13	6	8	9	5	3	13	92
	和洋区分	国内新聞	6	0	23	11	4	8	5	4	3	13	77
		外国新聞	1	0	5	2	2	0	4	1	0	0	15
	取得手段	購入	6	0	28	13	6	8	9	5	3	11	89
		寄贈	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3
	データベース（年間契約点数）		18	0	8	1	0	0	0	5	2	0	34
	電子ジャーナル（利用可能数）		24,128										24,128
資料購入費	一般財源資料費		343,379,453	15,926,197	174,833,941	44,846,081	19,032,312	15,849,220	21,160,133	37,548,662	11,095,839	10,821,610	694,493,448
	図書館セグメント	学生用資料費	16,121,000	2,649,000	9,348,553	12,343,906	2,777,519	3,539,439	986,837	5,018,992	3,274,707	3,451,085	59,511,038
		その他資料費	324,598,239	0	38,387,042	0	0	0	0	0	0	0	362,985,281
	部局セグメント	館室備付	1,203,441	5,493,330	111,202,335	4,454,117	10,585,568	6,026,766	20,000,213	30,735,848	6,850,756	6,704,182	203,256,556
		研究室備付	1,456,773	7,783,867	15,896,011	28,048,058	5,669,225	6,283,015	173,083	1,793,822	970,376	666,343	68,740,573
	その他の財源 補助金等		4,097,140	8,362,343	45,603,217	15,235,002	12,534,083	4,666,770	4,313,568	8,967,138	902,180	1,741,136	106,422,577
	図書購入費		9,707,573	20,538,056	100,649,716	24,160,307	20,889,964	13,784,400	9,869,677	11,598,948	6,836,492	7,358,550	225,393,683
	和洋区分	和漢書	8,540,059	10,992,083	46,399,184	12,470,307	11,946,825	9,673,199	4,180,362	8,889,378	5,935,250	5,190,008	124,216,655
		洋書	1,167,514	9,545,973	54,250,532	11,690,000	8,943,139	4,111,201	5,689,315	2,709,570	901,242	2,168,542	101,177,028
	雑誌購入費		23,807,173	1,513,478	107,484,519	28,890,692	5,870,631	5,922,832	14,907,707	22,247,650	4,282,895	3,183,359	218,110,936
	和洋区分	国内雑誌	1,304,633	492,260	13,373,139	5,530,627	1,314,447	2,076,100	3,626,741	4,266,660	1,725,810	1,244,843	34,955,260
		外国雑誌	22,502,540	1,021,218	94,111,380	23,360,065	4,556,184	3,846,732	11,280,966	17,980,990	2,557,085	1,938,516	183,155,676
	新聞購入費		303,180	0	3,488,184	663,635	254,736	225,648	486,201	254,736	152,184	512,524	6,341,028
	電子資料費		313,302,521	0	5,907,889	610,710	0	0	0	9,360,036	427,737	165,884	329,774,777
	その他の資料購入費		356,146	2,237,006	2,906,850	5,755,739	4,551,064	583,110	210,116	3,054,430	298,711	342,429	20,295,601
	資料購入費 計		347,476,593	24,288,540	220,437,158	60,081,083	31,566,395	20,515,990	25,473,701	46,515,800	11,998,019	12,562,746	800,916,025
	電子コンテンツ作成費		1,825,754										1,825,754
製本費		188,696		6,179,842	1,475,884	890,049	956,966	390,873	777,254	554,860	458,265	11,872,689	

* 所蔵雑誌数は雑誌包括所蔵数から誌名変遷数を引いた数値とする（平成23年度変更）

附属図書館サービス業務の現況(平成26年度)

			総合・国際	社会系	自然系	人文	人間	研究所	医学	保健	海事	合計
施設	施設面積合計(㎡)		3,558	10,707	3,287	1,288	1,474	1,084	1,612	808	2,170	25,988
	現行用途別(㎡)	サービススペース	1,954	2,351	1,577	664	538	141	838	603	719	9,385
		書庫スペース	1,208	5,771	449	535	714	887	431	71	1,051	11,117
		事務スペース	130	627	351	48	89	27	163	35	159	1,629
		その他	266	1,958	910	41	133	29	180	99	241	3,857
	閲覧座席数	閲覧座席数	397	411	243	121	153	24	208	88	172	1,817
		上のうち、教員用	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
	書架収容力	棚板延長(m)	11,613	48,605	10,616	8,016	7,857	6,833	6,268	1,792	7,258	108,858
		収容可能冊数	322,600	1,350,100	294,900	222,700	218,300	189,800	174,100	49,800	201,600	3,023,900
利用者端末台数		48	42	37	24	19	1	19	14	14	218	
利用者	利用対象者総数		5,020	4,661	5,890	793	1,387	65	2,786	970	1,307	22,879
	利用者別	学部学生	4,240	2,215	2,477	364	814	0	573	522	772	11,977
		大学院生	220	1,359	1,829	199	309	0	538	250	212	4,916
		教職員	393	508	1,388	155	208	60	1,553	147	211	4,623
		その他	14	57	67	17	3	5	73	2	27	265
		学外登録者総数	153	522	129	58	53	0	49	49	85	1,098
		内訳:卒業生815、放送大学等118、一般市民 165										
開館入館	開館日数	年間	277	326	280	279	270	238	289	273	277	2,509
		土曜(内数)	34	48	35	35	35	0	49	35	34	305
		休日(内数)	5	40	7	6	5	0	0	0	5	68
	時間外等開館時間数	平日時間外開館	787.5	1,057.5	792.0	544.0	684.0	0.0	960.0	692.0	534.0	6,051.0
		土曜開館	272	379	280	280	280	0	388	280	272	2,431
		休日開館	40	320	56	48	40	0	0	0	40	544
	入館者数	年間入館者総数	274,189	205,484	120,366	76,018	75,047	5,452	112,902	50,351	28,217	948,026
		(内訳)時間内(含:土日)	242,935	176,493	100,896	66,387	66,770	5,452	73,927	44,386	25,799	803,045
		平日時間外	31,254	28,991	19,315	9,631	8,277	0	21,091	5,965	2,418	126,942
		閉館時(無人)	-	-	155	-	-	-	17,884	-	-	18,039
		土曜(内数)	4,812	14,872	4,946	3,836	1,743	0	4,838	2,213	840	38,100
		休日(内数)	1,459	10,390	1,482	757	278	0	0	0	323	14,689
		学外者(内数)	7,153	13,060	2,573	1,825	2,224	57	2,033	1,376	869	31,170
		(内訳)卒業生	2,168	7,579	1,062	908	1,079	16	931	364	405	14,512
		他大学生・研究者等	1,540	1,764	754	343	107	32	327	428	98	5,393
	一般市民	3,445	3,717	757	574	1,038	9	775	584	366	11,265	
貸出	貸出総冊数		82,873	71,973	42,993	20,609	26,276	1,504	10,219	15,607	20,089	292,143
	利用者別	学生	52,261	27,753	26,780	7,502	14,174	160	6,175	10,353	12,922	158,080
		院生	20,164	31,470	12,850	9,603	9,298	405	863	3,192	4,319	92,164
		教員	5,100	5,374	1,811	2,256	1,191	877	648	873	1,333	19,463
		職員	3,104	3,056	1,103	900	1,097	50	2,157	854	793	13,114
		その他	33	1	5	0	10	0	204	2	85	340
		学外者総数	2,211	4,319	444	348	506	12	172	333	637	8,982
		卒業生(内数)	860	2,595	380	325	474	12	145	330	259	5,380
一般市民(内数)	1,157	-	-	-	-	-	-	-	327	1,484		
参考調査	参考調査件数		2,860	3,877	2,587	2,047	2,517	413	1,734	1,638	1,781	19,454
	利用者別	学生	2,704	2,287	2,036	1,564	2,190	327	768	1,474	1,110	14,460
		教職員	52	233	291	85	309	67	598	164	78	1,877
		学外者	104	1,357	260	398	18	19	368	0	593	3,117
複写相互利用	来館複写件数		3,994	4,048	8,328	6,150	1,600	2,690	7,608	2,910	413	37,741
	利用者別	学内者	3,395	3,082	5,816	5,508	1,312	2,524	3,423	1,588	302	26,950
		学外者	599	966	2,512	642	288	166	4,185	1,322	111	10,791
	学内相互利用	ILL文献複写 受付	31	166	147	135	77	49	149	110	124	988
		ILL文献複写 依頼	454	240	99	62	163	39	78	90	20	1,245
	図書配送	発送申込冊数	7,603	6,698	1,957	2,329	4,057	-	505	1,410	3,119	27,678
		受取申込冊数	5,716	5,424	3,387	7,314	3,426	-	636	691	1,084	
		申込者数	1,072	819	702	580	455	-	88	127	176	4,019
	学外相互利用	ILL文献複写 受付	194	3,303	688	716	431	188	1,617	919	318	8,374
		ILL文献複写 依頼	932	1,746	661	881	987	35	800	684	134	6,860
		ILL現物貸借 受付	344	1,544	166	413	262	10	10	8	61	2,818
		ILL現物貸借 依頼	260	338	112	460	122	19	6	13	3	1,333
	海外ILL	文献複写 受付	0	18	0	0	0	0	2	0	0	20
		文献複写 依頼	0	8	1	10	0	0	0	0	1	20
		現物貸借 受付	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
		現物貸借 依頼	1	4	0	7	0	0	0	0	0	12

電子的情報サービスの現況 (H26)

電子ジャーナルタイトル数 (H26.10)

24,128 (洋:22,650 + 和:1,478)

電子ジャーナルアクセス状況 (2014.1～12) ※基盤整備費にかかるもの

フルテキストへのアクセス数

	2014.1	2014.2	2014.3	2014.4	2014.5	2014.6	2014.7	2014.8	2014.9	2014.10	2014.11	2014.12	合計
Elsevier ScienceDirect	43,785	37,429	34,708	41,703	45,334	45,819	44,722	35,817	42,046	53,190	41,611	40,040	506,204
SpringerLINK(新)	8,423	8,072	5,447	7,053	7,676	7,573	6,088	6,206	6,105	8,460	7,264	6,826	85,193
Wiley-Blackwell	11,621	10,733	9,879	11,576	12,847	13,371	11,769	9,209	11,122	13,933	13,211	11,191	140,462
JSTOR	8,570	5,237	2,182	3,623	3,145	3,188	3,052	2,701	2,549	3,507	3,782	3,779	45,315
Nature	5,962	5,976	4,831	6,612	7,435	7,855	6,949	5,312	6,849	9,158	8,694	7,260	82,893
Science Online	1,248	959	765	1,086	1,446	1,716	1,151	1,062	966	1,385	1,279	1,167	14,230
IEEE CSDL	1,206	788	809	1,037	764	335	1,622	608	382	509	596	757	9,413
ACM Portal	377	232	134	578	494	479	296	136	154	421	446	423	4,170
APS	1,147	1,906	778	936	1,300	1,014	627	973	896	1,434	1,355	1,054	13,420
LWW via Ovid	861	862	828	1,188	1,157	1,242	1,174	1,012	1,030	977	979	959	12,269
ACS	5,885	5,109	4,116	6,200	7,694	7,267	6,915	4,816	5,459	8,313	8,007	5,698	75,479
Oxford UP	3,311	3,422	2,474	3,167	3,542	3,863	3,534	2,731	4,620	3,850	3,664	2,933	41,111
Cambridge UP	593	973	348	613	656	538	592	384	442	540	625	457	6,761
HeinOnline	433	929	602	651	812	520	520	573	291	1,362	1,478	1,838	10,009

導入データベース数 (H27.3) ※図書館HP「データベース一覧」より(一般公開分を除く)

全学利用	49 WWWアクセス(外部サーバ45)
キャンパス限定(医学)	3 医学3 (医中誌Web、EBMR、Up to date)

データベースアクセス状況 (2014.1～12) ※基盤整備費およびe-study資料費にかかるもの

各項上段がセッション数、下段(カッコ)が検索数

	2014.1	2014.2	2014.3	2014.4	2014.5	2014.6	2014.7	2014.8	2014.9	2014.10	2014.11	2014.12	合計
Web of Science	1,946	1,204	742	1,391	2,180	1,917	3,442	2,443	2,341	3,703	2,804	1,494	25,607
Core Collection	(10,091)	(5,568)	(2,869)	(6,292)	(10,450)	(8,054)	(8,980)	(6,034)	(6,507)	(10,678)	(8,368)	(6,185)	(90,076)
JCR	335	348	309	336	229	210	272	171	129	139	174	127	2,779
	(442)	(458)	(317)	(342)	(224)	(242)	(373)	(283)	(164)	(192)	(194)	(129)	(3,360)
医学中央雑誌	2,530	2,386	2,342	3,674	3,717	3,837	3,914	2,949	2,826	3,482	3,048	3,125	37,830
	(6,285)	(6,688)	(5,836)	(10,030)	(10,347)	(10,327)	(11,573)	(7,647)	(7,842)	(9,692)	(8,050)	(8,260)	(102,577)
MathSciNet	(4,051)	(2,942)	(2,821)	(3,461)	(3,751)	(3,534)	(4,439)	(3,697)	(3,822)	(3,181)	(3,126)	(3,699)	(42,524)
SciFinder	565	463	394	799	659	708	617	383	653	863	648	587	7,339
	(2,323)	(2,269)	(1,719)	(3,545)	(3,494)	(3,872)	(3,142)	(1,717)	(3,228)	(4,301)	(3,250)	(3,218)	(36,078)
Readers Guide to Periodical Literature (EBSCOhost)	63	38	32	84	85	32	32	22	17	27	29	38	499
	(203)	(122)	(90)	(178)	(325)	(91)	(155)	(76)	(37)	(76)	(73)	(100)	(1,526)
EconLit	103	94	98	137	141	88	113	99	88	79	63	50	1,153
	(421)	(426)	(426)	(382)	(617)	(332)	(499)	(394)	(509)	(365)	(230)	(222)	(4,823)
Index to Legal Periodicals & Books (EBSCOhost)	60	36	32	74	85	23	23	18	12	17	21	29	430
	(190)	(114)	(90)	(131)	(318)	(47)	(147)	(59)	(29)	(68)	(49)	(85)	(1,327)
Business Source Premier	481	505	561	803	959	709	668	443	387	689	647	504	7,356
	(1,026)	(901)	(1,124)	(1,419)	(1,366)	(1,790)	(1,107)	(741)	(552)	(1,051)	(1,405)	(765)	(13,247)
CINAHL	93	158	52	146	150	57	64	45	41	33	36	49	924
	(409)	(521)	(147)	(722)	(773)	(258)	(350)	(221)	(165)	(175)	(107)	(221)	(4,069)
ProQuest Dissertations & Theses Complete [A&I]	99	92	107	91	119	85	108	26	36	30	22	15	830
	(184)	(205)	(213)	(204)	(268)	(187)	(267)	(42)	(72)	(72)	(257)	(192)	(2,163)
PhycINFO	114	27	63	134	145	124	110	71	39	95	77	110	1,109
	(689)	(155)	(298)	(505)	(464)	(678)	(711)	(406)	(139)	(627)	(369)	(649)	(5,690)
PhycARTICLES	174	96	106	225	282	197	118	147	110	185	161	221	2,022
	(647)	(191)	(223)	(615)	(493)	(673)	(711)	(329)	(174)	(672)	(456)	(739)	(5,923)
OECD iLibrary	71	35	198	92	59	75	103	43	61	50	54	72	913
メディカルオンライン	4,017	4,171	3,274	5,426	5,813	6,647	6,421	5,194	5,499	6,251	5,779	4,999	63,491
Lexis/Nexis.com	(204)	(141)	(43)	(110)	(708)	(222)	(416)	(90)	(84)	(98)	(120)	(1078)	(3314)
Westlaw International	108	27	98	76	94	157	56	45	44	131	122	62	1,020
	(878)	(109)	(419)	(395)	(745)	(6,675)	(1,208)	(280)	(391)	(616)	(708)	(473)	(12,897)
ジャパンナレッジLib	589	369	347	772	939	1,232	864	393	364	886	969	861	8,585
	(4,565)	(2,623)	(2,824)	(8,134)	(9,081)	(9,121)	(6,975)	(2,300)	(3,071)	(10,115)	(11,004)	(9,153)	(78,966)
GiNii	6,147	3,723	2,555	6,153	8,524	7,712	8,042	3,987	4,072	7,683	7,240	6,951	72,789
	(23,213)	(12,859)	(9,209)	(20,109)	(31,092)	(25,500)	(27,234)	(15,636)	(13,866)	(26,090)	(22,891)	(22,706)	(250,405)
日経テレコン	180,857	125,095	144,488	166,085	309,802	636,318	358,947	283,686	268,987	379,852	433,967	446,896	3,734,980
聞蔵Ⅱビジュアル	744	451	361	536	738	872	922	691	463	653	971	884	8,286
	(10,605)	(6,489)	(7,156)	(6,579)	(5,861)	(8,545)	(11,250)	(35,344)	(11,009)	(11,736)	(11,789)	(9,934)	(136,297)
ヨミダス歴史館	953	311	378	346	608	754	1,010	726	851	451	806	913	8,107
毎索	391	276	268	323	448	547	541	455	296	340	543	537	4,965
	(1,244)	(1,064)	(799)	(979)	(1,555)	(2,103)	(2,020)	(1,585)	(1,444)	(889)	(1,907)	(1,863)	(17,452)
KOD(研究社オンライン・ディクショナリー)	92	47	62	133	188	151	82	45	40	65	71	59	1,035
MAGAZINEPLUS	159	101	74	153	344	251	208	126	103	297	248	149	2,213
	(227)	(165)	(93)	(162)	(575)	(383)	(326)	(173)	(138)	(443)	(398)	(229)	(3,312)
Marquis Biographies Online (Marquis Who's Who)	2	1	0	2	—	—	—	—	—	—	—	—	5
	(9)	(1)	0	(5)	0	(1)	(2)	(5)	(5)	(10)	(9)	(10)	(57)
JDreamⅢ	(101)	(275)	(117)	(1,146)	(114)	(469)	(623)	(204)	(300)	(669)	(516)	(669)	(5,203)
ナクソス・ミュージック・ライブラリー	655	435	216	388	404	340	340	187	165	275	336	342	4,083

※官報は統計データ未公開

図書館ホームページ、OPAC等アクセス統計(H26.4～H27.3)

	H26.4	H26.5	H26.6	H26.7	H26.8	H26.9	H26.10	H26.11	H26.12	H27.1	H27.2	H27.3	合計
図書館トップページ	55,650	66,398	66,191	63,903	43,984	39,390	60,854	53,232	55,450	55,963	44,739	39,914	645,668
(うち学内)	34,140	42,346	42,256	36,644	22,537	21,623	36,717	29,659	29,528	29,742	23,387	20,696	369,275
(うち学外)	21,510	24,052	23,935	27,259	21,447	17,767	24,137	23,573	25,922	26,221	21,352	19,218	276,393
震災文庫トップページ	1,419	1,578	1,401	1,608	1,468	1,299	1,573	1,511	1,933	3,026	1,346	1,366	19,528
(うち学内)	196	226	196	120	210	140	139	132	145	131	73	73	1,781
(うち学外)	1,223	1,352	1,205	1,488	1,258	1,159	1,434	1,379	1,788	2,895	1,273	1,293	17,747
新聞記事文庫トップページ	4,689	5,231	5,129	5,866	4,953	5,115	4,991	5,207	6,165	6,131	4,875	5,641	63,993
(うち学内)	108	79	94	114	57	59	101	100	86	93	61	66	1,018
(うち学外)	4,581	5,152	5,035	5,752	4,896	5,056	4,890	5,107	6,079	6,038	4,814	5,575	62,975
OPAC延べ検索回数	147,615	176,880	175,572	181,080	115,942	104,085	160,915	138,791	139,944	171,595	132,602	137,100	1,782,121
(うち学内)	76,936	99,497	100,181	100,473	54,146	32,247	86,973	70,629	72,836	78,980	57,914	43,342	874,154
(うち学外)	70,679	77,383	75,391	80,607	61,796	71,838	73,942	68,162	67,108	92,615	74,688	93,758	907,967

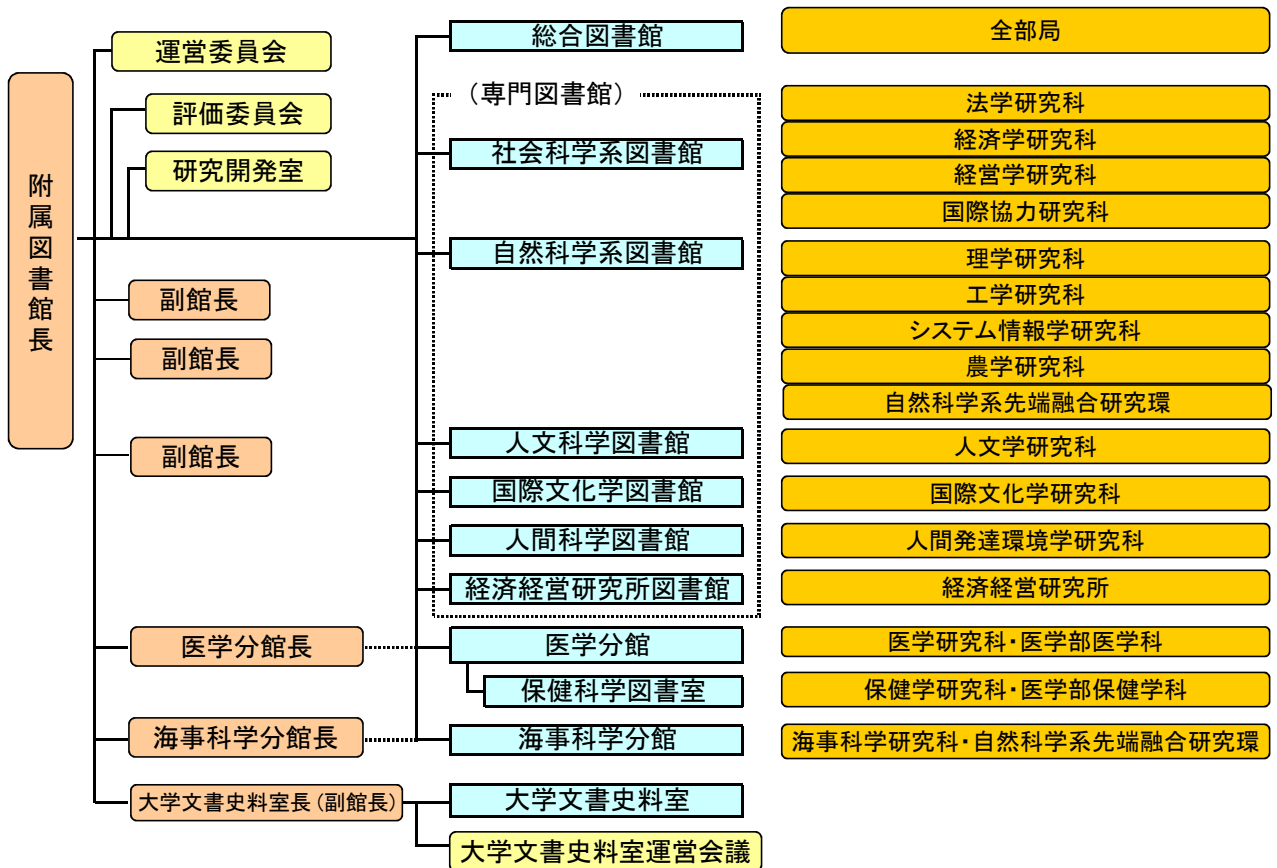
リンクリゾルバ(SFX)利用統計(H26.4～H27.3)

	H26.4	H26.5	H26.6	H26.7	H26.8	H26.9	H26.10	H26.11	H26.12	H27.1	H27.2	H27.3	合計
電子リソースアクセス数	20,093	23,589	21,943	22,441	13,776	13,681	20,701	17,023	15,771	17,651	14,167	11,950	212,786
電子リソースリスト	5,439	5,873	5,468	5,612	3,979	3,950	4,563	4,228	3,971	3,747	4,018	3,629	54,477
DBからのアクセス数	14,654	17,716	16,475	16,829	9,797	9,731	16,138	12,795	11,800	13,904	10,149	8,321	158,309
→フルテキスト	10,337	11,857	13,492	13,412	7,507	7,248	11,015	8,759	7,718	8,974	7,987	6,765	115,071
→所蔵検索数	1,403	1,625	1,529	1,583	794	791	1,203	959	992	855	642	644	13,020
→文献複写依頼	286	349	365	454	220	271	334	285	225	267	164	144	3,364

※ アクセス数: 電子リソースリストやDBからのSFXリンクアイコン総アクセス数、所蔵検索数: OPAC、Webcatのアクセス回数

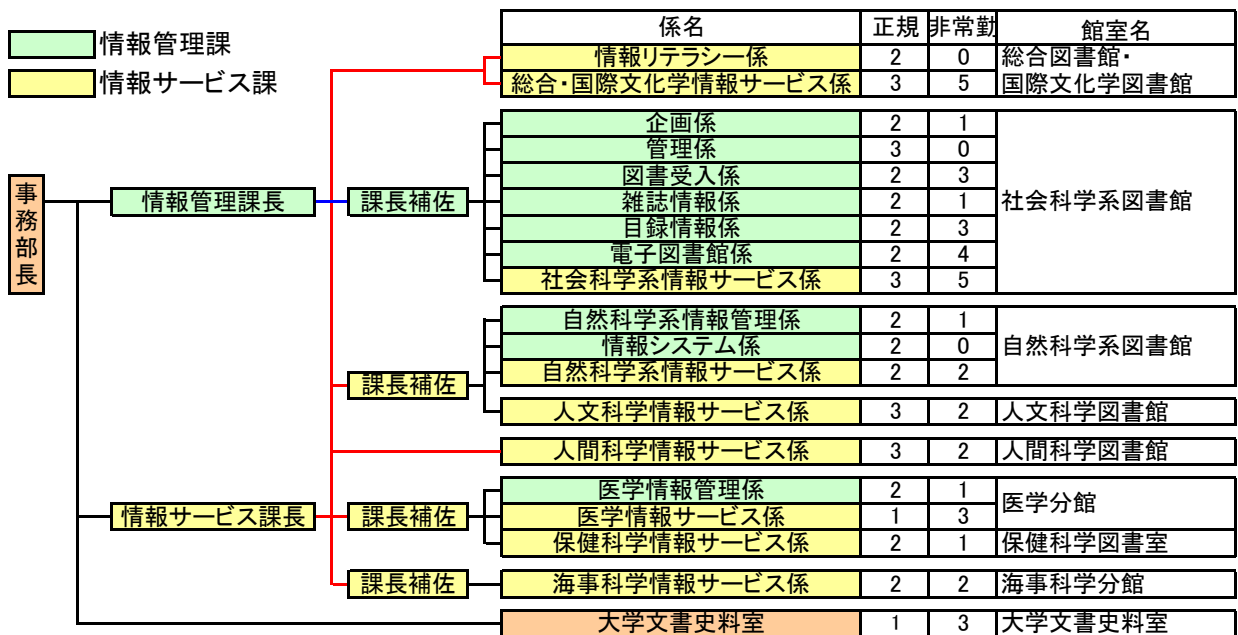
各DB(GiNii、WOS、JDreamIII、PubMed、医中誌など)へのSFXのリンク設定

附属図書館組織



各専門図書館、分館及び保健科学図書室に、各館(室)の図書委員会を置く。

事務組織と職員配置



附属図書館 正規職員47名 非常勤職員36名
 大学文書史料室 特命職員 1名 非常勤職員 3名 (平成27年7月現在)
 *非常勤職員数は、夜間開館要員等、特定事業に関わるものを除く

経済経営研究所事務長	研究所図書係	3	0	経済経営研究所図書館
------------	--------	---	---	------------

平成26年度附属図書館諸会議一覧

<附属図書館運営委員会>

第1回： 6月4日（水） 8:50～ （於：社会科学系図書館6階会議室）

協議事項

- (1) 平成25年度決算について
- (2) 平成26年度電子図書館事業について
- (3) 平成27年度の教育研究基盤整備事業について
- (4) 2015年外国雑誌購読調査について
- (5) 平成26年度総合図書館学生用資料整備計画について
- (6) 国文学研究資料館との共同事業実施について
- (7) デジタルコンテンツ削除依頼について
- (8) 資料の不用決定について
- (9) その他

報告事項

- (1) 各図書館・室報告について
- (2) 研究開発室体制変更報告について
- (3) 大学文書史料室報告について
- (4) 平成25事業年度に係る業務の実績について
- (5) 平成26年度前期図書館ガイダンスについて
- (6) 社会科学系図書館改修報告について
- (7) アジア経済研究所との相互利用協定について
- (8) NDLデジタル化資料送信サービスについて
- (9) 神戸大学ラーニングコモンズWG報告書について
- (10) その他

第2回： 10月14日（火） 10:40～ （於：社会科学系図書館6階会議室）

協議事項

- (1) 教育研究基盤資料の整備について
- (2) 各部局等における部局年次計画の重点事項について
- (3) 資料の不用決定について
- (4) その他

報告事項

- (1) 外国雑誌センターでの購入誌について
- (2) 平成28年度概算要求関係資料等の提出について
- (3) 各図書館・室報告について
- (4) 大学文書史料室報告について
- (5) 「学術情報の利用に関する調査（SCREAL2014）」について
- (6) 「“ジャーナル問題に関する検討会” 報告」について
- (7) 平成26年度附属図書館資料展について
- (8) 平成26年度後期図書館ガイダンスについて
- (9) ライティングセミナーについて
- (10) 学生選書ツアーについて
- (11) シリーズイベント「未来の図書館」について

(12) その他

第3回： 1月20日（火） 10:40～ （於：社会科学系図書館6階会議室）

協議事項

- (1) 平成27年度附属図書館予算要求について
- (2) 平成27年度電子図書館事業について
- (3) 図書館関係規則の改正について
- (4) 資料の不用決定について
- (5) その他

報告事項

- (1) 各図書館・室報告について
- (2) 大学文書史料室報告について
- (3) 利用者アンケートの実施について
- (4) 若手研究者のための英語論文セミナーについて
- (5) Springer 社 APC クーポンについて
- (6) ライティングセミナー実施報告と今後の企画について
- (7) シリーズイベント「未来の図書館」の開催報告について
- (8) その他

第4回： 3月27日（金） 8:50～ （於：社会科学系図書館6階会議室）

協議事項

- (1) 平成27年度附属図書館当初予算配分について
- (2) 平成27年度附属図書館学生用資料について
- (3) 資料の不用決定について
- (4) その他

報告事項

- (1) 平成25年度選定学生用図書の分析・評価結果について
- (2) 各図書館・室報告について
- (3) 大学文書史料室報告について
- (4) 第3期中期目標・中期計画について
- (5) 図書館関係規則の改正について
- (6) 電子ジャーナル利用における注意喚起について
- (7) 平成27年度からの図書館サービス拡充について
- (8) 利用者アンケートの実施結果について（速報）
- (9) ラーニングコモンズの整備と運用の準備について
- (10) 平成27年度版附属図書館利用案内について
- (11) その他

＜附属図書館長・副館長・分館長懇談会＞

第1回： 5月30日（金） 10:40～ （於：社会科学系図書館6階会議室）

協議事項

- (1) 平成25年度決算について
- (2) 平成26年度電子図書館事業について
- (3) 平成27年度の教育研究基盤整備事業について

- (4) 2015年外国雑誌購読調査について
- (5) 平成26年度総合図書館学生用資料整備計画について
- (6) 国文学研究資料館との共同事業実施について
- (7) その他

第2回： 10月9日（木）8:50～ （於：社会科学系図書館6階会議室）

協議事項

- (1) 教育研究基盤資料の整備について
- (2) 各部局等における部局年次計画の重点事項について
- (3) その他

報告事項

- (1) 外国雑誌センターでの購入誌について
- (2) 平成28年度概算要求関係資料等の提出について
- (3) その他

第3回： 1月19日（月）15:10～ （於：社会科学系図書館6階会議室）

協議事項

- (1) 平成27年度附属図書館予算要求について
- (2) 平成27年度電子図書館事業について
- (3) 図書館関係規則の改正について
- (4) その他

第4回： 3月26日（木）8:50～ （於：社会科学系図書館6階会議室）

協議事項

- (1) 平成27年度附属図書館当初予算配分について
- (2) 平成27年度附属図書館学生用資料費について
- (3) その他

<附属図書館評価委員会>

第1回： 7月24日（木）（メール回議）

議題

- (1) 附属図書館年次報告について

第2回： 9月24日（水）（メール回議）

議題

- (1) 部局年次計画重点事項の進捗状況の報告等について

第3回： 10月27日（月）（メール回議）

議題

- (1) 平成26年度計画進捗状況及び平成27年度計画（重点事項を含む）等について

第4回： 3月4日（水）（メール回議）

議題

- (1) 平成26年度部局年次計画重点事項の実績報告について

第5回： 3月23日（月） （メール回議）

議題

- （1） 平成26事業年度に係る業務の実績について

<附属図書館研究開発室会議>

第1回： 5月23日（金） （メール回議）

報告事項

- （1） 平成25年度電子図書館事業報告
- （2） 平成25年度学術成果リポジトリ事業報告

協議事項

- （1） 平成26年度電子図書館事業計画（変更案）について

第2回： 1月8日（木） （メール回議）

審議事項

- （1） 平成27年度電子図書館事業について
- （2） 平成27年度電子図書館事業経費要求について
- （3） 平成27年度遡及入力事業計画について

教育研究支援部会懇談会 第1回： 7月31日（木）（於：鶴甲第一 N402B 教室）

議題

- （1） 附属図書館による学修支援について活動報告
- （2） 平成28年度「基礎ゼミ」必修化（初年次セミナー）の動向について
- （3） 図書館と教員や学生との連携について

教育研究支援部会懇談会 第2回： 12月24日（水）（於：総合・国際文化学図書館）

議題

- （1） ライティングセミナー実施報告
- （2） 図書館による今後のライティング支援について

<附属図書館大学文書史料室運営会議>

第1回： 5月13日（火） 8:50～ （於：自然科学系図書館4階会議室）

協議事項

- （1） 平成25年度決算について
- （2） 平成26年度予算について
- （3） 平成26年度特別展の企画について
- （4） その他

報告事項

- （1） 大学文書史料室報告（平成26年3月～4月）
- （2） その他

第2回： 3月2日（金） 10:30～ （於：自然科学系図書館4階会議室）

協議事項

- (1) 平成26年度法人文書の移管協議について
- (2) 大学文書史料室利用細則の一部改正について
- (3) 平成27年度事業計画について
- (4) その他

報告事項

- (1) 第3期中期目標・中期計画の提出について
- (2) 内閣府公表「平成25年度における公文書等の管理等の状況について」
- (3) 大学文書史料室報告（平成26年5月～平成27年2月）
- (4) 海事博物館との連携による学内サテライト巡回展示案について
- (5) その他

<附属図書館運営委員会委員名簿>

	職 名	氏 名	任 期 等
附属図書館長	文・教授	釜谷 武志	H25. 4. 1～H27. 3. 31
副館長 (社会科学系・図書委員長)	営・教授	丸山 雅祥	H25. 4. 1～H27. 3. 31
副館長 (自然科学系・図書委員長)	農・教授	小野 雅之	H25. 4. 1～H27. 3. 31
副館長 (附属図書館評価委員長)	国文・教授	木下 資一	H25. 4. 1～H27. 3. 31
医学分館長	医・教授	寺島 俊雄	H25. 6. 1～H27. 3. 31
海事科学分館長	海・教授	田中 直樹	H26. 4. 1～H28. 3. 31
大学教育推進機構	教 授	山内 乾史	H25. 4. 1～H27. 3. 31
人文学研究科	教 授	松田 浩則	H25. 4. 1～H27. 3. 31
国際文化学研究科	教 授	石塚 裕子	H26. 4. 1～H28. 3. 31
人間発達環境学研究科	教 授	國土 将平	H26. 4. 1～H28. 3. 31
法学研究科	教 授	大内 伸哉	H25. 4. 1～H27. 3. 31
経済学研究科	教 授	羽森 茂之	H26. 4. 1～H28. 3. 31
経営学研究科	教 授	鈴木 一水	H26. 4. 1～H28. 3. 31
理学研究科	教 授	角野 康郎	H26. 4. 1～H28. 3. 31
保健学研究科	教 授	松尾 博哉	H26. 4. 1～H28. 3. 31
工学研究科	教 授	平澤 茂樹	H25. 4. 1～H27. 3. 31
システム情報学研究科	教 授	BRENDLE JORG	H26. 4. 1～H28. 3. 31
農学研究科	教 授	田中 勉	H26. 4. 1～H28. 3. 31
国際協力研究科	教 授	松永 宣明	H26. 4. 1～H28. 3. 31
自然科学先端融合研究環	工・教授	喜多 隆	H25. 4. 1～H27. 3. 31
経済経営研究所	教 授	趙 来勲	H25. 4. 1～H27. 3. 31
情報基盤センター	教 授	鳩野 逸生	H26. 4. 1～H28. 3. 31
附属図書館	事務部長	内島 秀樹	-----

<附属図書館評価委員会委員名簿>

職 名 (委員は全て官職指定)	氏 名	備 考
附属図書館長	釜谷 武志	
副館長	丸山 雅祥	
副館長	小野 雅之	
副館長	木下 資一	委員長
医学分館長	寺島 俊雄	
海事科学分館長	田中 直樹	
事務部長	内島 秀樹	
情報管理課長	湖内 夏夫	
情報サービス課長	前川 敦子	

<附属図書館研究開発室室員名簿>

職 名		氏 名	任期・関連する事業
総括	附属図書館長	釜谷 武志	室長
電子化部会	文・教授	奥村 弘	H26. 4. 1～H28. 3. 31 (震災関連資料電子化)
	文・教授	福長 進	H26. 4. 1～H28. 3. 31 (国文学研究資料館古典籍データベース)
	研究所・准教授	高槻 泰郎	H26. 4. 1～H28. 3. 31 (新聞記事文庫電子化)
	図・電子図書館係長	兵頭 尚恵 井庭 朗子	H26. 4. 1～H26. 6. 30 H26. 7. 1～H28. 3. 31
教育研究支援部会	大教・教授	山内 乾史	H25. 4. 1～H27. 3. 31 (アクティブ・ラーニング支援)
	大教・教授	近田 政博	H26. 4. 1～H28. 3. 31 (グローバル教育支援)
	図・情報サービス課長補佐	中山 貴弘	H26. 4. 1～H28. 3. 31
	図・情報リテラシー係長	三谷 拓也	H26. 4. 1～H28. 3. 31
(部会に属さず)	基盤セ・教授	鳩野 逸生	H26. 4. 1～H28. 3. 31 (情報システム)
	国文・准教授	清光 英成	H26. 4. 1～H28. 3. 31 (情報システム)

<附属図書館大学文書史料室運営会議委員名簿>

	所 属 等	職名	氏 名	任 期 等
議長 1号委員	館長・人文学研究科	教授	釜谷 武志	H25. 4. 1～H27. 3. 31
室長 2号委員	副館長・国際文化学研究科	教授	木下 資一	H25. 4. 1～H27. 3. 31
室員 3号委員	大学文書史料室	室長補佐兼 専門調査員	野邑理栄子	H25. 4. 1～H27. 3. 31
4号委員	附属図書館	事務部長	内島 秀樹	H26. 4. 1～H27. 3. 31
5号委員	人間発達環境学研究科	教授	船寄 俊雄	H25. 4. 1～H27. 3. 31
5号委員	農学研究科	教授	金子 治平	H25. 4. 1～H27. 3. 31
5号委員	人文学研究科	准教授	河島 真	H25. 4. 1～H27. 3. 31
5号委員	総務部総務課	専門職員	北村 浩司	H25. 4. 1～H27. 3. 31

平成26年度 附属図書館決算

単位：円

事 項	平成26年度 当初予算額	平成26年度 予算(増減)	平成26年度 最終予算額	平成26年度 支 出 額	差 引	摘 要
経常運営費						
備品・消耗品費	8,000,000		8,000,000	7,347,778	652,222	備品類、事務用品、図書館用品、用紙類、電算用品、蛍光灯類、雑用品
事務用図書費	600,000		600,000	453,837	146,163	事務用図書、事務用雑誌
印刷製本費	500,000		500,000	245,570	254,430	利用案内
光熱水料	29,800,000	106,000	29,906,000	31,517,963	△ 1,611,963	電気代、ガス代、上下水道代
通信運搬費	7,400,000		7,400,000	7,252,638	147,362	切手代、郵便料、電話料、学内資料搬送
借料及び損料	3,700,000		3,700,000	2,415,579	1,284,421	複写機、タクシー代
雑役務等諸経費	30,603,000		30,603,000	34,412,967	△ 3,809,967	清掃請負、各種営繕、EV保守、警備請負、廃棄物処理、特高設備保守、空調機保守、備品修理、消防設備保守、電話交換保守業務、諸会費、安全衛生関係[水質検査]、医学部設備保守ほか
非常勤職員給与等	88,000,000	0	88,000,000	85,002,098	2,997,902	差額は中途退職者分
電子計算機維持経費	82,000		82,000	84,000	△ 2,000	情報基盤センター利用負担金、メーリングリストサービス
職員旅費	1,400,000		1,400,000	1,639,330	△ 239,330	会議・研修会・講習会旅費、バス地下鉄私鉄カード
小 計	170,085,000	106,000	170,191,000	170,371,760	△ 180,760	
経常事業費						
時間外開館経費	18,200,000		18,200,000	17,781,333	418,667	外部委託費、学生補佐員
電子図書館事業	15,000,000		15,000,000	15,301,686	△ 301,686	LibGuides、SFX、X-server、人件費、媒体変換、選及、新聞記事文庫データ作成、新聞記事文庫校正、消耗品、古文書整理、その他
展示会経費	500,000		500,000	401,283	98,717	印刷、棚修理等、消耗品
資料修復経費	380,000		380,000	618,354	△ 238,354	学友会報修復・電子化(大学文書史料室と分担)
学生用資料費	59,220,000	300,000	59,520,000	59,511,038	8,962	業務改善経費から300千円
震災文庫資料費	500,000		500,000	379,261	120,739	
外国雑誌センター館経費	32,000,000	2,026,826	34,026,826	38,007,781	△ 3,980,955	教員等館内複写料金から予算追加
電子的情報基盤資料整備経費	4,000,000		4,000,000	598,239	3,401,761	残額は外国雑誌センター館経費の赤字補填
製本費	10,000,000	1,300,000	11,300,000	11,320,073	△ 20,073	業務改善経費から1,300千円
業務改善経費	5,300,000	△ 2,600,000	2,700,000	1,738,760	961,240	資産点検業務 製本費へ[1,300]、装備付納品分館長裁量経費へ[1,000]、学生用資料費へ[300]
附属図書館長裁量経費	3,000,000	4,914,223	7,914,223	8,475,281	△ 561,058	書庫環境整備(除湿器)、OPAC端末更新、自動貸出機更新、イベント関連、韓国海洋大交流等、空調修理、社会系改修、各所修繕・消耗品等、図書移動、安全衛生(壁固定等)
小 計	148,100,000	5,941,049	154,041,049	154,133,089	△ 92,040	
運営費＋事業費	318,185,000	6,047,049	324,232,049	324,504,849	△ 272,800	
電算機借料						
図書館システム	64,223,000		64,223,000	64,222,200	800	情報化推進経費[繰越対象外]※
小 計	64,223,000	0	64,223,000	64,222,200	800	
大学文書史料室						
管理運営経費	7,402,000		7,402,000	7,402,000	0	職員人件費、展示会経費ほか
小 計	7,402,000	0	7,402,000	7,402,000	0	
経常経費 計	389,810,000	6,047,049	395,857,049	396,129,049	△ 272,000	

事 項	平成26年度 当初予算額	平成26年度 予算(増減)	平成26年度 最終予算額	平成26年度 支 出 額	差 引	摘 要
臨時的経費						
教育研究基盤資料整備費	324,000,000		324,000,000	324,000,000	0	外国雑誌を含む電子ジャーナル及びデータベースの維持及び整備のための経費
SciFinder 利用者負担金	0	3,960,000	3,960,000	3,960,000	0	SciFinder受益者負担
設備更新費	0	12,800,000	12,800,000	12,800,000	0	人文科学図書館集密書架更新
防災管理点検	0	65,520	65,520	66,960	△ 1,440	防災管理点検業務
英語論文セミナー開催経費	0	150,000	150,000	150,000	0	
前年度繰越分		1,038,000	1,038,000	0	1,038,000	
小 計	324,000,000	18,013,520	342,013,520	340,976,960	1,036,560	
その他の臨時的経費						
収入確保インセンティブ経費	0	6,083,000	6,083,000	2,168,777	3,914,223	ILL費用計上2,168,777
同上館長裁量経費へ振替		△ 3,914,223	△ 3,914,223		△ 3,914,223	
教員等館内複写料金	0	2,026,826	2,026,826		2,026,826	
同上外国雑誌センター経費へ振替		△ 2,026,826	△ 2,026,826		△ 2,026,826	
小 計	0	2,168,777	2,168,777	2,168,777	0	
外部資金						
公益財団法人図書館振興財団助成金		950,000	950,000	950,000	0	データベース改修、資料修復
山口誓子奨学寄付金		338,832	338,832	338,832	0	山口文庫資料購入
小 計	0	1,288,832	1,288,832	1,288,832	0	
臨時的経費 計	324,000,000	21,471,129	345,471,129	344,434,569	1,036,560	

図書館セグメント 計	713,810,000	27,518,178	741,328,178	740,563,618	764,560	
				繰越額	763,760	※繰越対象外を除き1円単位(今年度のみ・通常は千円単位)

平成26年度 図書資料費実績

(附属図書館セグメント)

単位:千円

館 室 名	学生用資料				震災文庫 資料費	外国雑誌 センター	電子的情報 基盤資料整 備経費	教育研究基盤資料 整備費	計 ***
	予算額 *	決算額 *	比較増減	図書購入冊 数				** 電子ジャーナル等	
総合図書館	16,121	16,121	0	3,418			598	324,000	340,719
社会科学系図書館	9,125	9,348	△ 223	3,156	379	38,007			47,735
自然科学系図書館	12,344	12,343	0	2,118					12,343
人文科学図書館	2,760	2,777	△ 17	654					2,777
国際文化学図書館	2,649	2,649	0	352					2,649
人間科学図書館	3,530	3,539	△ 9	1,247					3,539
経済経営研究所図書館	987	986	0	213					986
医学分館	5,019	5,018	0	848					5,018
保健科学図書室	3,233	3,274	△ 41	1,064					3,274
海事科学分館	3,452	3,451	0	1,298					3,451
計	59,220	59,511	△ 291	14,368	379	38,007	598	324,000	422,496

注* 図書の他 雑誌・新聞・電子資料などを含む

注** 電子ジャーナル経費・外国雑誌購読料補填経費

注*** これ以外に、電子コンテンツ作成費 1,825,754円がある

(部局セグメント)

単位:千円

館 室 名	一般財源 図書資料費		
	館室備付 共同利用	研究室等 備付	計
総合図書館	1,203	1,456	2,660
社会科学系図書館	111,202	15,896	127,098
自然科学系図書館	4,454	28,048	32,502
人文科学図書館	10,585	5,669	16,254
国際文化学図書館	5,493	7,783	13,277
人間科学図書館	6,026	6,283	12,309
経済経営研究所図書館	20,000	173	20,173
医学分館	30,735	1,793	32,529
保健科学図書室	6,850	970	7,821
海事科学分館	6,704	666	7,370
計	203,256	68,740	271,997

(部局セグメント)

単位:千円

館 室 名	補助金等による購入				
	科研費	委任経理	受託研究	その他	計
総合図書館	137	0	0	3,960	4,097
社会科学系図書館	29,167	13,649	510	2,275	45,603
自然科学系図書館	10,056	0	960	4,218	15,235
人文科学図書館	12,101	324	44	63	12,534
国際文化学図書館	7,648	410	11	292	8,362
人間科学図書館	4,314	262	82	6	4,666
経済経営研究所図書館	744	432	0	3,136	4,313
医学分館	1,221	3,471	3,613	661	8,967
保健科学図書室	727	154	20	0	902
海事科学分館	1,379	0	49	312	1,741
計	67,498	18,705	5,291	14,926	106,422

単位:千円

合計
347,476
220,437
60,081
31,566
24,288
20,515
25,473
46,515
11,998
12,562
800,916

* 千円未満切捨のため、合計等は一致しません

平成26年度附属図書館活動日誌

<4月>

- 4 (金) 神戸大学ICTフォーラム <於：瀧川 参加：4名>
7 (月) 留学生オリエンテーション <於：六甲ホール>
8 (火) 入学式 <於：神戸ポートアイランドホール 出席：館長>
9 (水) オーダーガイダンス (理学部生物学科) <於：人文学研究科情報処理演習室>
10 (木)～18 (金) 図書館ツアーガイダンス <於：総合・国際文化学図書館>
10 (木)～16 (水) 図書館ツアーガイダンス <於：人文科学図書館>
10 (木)～11 (金) 神戸大学新任教職員研修
<於：理学研究科棟 講師：サービス課長・室員 受講：3名>
11 (金)～18 (金) 図書館ツアーガイダンス <於：海事科学分館>
11 (金) 兵庫県下教育機関事務系職員 (新規採用者) 研修
<於：理学研究科棟 受講：3名>
14 (月)～16 (水) 同上 <於：国立淡路青少年交流の家 受講：3名>
14 (月)～18 (金) 図書館ツアーガイダンス <於：社会科学系図書館>
図書館ツアーガイダンス <於：人間科学図書館>
15 (火) オーダーガイダンス <於：保健科学図書室>
16 (水) USACO アカデミックセミナー「ヘルスサイエンス図書館の新しい役割と機会：
米国の状況」<於：大阪第一ホテル 参加：サービス課長補佐(医学)>
18 (金) 兵庫県大学図書館協議会 役員会・企画委員会合同会議
<於：社会科学系図書館 出席：部長・両課長 他>
21 (月) オーダーガイダンス (理学部化学科) <於：鶴一キャンパス講義室>
21 (月)～25 (金) 図書館ツアーガイダンス <於：自然科学系図書館>
図書館ツアーガイダンス <於：医学分館>
21 (月)～5月31日 クイズラリー開催 <於：総合・国際文化学図書館>
23 (水) 近畿地区国立大学法人等職員採用図書系専門試験実施委員会
<於：京都大学 出席：部長、管理課長>
国立大学図書館協会近畿地区加盟館図書系人事担当課長・事務部長懇談会
<於：京都大学 出席：管理課長>
国立大学図書館協会近畿地区協会 総会
<於：京都大学 出席：館長・部課長>
25 (金) 図書館ツアーガイダンス <於：保健科学図書室>

<5月>

- 2 (金) 図書館ツアーガイダンス <於：保健科学図書室>
8 (木) 共通教育「情報基礎」授業開始
9 (金) 図書館ツアーガイダンス <於：保健科学図書室>
目録システム講習会 地域担当者説明会
<於：国立情報学研究所 出席：目録情報係長>
13 (火) 第1回附属図書館大学文書史料室運営会議 <於：自然科学系図書館>
外国雑誌センター館会議
<於：一橋大学 出席：部長・管理課長・雑誌情報係長>

- 15 (木) 社会科学系図書館見学会 (学内教職員対象)
社会科学系図書館本館改修に係る足立名誉教授の解説 (図書館職員対象)
大学図書館近畿イニシアティブ 能力開発専門委員会
＜於：大阪市立大学 出席：サービス課長補佐2名 (医学・海事)＞
- 16 (金) 医学図書館協会 近畿地区会例会
＜於：天理よろず相談所病院 出席：サービス課長補佐 (医学)＞
- 18 (日) 近畿地区国立大学法人等職員統一採用試験 第一次試験
- 19 (月) 第1回自然科学系図書館 図書委員会
第1回海事科学分館 図書委員会
- 20 (火) オーダーガイダンス (国際協力研究科) ＜於：第三学舎電算機室＞
- 20 (火) ～ 21 (水) 雑誌論文の探し方 (国内編・海外編) ＜於：自然科学系図書館＞
- 21 (水) 人事ヒアリング ＜於：本部事務局＞
オーダーガイダンス ＜於：海事科学研究科＞
- 22 (木) ～ 28 (水) 第1回社会科学図書館 図書委員会 (メール回議)
- 23 (金) 第1回人文科学図書館 図書委員会
新 Web of Science+ESI+JCR 操作説明会 ＜於：自然科学系図書館＞
兵庫県大学図書館協議会 企画委員会
＜於：兵庫県立大学神戸商科キャンパス 出席：部長・両課長 他＞
- 23 (金) ～ 29 (木) 第1回附属図書館研究開発室会議 (メール回議)
- 27 (火) 施設キャラバン ＜於：社会科学系図書館＞
第1回国際文化学図書館 図書委員会
第1回医学分館 図書委員会
- 27 (火) ～ 28 (水) 雑誌論文の探し方 (国内編・海外編) ＜於：社会科学系図書館＞
目録システム講習会 (図書コース) 講師ガイダンス
＜於：国立情報学研究所 受講：1名＞
- 28 (水) 「大学文書史料室」見学：恵泉女学園職員2名来室
- 29 (木) オーダーガイダンス (経済学研究科) ＜於：第三学舎電算機室＞
NII 学術情報基盤オープンフォーラム 2014
＜於：学術情報センター、参加：1名＞
- 30 (金) 第1回附属図書館 館長・副館長・分館長懇談会 ＜於：社会科学系図書館＞
第1回人間科学図書館 図書委員会
Lexis.com 操作説明会 ＜於：社会科学系図書館＞
日本医学図書館協会総会
＜於：日本科学未来館 出席：サービス課長補佐 (医学)＞

＜6月＞

- 3 (火) 雑誌論文の探し方 (人文科学編) ＜於：文学部情報処理演習室＞
- 4 (水) 第1回附属図書館 運営委員会 ＜於：社会科学系図書館＞
- 5 (木) ジャパンナレッジ Lib 操作説明会 ＜於：文学部情報処理演習室＞
オーダーガイダンス ＜於：海事科学研究科＞
- 9 (月) 国立公文書館・実務担当者による意見交換会・札幌市公文書館見学会
＜於：札幌市公文書館 出席：室長、室員＞
- 10 (火) 全国公文書館長会議・「国際アーカイブスの日」記念講演会
＜於：TKP ガーデンシティ札幌 出席：室長・室員＞
オーダーガイダンス (SciFinder 授業) ＜於：文学部情報処理演習室＞

- 10 (火) ～ 13 (金) 第2回人間科学図書館 図書委員会 (メール回議)
- 12 (木) SciFinder 説明会 <於：自然科学系図書館>
- 15 (日) 社会科学系図書館 停電のため臨時休館
- 17 (火) オーダーガイダンス (人間発達環境学研究科) <於：発達科学部>
近畿地区国立大学法人等職員統一採用試験 第1次試験合格発表
- 18 (水) 近畿地区国立大学法人等職員統一採用試験 機関訪問
<於：社会科学系図書館>
オーダーガイダンス (経済学研究科) <於：第三学舎情報処理教室>
公文書管理研修 I
<於：TRP 市ヶ谷カンファレンスセンターホール 受講：室員>
- 19 (木) 国立大学図書館協会総会
<於：国立オリンピック記念青少年総合センター 出席：館長・部長・
管理課長>
- 20 (金) 国立大学図書館協会マネジメントセミナー
<於：国立オリンピック記念青少年総合センター 出席：館長・部長・
管理課長>
- 23 (月) オーダーガイダンス (経済学研究科) <於：第三学舎情報処理教室>
- 24 (火) 第1回保健科学図書室 図書委員会
WestlawInternational 操作説明会 <於：社会科学系図書館>
- 25 (水) 第1回保健科学図書室 図書委員会
EBSCOhost 操作説明会 <於：社会科学系図書館>
大学図書館近畿イニシアティブ 能力開発専門委員会
<於：大阪市立大学 出席：サービス課長補佐 (海事) >
- 26 (木) ～ 27 (金) 大学図書館近畿イニシアティブ「初任者研修」 <於：大阪市立大学
研修実施要員：サービス課長補佐 (海事) 講師：情報リテラシー係長
受講：3名>
- 28 (土) 近畿地区国立大学法人等職員採用図書系 専門試験
<於：京都大学 出席：部長・両課長>
- 30 (月) ～ 7月2日 第1回附属図書館安全衛生会議 (メール回議)
- 30 (月) ～ 7月11日 大学図書館職員長期研修 <於：筑波大学 受講：1名>

<7月>

- 1 (火) 雑誌論文の探し方 (発達科学編) <於：発達科学部学部>
就職活動スタートセミナー (主催：キャリアセンター)
<於：六甲ホール 出講：情報リテラシー係>
学術情報ソリューションセミナー (サンメディア主催)
<於：グランフロント大阪 参加：1名>
- 2 (火) 新 Web of Science+ESI+JCR 操作説明会 <於：発達科学部学部>
第1回経済経営研究所 図書委員会
- 2 (水) ～ 4 (金) 近畿地区国立大学法人等職員採用図書系 面接
<於：社会科学系図書館 出席：部長・両課長 他>
西洋古典資料保存講習会 <於：一橋大学 受講：1名>
- 4 (金) 「大学文書史料室」見学：東京外国語大学文書館より1名来室
オーダーガイダンス (医学部保健学科) <於：保健科学図書室>
- 8 (火) 富士通大学図書館ソリューションセミナー

	＜於：富士通関西システムラボラトリ 参加：1名＞
	広島大学文書館設立10周年記念公開パネルディスカッション
	＜於：広島大学学士会館 参加：室員＞
9（水）	広島大学文書館施設見学会 ＜於：広島大学文書館 参加：室員＞
10（木）	オーダーガイダンス（医学部保健学科） ＜於：保健科学図書室＞
14（月）～25（金）	第2回自然科学系図書館 図書委員会（メール回議）
16（水）	第1回サービス系係長会議 ＜於：社会科学系図書館＞
	第1回附属図書館係長会議 ＜於：社会科学系図書館＞
17（木）	雑誌論文の探し方（保健科学編） ＜於：保健科学図書室＞
18（金）	「大学文書史料室」見学：出版文化社より2名来室
19（土）	オーダーガイダンス（経済学研究科社会人院生向）
	＜於：第三学舎情報処理教室＞
22（水）～31（木）	第2回海事科学分館 図書委員会（メール回議）
24（木）	第2回人文科学図書館 図書委員会
25（金）	兵庫県大学図書館協議会総会 ＜於：兵庫県立大学
	出席：館長・部長・両課長・管理課長補佐（社会）・企画係長＞
30（水）	大学図書館近畿イニシアティブ 能力開発専門委員会
	＜於：関西大学高槻キャンパス 出席：サービス課長補佐（海事）＞

＜8月＞

6（火）	教職員対象トムソンロイターデータベース（ESI、InCites）講習会
	＜主催：附属図書館 於：第三学舎情報処理教室＞
12（火）	サンテレビ、震災文庫取材
13（水）～15（金）	夏季一斉休業
25（月）～9月5日	筑波大学3年生1名インターンシップ受入（図書館実習）
	＜於：社会科学系図書館 総合・国際文化学図書館＞
27（水）～9月12日	第2回保健科学図書室 図書委員会（メール回議）
29（金）	第3回人文科学図書館 図書委員会

＜9月＞

1（月）	学内会計監査 ＜於：人文科学図書館＞
3（水）～5（金）	目録システム講習会（雑誌コース） ＜於：山口大学 受講：1名＞
4（木）～11（木）	第3回海事科学分館 図書委員会（メール回議）
5（金）	震災文庫見学：奈良県立大学附属図書館より2名来室
9（火）	セキュリティ（情報セキュリティ）研修 ＜於：瀧川 受講：1名＞
10（水）～11（木）	JUSTICE 版元説明会 ＜於：学術総合センター 参加：2名＞
10（水）～12（金）	目録システム講習会（図書コース）
	＜於：第三学舎情報処理教室 受講：4名＞
	図書館等職員著作権実務講習会 ＜於：京都大学 受講：3名＞
11（木）～18（木）	第2回医学分館 図書委員会（メール回議）
12（金）	ExLibris ソリューションデイ2014
	＜於：滋慶医療科学大学院大学 参加：1名＞
13（土）	日本建築学会大会出席者による社会科学系図書館見学
16（火）	社会科学系図書館見学：大阪府立豊中高校 PTA
17（水）	整理力向上研修 ＜主催：国立大学協会近畿地区支部＞

	於：京都工芸繊維大学 受講：1名>
18 (木)	学内会計監査 <於：人間科学図書館>
19 (水)	コーチング（課長級・課長補佐級）研修 <於：神大会館会議室 受講：管理課長、サービス課長補佐（海事）>
24 (水)	学内会計監査 <於：保健科学図書室>
25 (木)	「図書館機能強化プログラム」講演会 <於：金沢大学附属図書館 参加：1名>
25 (木)	「図書館機能強化プログラム」講演会 <於：金沢大学附属図書館 参加：1名>
26 (金)	第2回 SPARC Japan セミナー2014 <於：国立情報学研究所 参加：1名>
29 (月)	第2回国際文化学図書館 図書委員会
29 (月)～10月1日	第3回人間科学図書館 図書委員会（メール回議）
29 (月)～10月3日	漢籍担当職員講習会（初級） <於：京都大学 受講：1名>
30 (火)	学内会計監査 <於：社会科学系図書館> 京阪奈三教育大学図書館連携プロジェクト研究会 「大学図書館における学習サポートを探る」 <於：大阪教育大学附属図書館 講師：情報リテラシー係長>

<10月>

2 (木)～8 (水)	第2回社会科学図書館 図書委員会（メール回議）
3 (金)	留学生オリエンテーション <於：六甲ホール> 私大図協阪神地区協議会学習支援プロジェクト研修 <於：武庫川女子大学 参加：2名>
7 (火)～10 (金)	大学図書館職員短期研修 <於：京都大学 受講：1名>
8 (水)	拡大版オフィスアワー「テーマ：留学」 <於：人文科学図書館ラーニングコモンズ>
9 (木)	第2回附属図書館 館長・副館長・分館長懇談会 <於：社会科学系図書館>
10 (金)	就職活動スタートセミナー（主催：キャリアセンター） <於：六甲ホール 出講：情報リテラシー係>
14 (火)	第2回附属図書館 運営委員会 <於：社会科学系図書館>
16 (木)	オーダーガイダンス <於：海事科学研究科> ライティングセミナー「答案・レポートを見せる×報告する×書く」第1回 <於：社会科学系図書館ラーニングコモンズ>
17 (金)～11月16日	附属図書館資料展「つたえる・つながる：阪神・淡路大震災20年」第1期 <於：社会科学系図書館展示コーナー、震災文庫 主催：附属図書館> 就職活動スタートセミナー（主催：キャリアセンター） <於：六甲台講堂 出講：情報リテラシー係>
20 (月)～21 (火)	第4回人文科学図書館 図書委員会（メール回議）
21 (火)	明石工専より3名、各館のラーニングコモンズ見学 第3回 SPARC Japan セミナー2014（オープンアクセスサミット2014） <於：学術情報センター、参加：1名> 大学図書館近畿イニシアティブ 能力開発専門委員会 <於：京都産業大学 出席：サービス課長補佐（海事）>
21 (火)～22 (水)	雑誌論文の探し方（国内編・海外編） <於：自然科学系図書館>

- 22 (水) 「未来の図書館：図書館の新たなミッション.1
オープンアクセスウィーク・ワークショップ」
＜於：フロンティア館プレゼンホール 主催：附属図書館＞
- 23 (木) ～ 31 (金) 神戸大学史特別展「官立神戸高商物語
ー水島鏡也初代校長生誕150周年記念」
＜於：百年記念館1階展示ホール 主催：大学文書史料室＞
- 24 (金) 学生選書ツアー ＜於：ジュンク堂書店三宮店＞
兵庫県大学図書館協議会研修会 ＜於：関西学院大学 参加：7名＞
- 25 (土) 第9回神戸大学ホームカミングデイ
＜於：六甲台 社会科学系図書館・資料展・震災文庫 見学受入＞
- 27 (月) 新 Web of Science+インパクトファクター操作説明会
＜於：社会自然科学系図書館＞
年次計画等に関するヒアリング ＜於：本部事務局＞
- 28 (火) 就職活動スタートセミナー（主催：キャリアセンター）
＜於：鶴一キャンパス 出講：情報リテラシー係＞
- 28 (火) ～ 30 (木) 第2回附属図書館安全衛生会議（メール回議）
- 29 (水) 第3回保健科学図書室 図書委員会
ライティングセミナー「答案・レポートを見せる×報告する×書く」第2回
＜於：社会科学系図書館ラーニングコモンズ＞
- 30 (木) 資料展連動企画「その街のこども 劇場版」映画上映会
＜於：社会科学系図書館グループ学習室＞
- 30 (木) ～ 31 (金) NAIST 電子図書館学講座
＜於：奈良先端科学技術大学院大学 受講：1名＞
- 31 (金) SPEEDA 説明会 ＜於：第三学舎情報処理教室＞
- <11月>**
- 4 (火) 「大学文書史料室」見学：一橋大学より2名来室
- 5 (水) ～ 7 (金) 第16回図書館総合展 ＜於：パシフィコ横浜 出張：3名＞
- 6 (木) 第16回図書館総合展シンポジウム「大学の知の発信システムの構築に
向けて」 ＜於：パシフィコ横浜 スタッフ派遣及び事例報告：1名＞
- 10 (月) eol 操作説明会 ＜於：社会科学系図書館＞
関西学院三田アカデミックコモンズ見学 ＜6名＞
- 10 (月) ～ 12 (水) 近畿地区国立大学法人等会計事務研修 ＜於：大阪大学 受講：2名＞
- 10 (月) ～ 14 (金) トライやる・ウィーク
神戸市立上野中学校（2名） ＜於：社会科学系科学図書館＞
神戸大学附属中等教育学校（1名） ＜於：自然科学系図書館＞
神戸市立横尾中学校（2名） ＜於：人文科学図書館＞
漢籍担当職員講習会（中級） ＜於：京都大学 受講：1名＞
- 11 (火) 「図書館で就活情報を手に入れよう!」ガイダンス
＜於：社会科学系科学図書館＞
社会科学系図書館見学：追手門学院高等学校
- 12 (水) 日経テレコン説明会 ＜於：社会科学系図書館＞
「手作り POP の魅力と作り方教室」 ＜於：味覚糖 UHA 館 参加：2名＞
- 12 (水) ～ 14 (金) 西洋社会科学古典資料講習会 ＜於：一橋大学 受講：1名＞
目録システム講習会（雑誌コース） ＜於：福井大学 講師1名派遣＞

- 14 (金) 社会科学系図書館見学：和歌山信愛高等学校
大阪大学箕面キャンパス「るくす」見学 <5名>
関西大学コラボレーションコモンズ見学 <5名>
- 17 (月) 社会科学系図書館見学：兵庫高等学校
国立大学図書館協会秋季理事会
<於：東北大学 参加：館長、部長、管理課長>
- 17 (月)～12月2日 神戸大学史特別展ミニ展示「官立神戸高商物語
ー水島鎮也初代校長生誕150周年記念」
<於：百年記念館1階展示ホール前 主催：大学文書史料室>
- 18 (火) 雑誌論文の探し方(海事科学編) <於：海事科学研究科>
内閣府担当者による大学文書史料室現地調査
<対応：室長、室員、管理課長>
- 18 (火)～19 (水) 学内会計事務研修 <於：理学研究科棟 受講：4名(部分受講含)>
- 19 (水) 新 Web of Science 操作説明会 <於：海事科学研究科>
- 19 (水)～21 (金) 医学図書館研究会・継続教育コース
<於：聖マリアンナ医科大学 受講：サービス課長補佐(医学)>
- 20 (木) オープンアクセスコリア・リポジトリワークショップ2014
<於：韓国国立中央図書館 講演：部長>
- 21 (金) ハラスメント相談員研修会 <於：本部大会議室 受講：2名>
立命館大学「びあら」見学 <5名>
京都大学ラーニングコモンズ見学 <5名>
- 25 (火) ラーニングコモンズ見学報告会 <於：総合・国際文化学図書館>
- 25 (火)～26 (水) 国立大学協会近畿支部中堅職員研修 <於：理学研究科 受講：1名>
- 26 (水) 名古屋大学大学文書資料室シンポジウム
<名古屋大学 参加：室員>
- 25 (火)～26 (水) 国立大学協会近畿支部中堅職員研修 <於：理学研究科 受講：1名>
- 26 (水) 大学図書館近畿イニシアティブ 運営委員会
<於：大阪電気通信大学 出席：サービス課長補佐(海事)>
- 26 (水)～28 (金) 学術情報リテラシー教育担当者研修 <於：国立情報学研究所 受講：1名>
- 27 (木) 六甲台第二地区自衛消防訓練
<於：本部事務局 参加：自然科学系図書館職員>
研修会「図書館での学びをデザインするために」
<於：九州大学 参加：1名>

<12月>

- 1 (月)～15 (月) 第4回海事科学分館 図書委員会(メール回議)
- 2 (火) 大学教育推進機構FD・SDセミナー「学生による授業支援の可能性」
<於：鶴ヶ丘キャンパス 参加：13名>
- 2 (火)～5 (金) 韓国海洋大学校他への研修出張 <出張者：3名>
- 3 (水) 「図書館で就活情報を手に入れよう!」ガイダンス <於：医学分館>
「医中誌 Web・PubMed を使いこなそう!」ガイダンス <於：医学分館>
- 3 (水)～5 (金) 目録システム講習会(図書コース)
<於：国立情報学研究所 講師1名派遣>
- 4 (木) 神戸大学広報業務研修(第1回) <於：瀧川学術交流会館 参加：1名>
- 5 (金) メンタルヘルスマネジメント検定試験対策セミナー

8 (月)	＜於：瀧川学術交流会館 受講：管理課長、補佐1名＞ 国立文化財機構事務局長、社会科学系図書館・震災文庫視察 学校教育法等及び国立大学法人法の一部改正等に伴う学内規則等の整備に係る説明会 ＜於：本部事務局 参加：1名＞
10 (水)	医学図書館協会近畿地区例会 ＜於：大阪歯科大学 参加サービス課長補佐（医学）＞
10 (水)～12 (金)	学術情報ウェブサービス担当者研修 ＜於：国立情報学研究所 受講：1名＞
11 (木)	神戸大学広報業務研修（第2回） ＜於：瀧川学術交流会館 参加：2名＞ 京都大学図書館機構講演会 ＜於：京都大学 参加：3名＞
12 (金)	兵庫県大学図書館協議会研究会 ＜於：兵庫県立大学 参加：5名＞ 国立大学図書館協会近畿地区加盟館図書系人事担当課長・事務長懇談会 ＜於：奈良先端科学技術大学院大学 出席：管理課長＞ 国立大学図書館協会近畿地区協会事務連絡会 ＜於：奈良先端科学技術大学院大学 出席：部長・両課長＞
13 (土)	海事科学分館 高圧電気設備点検に伴い臨時休館 国立大学図書館協会近畿地区協会事務連絡会 ＜於：奈良先端科学技術大学院大学 出席：部長・両課長＞ ビブリオバトルシンポジウム2014 ＜於：立命館大学 パネリスト派遣1名＞
15 (月)	「未来の図書館：図書館の新たなミッション.2 大学図書館員のための「研究戦略・研究評価」セミナー （国立大学図書館協会近畿地区協会助成事業） ＜於：フロンティア館プレゼンホール 主催：附属図書館＞
17 (水)	第2回サービス系係長会議 ＜於：自然科学系図書館＞ 第2回附属図書館係長会議 ＜於：自然科学系図書館＞
18 (木)～19 (金)	神戸大学係長相当職研修 ＜於：人文学研究科 受講：2名＞
19 (金)	手書きPOPを作るワークショップ ＜於：総合・国際文化学図書館＞ 第3回国際文化学図書館 図書委員会
22 (月)～1月9日	第4回保健科学図書室 図書委員会（メール回議）
24 (水)	第1回図書館システム仕様策定委員会 ＜於：自然科学系図書館＞
24 (水)～25 (木)	所蔵図書及び雑誌の整理方針について指導助言のため出張 ＜於：九州国立博物館 1名派遣＞
24 (水)～1月29日	附属図書館資料展「つたえる・つながる：阪神・淡路大震災20年」第2期 ＜於：社会科学系図書館展示コーナー、震災文庫 主催：附属図書館＞
<1月>	
6 (火)～13 (火)	第4回人間科学図書館 図書委員会（メール回議）
7 (水)	文学部景観文化財学授業、社会科学系図書館本館見学
7 (水)～13 (火)	第3回自然科学系図書館 図書委員会（メール回議）
8 (木)	サンテレビ、資料展と震災文庫取材
9 (金)	第5回人文科学図書館 図書委員会
13 (火)～22 (木)	神戸大学史巡回展（東京）「官立神戸高商物語―水島鍊也初代校長生誕150周年記念」＜於：東京六甲クラブ 主催：大学文書史料室＞
15 (木)	文化庁長官、社会科学系図書館本館見学
15 (木)～2月22日	図書館利用者アンケート調査実施（回収期間）

- 16 (金) 人事関係事項ヒアリング <於：本部事務局>
東海新報社、震災文庫取材
センター試験に伴い13時で臨時閉館（保健科学図書館）
センター試験に伴い17時で臨時閉館（研究所、医学、保健を除く）
- 17 (土) センター試験に伴い臨時休館（医学分館を除く）
- 18 (日) センター試験に伴い臨時休館（社会科学系図書館）
- 19 (月) 第3回附属図書館 館長・副館長・分館長懇談会 <於：社会科学系図書館>
- 20 (火) 第3回附属図書館 運営委員会 <於：社会科学系図書館>
- 23 (金) 東日本大震災に関する資料整理ワークショップ
<於：プレゼンテーションホール 参加：4名>、
第4回被災地の図書館と震災資料の収集・公開に係る情報交換会
<於：プレゼンテーションホール 参加：館長、部課長他2名、
講演のみ聴講9名>
神戸大学プレゼンテーション研修 <於：工学研究科 参加：2名>
センター試験追試に伴い17時で臨時閉館（総合・国際文化学図書館）
- 24 (土) センター試験追試に伴い臨時休館（総合・国際文化学図書館）
- 27 (火) 神戸新聞、震災文庫取材
大学図書館近畿イニシアティブ 能力開発専門委員会
<於：桃山学院大学梅田サテライト 出席：サービス課長補佐（海事）>
- 28 (水) 国立大学図書館協会シンポジウム <於：名古屋大学 参加：5名>
- 30 (金) 平成27年度事業計画に関するヒアリング <於：自然科学総合研究棟>

<2月>

- 4 (水) 若手研究者のための英語論文セミナー（共催 丸善）
<於：プレゼンテーションホール>
- 5 (木) 監査法人による期中監査 <於：社会科学系図書館>
- 9 (月) 文書管理者・文書管理担当者研修
<於：理学研究科 講師：室員 参加：3名>
- 9 (月)～3月15日 神戸大学史巡回展（神戸）「官立神戸高商物語
ー水島鍊也初代校長生誕150周年記念」ミニ展示
<於：社会科学系図書館展示コーナー 主催：大学文書史料室>
- 10 (火) 情報リテラシー教育支援「情報基礎」授業打合せ
<於：情報基盤センター本館>
内閣府委託行政管理研究センター職員による大学文書史料室ヒヤリング調査
- 12 (木) 海事科学分館 院生と職員の懇談会
- 17 (火) 名古屋大学附属図書館より職員7名、社会、人文、総合・国際、医学、
保健の各館室見学
公立大学協会図書館協議会近畿地区協議会近畿地区協議会講演会
「コンテンツとツーリズムと図書館と」
<於：奈良県立大学 参加：1名>
- 18 (水) 第6回人文科学図書館 図書委員会
- 19 (木) コーチングフォローアップ（課長級・課長補佐級）研修
<於：理学研究科 受講：管理課長、サービス課長補佐（海事）>
レファレンス協同データベース事業フォーラム
<於：国立国会図書館関西館 参加：1名>

20 (金)	六甲台第一地区6部局合同・自衛消防訓練　＜於：兼松記念館＞
22 (日)	Tell-Net フォーラム 「阪神・淡路大震災のデジタルアーカイブ—今後の活用を考える—」 ＜於：人と防災未来センター　事例報告者派遣：1名＞
24 (火)	JAIRO Cloud の今後の運用モデルと利用料金に関する説明・懇談会 ＜於：キャンパスプラザ京都　参加：1名＞ 大学図書館近畿イニシアティブ　運営委員会 ＜於：大阪大学　出席：部長・サービス課長＞ 前期入学試験に伴い17時で閉館（医学分館を除く）
25 (水)	前期入学試験に伴い休館（医学分館を除く）
26 (木)	学位授与機構より2名、社会科学系図書館本館見学
27 (金)	機関リポジトリ新任担当者研修　＜於：岡山大学　受講：1名＞
<3月>	
2 (月)	第2回附属図書館大学文書史料室運営会議　＜於：自然科学系図書館＞
3 (火)	図書館利用者アンケート景品 iPad mini2 贈呈式　＜於：館長室＞
4 (水)	第2回経済経営研究所図書館　図書委員会
9 (月)	第3回教務・図書館・KAISER システム連絡会 ＜於：情報基盤センター＞
	第4回国際交流委員会　＜於：自然科学研究環＞
12 (木)	後期入学試験に伴い休館（医学分館を除く）
16 (月)	第1回神戸大学コスト削減取組プレゼン大会　＜於：六甲台講堂＞
17 (火)	国文学研究資料館拠点連携委員会　＜於：主婦会館　参加：1名＞
19 (木)	第4回国際文化学図書館　図書委員会　＜於：鶴一＞
25 (水)	神戸大学学位授与式　＜於：ワールド記念ホール　出席　館長＞
27 (金)	人間科学図書館　資料・物品移動作業のため臨時休館
	第4回附属図書館運営委員会（於：社会科学系図書館）
30 (月)	阪神淡路20年復興フォローアップフォーラム、 阪神淡路20年感謝状贈呈式＜於：兵庫県公館　出席：館長、随員1名＞